
異世界例闊路芸夢遊戯

naka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界例闊路芸夢遊戯

【Nコード】

N2710Q

【作者名】

naka

【あらすじ】

男がテンプレ異世界で、貰ったチートで魔王倒してきてね。と言われたので、テンプレ。貰った能力は難易度が高かった。

01 テンプレ

死んだら神様がいた。

その神様と話をしたら案外話のわかる良い神様だった。ゲームの能力くれるって言ったから多分いい神様だと思う。

あと別世界だけど生き返らせてくれるって。

魔王とかいうのを倒すのが条件で、魔王倒したら寿命まで自由に
して良いって言うし、この神様マジ神様。

死んだら貰った能力は無くなるけど、生き返らせる時に新しい能力をくれるって。

魔王倒したらもう生き返らしてくれないって。神様マジ鬼畜。魔王殺すまで生き返らせるってマジ鬼畜。

ウンコ野郎だよこの金髪糞豚野郎。

そんな事を思っているのが伝わったのか、不機嫌になられた神様から能力の説明もたいしてなく俺は魔王退治の舞台へといかされたのだった。

始まりは平野である。遠くに山も見えるし、森か林かはわからんが森林もちらほらと見える。

魔物がモンスターの姿もな。

青いゲル状の液体が草を溶かしながら這ってこちらに寄ってくる。予想外に速い。

だがスライムはスライム。所詮は雑魚。ゲーム能力を得ているこの私にとっては君は雑魚であるという評価だ。
スライムに向けて手を突き出し大きく叫ぶ。

「メラッ!!」

が、出ない。

「?ファイヤー」

やっぱり出ない。これは何という罰ゲームでしょうか。お恥ずかしい姿をお見せしまして、穴があったら入りたい気持ちです。ですけどスライムは待つてはくれない。

このスライムは飽きていた。毎日変わればえのしない青臭い草を栄養にする毎日。たまに昆虫が入るがそれでもうまくはない。

ごちそうの人間はスライムの天敵でもある。油を撒いて火を放てばそれだけでスライムは死す。

逆にスライムが人間に少しでも触れれば人間はすぐに溶かされスライムの糧となる。

なおスライムが子供一人吸収すれば三匹に分裂することが可能なぐらい人間はスライムにとってオイシイ食事なのである。

「サンダー、イオ、ヒャド、ギラ、ギラ、ザキザキザキ……ヴァー」

ジリジリと這ってくる未知なるゲル状の生物。本能は逃げると言っているが身体は別である。腰が抜けて力が出ない、立ち上がれないのだ。

アワワ、とパニックになりながら謎の言葉を発している彼の姿を安全な所で見ている人がいたならこう思ったであろう。

自分を魔法使いだと思い込んでいる残念な人がまたでたか、と。

男 死亡。

死因：スライムに溶かされて死亡。

能力：テトリスより、ミノを横一列に並べる事により、その列は消失する能力。

02 テトリスでは凸が好きです

クソツクソツクソツ！！死んだじゃねーかよクソツ！！本当に能力付与されてるのかよクソツ！！メラとかでねーよ、クソツ！！あの金髪クソ豚野郎！！能力でチートじゃあねーじゃねーかよ。どういうことだよクソ。

どうせ生き返らせてくれるのなら装備持ち物そのままにしてくれよ。全裸だぞ全裸。腹下すぞこの野郎。弱えんだよ腹。嘘だよ。強くねえんだよ腹。冷えるしよークツソ。

（神のお告げ：おお ゆうしゃよ しんでしまうとは なさけない）

……落ち着け。逆撫でされても冷静に、だ。これは錯覚だ。怒りのあまりに気が狂いそうになったただだ。幻聴幻聴。脳内に直接きた気がするから幻覚？どっちでもいい。落ち着こう。

ふう。しかしスライム如きに負けるし、能力わかんねーし、能力変っちゃったしさ、どうしようもねーな俺。全裸だし。

（神のお告げ：ちなみに同じ能力は二度と付与されませんので）

という事は自殺繰り返して赤魔導無双だあー、死んだらまた自殺して赤魔導無双だあーとか出来ねーって事なのかな。

（神のお告げ：厳密には違います。Aという作品の能力は一回で、Aの続編は一回。シリーズはそれぞれ一回ぽつきりということですよ。さらにわかりやすく例えますと3の白魔導の能力付与された貴方が死亡したら、3の黒魔導や他の能力が付与される事はありません。それは同シリーズの他作品の能力ですので同じ効力、結果がで

るとは限りませんのであしからず。

転職システムがある作品やキャラメイキングのある作品、仲間で役割、固有の技能がある場合については貴方が心の中で強く願えばチェンジ出来ます。戦士の貴方が魔法使いになりたい。そういう時にお祈りください。戦士の能力は破棄されて貴方は魔法使いになれるでしょう。また条件付きの転職などは無条件となっております。ですので能力は一作品につき一回となっておりますのでよろしくお願いします）

運ゲームですか。こんちくしょう。ランダム要素が非常に強めで戦略のいる進め方が必要だなんて、頭の悪い俺にはなんていうクソゲーだ。まずは自殺繰り返し返して強能力無双で進める所まで進むか、行き当たりばったりで何とかするか。どちらも能力わからない限り進めないけどね。とりあえずは衣類が欲しいです。

男 生存

能力：？？？

03 渡る世間は鬼ばかりな昨今

あれから落ち着いた俺は整備されていない道をトボトボ歩いていた。そう。それは飼犬と旅行に行つてうっかり飼犬を忘れて来たら、その飼犬が自宅に戻ろうと走っていて、その道中も最後らへんで体力も限界つてぐらいトボトボ歩いていたんだ。

そしたら遠くに馬車が見えるではないか。今の俺は全裸。間違はなく不審者だ。怪しすぎて常識で考えると無視するだろう。だけれども、相手がお人好しだったらどうするだろうか。きっと助けられるだろう。衣類を着ていたら怪しくて無視するとしても全裸だったらきつと助けしてくれるだろう。相手がお人好しだしたら。つまり全裸で都合がいい。全裸万歳だ。

相手が山賊や盗賊だったら？殺されるか無視されるか性処理の相手だろうね。男相手でも関係ないかもね。でも試す前からそんな事言われてもしょうがないでしょう、と俺は思う。

ポジティブに考えている俺は選択する。目立つ所で死にそうで死んでいないちよつと行き倒れの全裸の男をする事をな。

ゴトゴトゴトゴト……近づいてきてる。今だ必殺苦痛っぽい声。

「うぁー……ばぁ……うーんうーん」

「パパ、あそこに変な人がいるよ」

気がつかれた！！第一段階成功だ。さあ、早く俺を助けるんだ。ヘルプッ！！ヘルプミーだ。いざ、助けなさい。

「そうだね。もうそんな季節なんだね」

「うんっ」

ゴトゴトゴト……

行ってしまいおった。バーカバーカ助けなんかいらねーんだよ。消えちまえバーカ。

俺は馬車が遠くに行ったのをチラッと見て確認し、立ち上がる。無駄に土埃や草が身体についてしまったのを払い空を見上げて思う。友愛が足りないな、と。それからまた俺はトボトボと歩き始めた。何時間歩いただろうか。お腹も足も限界だし、疲労により下を見ながら歩いていた俺に少女の悲鳴にも似た声が聞こえてきた。俺は顔をあげると横転した馬車ともう一台の馬車。その近くに武装したおっさん三人とお嬢さんと転がっている死体が目に入ってきたではないか。

俺は駆出しおっさん三人の前に立ち塞がり叫ぶ。

「お嬢さん、ここは俺に任せてお逃げなさい」

恐怖で震える足で踏ん張り大きく水平に手を広げ、後ろのお嬢さんに手は出させはしないぞ、と。

周りの四人は驚いた。全員同じ様に驚いた。

（コイツ……丸腰で……全裸で……正気か……）と。そしてイカれた珍入者を観察する。

足が震えている。その振動が、小刻みに腰まで伝わっており、カクカクだ。それがどうも全裸であるという事とあわさって性的なメッセージにしか受け取れない。俺はお前らを犯すぞ、とおっさんらは受け取り、後ろのお嬢さんは俺一人で楽しませてもらうぜお嬢さん、と。

まともに考えるとおっさんらは丸腰の珍入者を切り捨て、目的を

果たせば良かったのだが、全裸の男の登場により混乱させられた為にしばらく固まってしまったのだ。
そして空白の時間がしばし生じる。

男 生存

能力：？？？

04 ワンモアセッツ！！

男以外誰も動けなかった。はしたない珍入者の出現により場の空気は一変し、混乱していた。

が、まずお嬢さんが動く。それは本能による行動だった。つまりは悲鳴をあげた。

「い、いやぁー変態ー誰かー、助けてー」

逃げようにも腰が抜けていて逃げ出せなかったお嬢さんだが、助けがきたと思ったら腰の動きが猥褻な全裸の男で、助けでもなくどっちにしる貞操の危機だと感じていた。このお嬢さん年頃であるから知識として知っていたのだ。知識としてな。

おっさんらはその声を聞いて思い出す。さつさと目の前の変態殺してお嬢さんをお持ち帰りしなければいけない事を。誘拐は目撃なく、手早く、出来るだけ証拠を残さないといった犯罪の基本が大事な犯罪である。男もお嬢さんも知らないが彼らは常習犯だからもし捕まれば間違いなく死刑が待っている。じゃあさつさと目的を果たそうとなった。

男は必死に魔法が使えますように祈っていた。でも期待はしていない。どうしようもないかもしれない。だけど後ろのお嬢さんはどうにかして助けなければならぬ。これはフラグだから。と足を震わせ思ってもいた。

「貴方たち、いま俺の事を変態。そう思ったでしょう」

「「「「「！？」「「「「」

「まあ、その考え、さ。俺は悪くないと思うよ。だって、みるからに丸腰の変態が格好つけて殺されにきた。そう思うのが普通だと思うよ。」

(((な、なんか語り出したー!!))))

「そう思うでしょうお嬢さん」

そういつて男はくると身を反転させる。全裸の男が下半身も震わせながら。

((い、いやぁー))

お嬢さんは両手で顔を隠した。これが夢で朝起きたら何時も通りの日常だとしても良いけど、夢で覚えていないでいつもの日常だと、もっと良いなお嬢さんは思った。

男はまたすぐに身を反転させおっさんらと向き合う。

「けどさ、そんな奴が無鉄砲にこんな事をすると思うのかな。どうだろう。普通はしないよね。普通は。だけど実際にその異常が目にある。どうしていいかわかんないよね。俺もそうなると思うよ。その斧で俺を叩き殺す？ 試す価値はあるけど俺はおすすめしないよ。だって見えてたもん。見えていてなお全裸でノコノコやってくる。さてどうするのかな」

「うるせーごちゃごちゃと。わかってんだぜその全裸ただのブラフだってよお。打開策あったら能書きたれずにさっさとやってるもんなんだぜ。黙ってな」

そついつとおっさんの一人が斧を振り上げ襲い掛かってきた。

「まてよ。聞こえるだろ？あの声」

「お嬢さまーどちらですかー」

「くくく、お前らはもう終わりなんだぜ」

「それがどうした。俺らがお前を殺す事も変わりねえんだよ。地獄で俺らが来るのでも曩待つてな変態野郎」

そして斧が男の頭に振り下ろされる。

男 死亡

死因：山賊に斧で頭を割られる。

能力：ファミリートレーナーエアロビスタジオより、エアロビクスがお上手になれる。

05 レッドアーリーマー？レッドアーリーマー？

俺は暗い夜空の中でただ一人平野にいた。どうしてこうなったのかと考えていたら思い出す。俺はおっさんの斧で頭を叩き潰されたのだという事を。

俺は立ち上がり近くの芝生になっている所に移動し腰を落とし、これからどうしようか決める事にした。

まず、今日は一日目である。平野に降り立った未来の英雄は雑魚キャラのスライムに溶かされ死亡。蘇生した俺は歩を進めた所でお嬢さんが襲われている所に遭遇したので英雄っぽく助けに入ったが返り討ちにあった。

そして二度目の蘇生をへて今にいたり途方にくれている。

やる事はまず能力の把握だがゲームといっても千差万別。最新スパロボ作品の能力が付与されたら万々歳だがシムシティの能力とかなったらどうしろって話なんだよ。

早急にしなければならぬ事は寢床の確保もしくは覚悟を決めて野営するかだ。野営といっても身一つで野宿なんだけどね。

「ファイヤ、メラ、ひのこ、ファイア……どれも違うか」

現代人であつた俺には火おこしの技術なんてない。サバイバル知識もない。出来ることは食う寝る遊ぶだ。ファンタジー世界で野営する時は焚き火の火をきらさないことが大事らしいが無い物は無い。

ふと思ひ出したが転職する時は祈れとか言っていた。ならば祈ろう。

（どなたでも良いので俺を魔法使いか黒魔導士にしてください）
祈ったぞ。何も変わってはいない気がするがどこか変わった気も

ある。

「ファイヤー、ファイア、メラ……波動拳」

でません。もしかしてと思い心のスティックを下、斜め、横と動かしてみただけで波動拳もでません。

つまりはストリートファイターでもドラクエでもFFでもないという事だ。

またよくわからない能力が能力わからないまま死ぬんだろうなと思うと鬱になりますよ。本当。

俺は芝生に寝っ転がり夜空を見上げる。灯もないから星がよく見えるぜ。理科でならったまんま有名な大三角形しか憶えていねーけどな。しかもそれはここには無さそうだしな。

あつ、ブーンブーンうるせー。虫が寄ってきやがった。そういや蚊って結構危険な虫なんだよな。びよ

男 死亡

死因：敵と接触

能力：魔界村より、武器が通常より効果的に投げれる。けれども敵もしくは敵意のあるものに一度接触すると装備は消失し、二度目は骨になる。装備がない場合は一度目で死亡。なお、残機なんてものは当然ない。

06 男は口で語れない

（神のお告げ：安定するまで夜間蘇生中断のお知らせ。ぶっちゃけ殺られすぎです）

神のお告げで目を覚ました俺は、また俺が殺されたっていうことを知った。ちよつと離れている所に落ちているあの骨々は、きつと俺だったのだろう。結構残酷なものだ。

三度目の生き返った時に気がつかないふりをしていたが、身体についていたアレも俺の一部だったのだろう。血も嫌だが脳ミソを、それも自分の脳ミソであろう物を生でみるって中々ないよね。骨もあまりないけど事故った時に突き出してきたりする事もあるだろうけどさ、脳ミソは……ねーよな。

で、骨だけど、さ。能力わかった気がする。魔界村シリーズだろうね。多分さ、虫が敵判定されて、全裸の俺は一気に白骨へとなつたんだらうね。もしかしたら違うかもしれないけど、さ。

魔界村シリーズの能力ってプラス面だけ見れば当たりだよな。結構さ。魔王にたどり着いても能力はシムシティの市長とかだったらさ、死ぬじゃん。魔王の城の隣に住宅地置いても勝てないじゃん。メルトダウンは俺もやばいし。

つかよ、普通能力が付与されるつったらプラスだけだろ！！チートだろ！！そうなんだろ！！神に選ばれたんだしよっ！！なんで余計なもんまで付与されるんだよっ！！四回ッ！！四度目だぞ戻つて来たのはよお。死ぬ度にこの平野に戻されるんだつたら、前に進まねえよ！！ちくしょう、ちくしょう。

うう……ちくしょー。俺は地面を叩いた。痛いけどまた地面を叩く。叩いて、叩いて、叩く。地面を叩くという行為は無駄な行為だ

と理解していたが、何かにあたらなければ気が済まなかった。手の皮が破れて痛いけれども何度も何度も叩いた。

そしてやめた。地面には俺の血と心の汗があった。

「もし、君どうしたのかい。賊にでも襲われたのかい」

俺は四つん這いのままばあっとしていたらしい。そのために近くに馬車が来ていたのをこの、

おそらく馬車の持ち主の人に声をかけられるまで気がつかなかった。

「はい（どなたですか）」

って、ええ！？はい、って一言も俺は言っただけ。

「そうですか……お連れさんは」

「いいえ」

「……それは……お気の毒に……」

そういつておじさんは馬車の荷台の方に近寄り、中に一言二言声をかけると、衣類を持って俺のところに戻ってきた。

「寒いだろう。これを取りあえず着なさい」

「はい」（……ありがとうございます。本当にありがとうございます）

俺はおじさんに心の中で礼をいって衣類を受け取った。鼻と目か

らも心の汗が出ていたような気もするが気のせいだと思いたい。
とりあえず俺は全裸ではなくなった。

男 生存

能力：ドラクエシリーズ？

07 旅人は電気ウナギの夢をみない

俺の素敵な「はい」「いいえ」ワークで親切な旅行帰りのおじさん一家の馬車に同乗させてもらえる事になった俺はそこそこ大きい街に下ろしてもらったのだ。道中？気にするな。俺は気にはしない。そして俺はこのそこそこ大きい街ネスの入り口にいるのだが、俺の素敵な「はい」「いいえ」ワークにも一つ欠点がある。それはどうしても会話の主導権を得る事が出来ないという事だ。

これがゲームの村人Aとかなら「ここは 村人です」とか頼まれなくても勝手に言うが、ここは現実。話しかけられてはい、いいえしか言えない奴がどうして村の名前をきけようか。否、きけまいボディランゲージを駆使しても伝わらないだろう。何がしたいんだこいつはと思われるだけだ。

俺は門で小一時間は格闘した。俺の後ろにイライラした人の列が出来ても、そんな事は知った事ではない。俺は、街に、入りたいんだ、と。お前らはもう少し待っている、と言いたいが残念ながらそれを話せていたら俺は中に入れているか、入街許可が下りず門からは離れていただろうから列はどっちにしろできていなかっただろう。とにかく俺は頑張った。

場所を入り口前から近くにある小屋に移してさらに格闘。絵で街に入りたいんだと記しても伝わらない。俺は絵心ある方じゃねーけど下手じゃあねーんだよ。

っていうか、こいつら理解してるだろ。でも怪しいからわかんねーふりしてるんだろッ！と頭に血がのぼった俺は俺の黄金の右を振り抜いてしもうた。うん。目の前の机を挟んで向かいに座る門番兵さんに。これには仕掛け人もターゲットもビックリ。あともう一人の門番兵の兄ちゃんも。

それから彼は彼らはプロだった。もう一人の兄ちゃんの方が飛びかかってきて、やっちまって啞然として立ちすくむ俺を鎮圧後に捕縛して鉄格子へinされたお。右の頬も左も痛いです。それに寒いし暗いし臭いし。

仲間が入れば、イベントが起きて助かるのだろうけど、現実だし、そも仲間がいないロンリーウルフのおいらには助けはこないのさ。

次の日。おいらは処刑されました。

「出る」

「はい」

釈放かと期待する俺。

「ついて来い」

「はい」

「止まれ。そこに穴を掘る道具がある。2M程の人が入る穴を掘れ」

おそらくゴミ穴であろう穴を掘る俺。

「はい」

中庭で穴をほらされた俺。

「よし、良く掘ったな。じゃあさよならだ」

「いい……」

兵士はそう言うと、腰につけた剣を抜き、一閃。俺は胴体と頭部が分離した。

俺が最後に思った事は、ちょっとお前待ってくれ、だった。

男 死亡。

死因：胴体と頭部が分離したことによるショックと出血、その他もろもろ。

能力：時空の旅人より、はいかいいえでしか喋れないし、選択を間違えると死亡フラグが多くなる。

08 餓死するのはトルネコだけじゃない

ヘイ、あのサイコーにいかしたクレイジーファツキン野郎どもに俺は首チョン斬られ、とつてもイカしたこの平野に戻ってきたぜ。帰巢本能ってやつなんだぜ、これ。テストに出るから覚えておきなよ。

俺の衣類がまっ赤に染まってるのは流派東方不敗関係ないんだぜベイバー。三倍でもないんだぜ。これは俺の血、いわゆるブラッドっていうヤツだ。厨的に言うと、『血液凝固タイプ〇』この技が繰り出されたが最後、〇型の俺の血液が固まるッ！なんか違うけどそんな感じで、俺のせつかく頂いた布の服が悲惨なことになっちまっただ。

関係ないけど原始時代とか除けば、布の服ってあるけど大抵の服は布だよな。絹も木綿も布だよな。鎧とかは別としてさ。化学繊維とか紙の服とかもあるのかしらん。

俺は大の字になって寝転び考える。

疲れた。これは一種の呪いで俺はこの平野で生き死にを繰り返すのではないかと思ってしまう。前に同じ事をした。

つまりはこの道は前に通った道だという事だ。先に進もう。俺はすぐに立ち上がり、また道をとぼとぼと歩き出した。

俺壮絶死亡記録大全集とか記したらもうかんねーかなと思う。『週刊 死亡記録』とか。オマケは俺の白骨。全号集めると俺の骨組みが出来て、初号は870円の所を290円で大腿骨付き。……何回死ねって事だよ。何つつて。

……はあ。もうさ、ネタがないのさ。始めは能力付与されるって事で興奮してたけど、さ。結構な死に方で考えるというか道中の暇潰しがもうないのさ。行き交う人もあまり見ないというか俺は二組

しか見ていない。という事はここはあまり使われていない道なのかもしれないし、元々行き来をする事が少ないだけなのかもしれない。どっちなのかは解らないし、両方とも違うかもしれないが俺は知的人間ごっこをして、脳内彼女に

「すごい。俺さんて何でも知っているのね」

「いやあ。それほどでも」

「惚れちゃいそう。ううん、あたいあんたにフォーリンラブなのよ」

「まいったなあ」

まんざらでもない俺はそのまま彼女と……

という暇潰しをしたかったただけなのだから。正解が何であろうと脳内彼女と俺はラブラブなんだよ。脳内充実してますからリア充にも劣ってません。むしろ俺の脳内充実の方が充実ぐあいで優ってますから悔しくも何ともないですよ。

お腹が空いても食料のない俺は我慢して歩いていたけれども、俺はついに空腹にて倒れる。無念。

男 死亡

死因：空腹。餓死。

能力：元祖西遊記スーパーモンキー大冒険より、水と食料が一定のラインまでさがると死亡する能力。

09 上上下下左右左右B A

平野に戻って来た俺は、飛んで向かってくる虫を手で払いのけようとして、数回振ってみたのだが飛び回る虫ちゃんにはあたらない器用に、小馬鹿にしているかの様に虫は羽音うるさくしながら近寄ってきて、その虫が俺の手に触れたか時、俺は爆発していたんだ。飛び散っている肉片はまたもや俺だった物だった。

男 死亡

死因：敵と接触した事により破裂

能力：グラディウスより、弾やミサイルが出せたり、オプションがつく様になる。どこから弾を出すのかって？言わせんなよ。

俺はむくりと起き上がり身体についた肉片を払おうとした所で気がついた。右手がない。

暫時、啞然としていた俺だったが、全てを理解した時、もはや俺の心に雲一つない。

「勝てる……勝てるんだ」

右手のロックバスターを構え、街の方角へ全力疾走する俺、その目に光る涙は悔しさとは無縁の物だった。

翌日、平野でティウンティウンしている俺が発見され、ヨシムラとムラタが病院内で静かに息を引き取った。

男 死亡

死因：ティウンティウン

能力：ロックマンより、ロックバスターやボスの能力が使える。

俺は平野で以下略。

右手を見るとロックバスターの銃身はない。くそ、Mビームでさくさく進んでいたのに、くそ。まわりつく羽虫クソ。あたり判定おかしいんじゃないか、クソ。一步進んで二歩戻るってレベルじやねーぞクソ。何だよクソ。

本当にクッソ、この景色、見飽きたっんだよクッソ。他力の一回だけじゃねーかよ街行けたん。クッソ。どんだけウンコ野郎なんだよクッソ。イライラする。クッソ。

「もし……そこのお兄さん。お困りかね」

「あぁー」

俺が話しかけられて後ろに振り返ると、そこには金髪でバッファローマンの様な角を頭から生やした幼女とえらく青白い顔で真っ黒のコートを羽織った銀髪のお嬢さんがたっているではないか。どういう組み合わせでこの様な人外 & a m p ・不健康コンビが俺に話しかけてきたのかは知らないが、どうせ死んでも生き返るし、物盗りでも取られて困る様な物は所持しておらぬのだ。

「あぁ、街に行きたいのだが、行けなくて困っている」

俺がそう言うと、彼女らには言っている意味がわからないという顔を両者ともしていた。考えてみればそうだ。街にないれないのなら何か訳有りなのだと思うが、街に行けない者となるとどういう事なのかと考えてしまうだろう。なに、道沿いには看板があるし、この道一本だからよっぽどのことがなければ迷う筈もない。空腹で動けなさそうには見えないし、物盗りにあつたにしては元気だ。

「そ、そうか……この先を道沿いに行けばここいらでは一番大きな街に行けるぞ」

幼女は戸惑いながらそう言った。

男 生存

能力：？？？

10 心に愛がなければハリケーンミキサー

俺は馬車の荷台に積まれている木箱の中で息をひそめ体育座りをしている。残念なのはこれが段ボールではないという事だ。

あれから俺は彼女らに魔王退治は伏せて事情を話した。といっても面倒だから記憶喪失という設定で街にはいれな―い、と嘘混じりだったんだけどね。それでも嘘を信じてくれたのか、訳有りと察して深く聞かなかったのかは解らないが、親切にも彼女らは「それならしょうがない。馬車にお乗りなさい」と誘ってくれたので喜んで乗って美少女と美不健康さんと素敵トークしながら街近くまで来て木箱に入れられて今に至る。気分は前世の隣の国の人なんだよね。

なんで魔王退治を伏せたかっというところ、彼女らが実は魔王の配下だったら嫌じゃん。あのロングホーンでプスツと刺されるよね。

それからかなりの時間が経過した。俺は街近くで木箱に入った。それからずーっと木箱の中にいた。だから知らなかったんだ。俺が街の片隅に、開けてやって下さいと書かれていたらしい木箱の中にいたなんて。俺は捨て人間ですか。

親切な人に解放された俺はやっぱり会話が出来ず、親切な人に手を引かれ教会へとやってきた。中に入ると神父さんが説法でもしていたのか日曜参拝なのか並べられた長椅子には人が沢山座っている。親切な人に手を引かれるままに空いていた入り口近くの長椅子に座り、何言っているのかわからない話を右耳から左耳へと通していた。話も終わって、いた人全員が立ち上がり、親切な人も立ち上がったので俺もそれに習い、親切な人の真似をして奥にある聖像に深々と礼をする。心の中では、脳内ぼうけんのしょーに記録しておく。やっぱり記録していたら教会だし、流石に死ぬ度に平野って事はな

いと思うんだよね。

（神のお告げ：しっかり記録しました）

OKだ。うん。正解だと思う。あとは死んでからのお楽しみなんだよね。死にたくないけど。

（神のお告げ：ボーナス『現地言語』が付与されます）

脳内お告げからそう告げられた時、そこから俺の脳内のどこかにあるスイッチが切り替わったのか、つい先程まで全くと言って良いほどに理解出来ていなかったこちらの言葉がドンドンと理解できていけるではないか。これは実に素晴らしい。素晴らしいぞ。こんなに嬉しい事はないんだ。

場も弁えずにはしゃいでしまった俺を親切な人がニコニコと眺めていた。

男 生存

能力：？？？

特典：『現地言語』

11 ハードボイルドによろしく

親切な人と無事会話を出来るようになった俺は、さっそく親切な人にお礼を言った。ありがとうありがとう、と。親切な人はニコニコしながらついて来いと言い教会の奥の部屋に行ったので、良いのかなと思いついて行く事に。

奥の部屋にあったと思われる隠し扉をさらに奥に進み、隠し部屋にある隠し地下部屋の入り口を下った先に、どうかんがえても教会にはふさわしくないとされる武器庫。

「アナタ、ワタシに、オンガアル。ワタシ、オンガエシ、モトメル。コレ、ヒク。するト、ダイバクハツ。コパミジンよ。オマエ、コレ、あっちデおまえ、ヒク」

俺は大きく胸をたたき、彼の手から両手で爆弾を受け取る。

「わかった。任せておけ」

俺は受け取った爆弾を慎重に床に置き、服を脱ぐ。そして開放された俺は両手で爆弾を抱きかかえ彼の指示した所へ、突撃した。

「アツ、マツ、マダイウこと……マジカヨ」

男 自殺

死因：爆発による

能力：松本亨の株式必勝学より、株式に強くなる。

俺が目を覚ますとステンドグラスの彩鮮やかな色調がお出迎えし

てくれる。朝の爽やかな空気を肺に送り込み、起き上がる。窓からは優しい朝の日差しがふりそそいでいる。今日も良い天気だぜ。俺は昨日の武器庫に置いてきた服を取りにそちらへ向かうと、朝の爽やかな朝の時間には似つかない悲鳴が聞こえてきた。

「イイイヤアー！ー！へ、へ、変態ツイイー！？ イイイヤアー！ー！ー！」

俺が悲鳴に発信源である後を振り返るとそこには若き迷える神の子羊ちゃんが啞然とした表情で俺を見ていた。まったく俺も罪作りの男だぜ。惚れられちまったな。

「お嬢さん。俺に惚れたら……ヤケドすんぜ」

「……変態イイイヤアー！ー！」

子羊ちゃんは花の入った花瓶を俺に投げってくる。俺はやれやれ、手荒い歓迎だな。でも俺は大人だ。受けとめるさ。それが大人つて…… もんだろ。

花瓶が息子に直撃し、俺は死んだ。

男 死亡

死因：急所に花瓶がぶつかったことによるショック死

能力：探偵神宮寺三郎 新宿中央公園殺人事件より、推理力とハイドボイルド力がUPする。

俺は起きて下を隠す。いかん。さっきまでの俺はいつたい何をしていたんだ。俺は曖昧な笑み浮かべながら、

「ごめんなちゃい」

と謝り、可哀想なシスターに背中を向けて、服を脱ぎ捨てた場所へダッシュした。服だ。服を着なければ俺は、俺は変態になってしまう。

この時、俺は気がついていなかったのだ。教会にあのような武器庫がなぜあるのかを。

男 生存

能力：？？？

12 爆裂地獄の皇太子

服を回収した俺はそのまま入り口へと戻り、啞然としていたシスターに目もやらずに玄関から走って出て行った。そして貧民街の片隅を臨時の住まいとして、配給を受け取り食べてやる作業を行い食いつないでいる。

それもそろそろ限界が近づいてきていた。先輩である自称落ちぶれ貴族のハクシャクさまから熱っぽい視線が送られてきており、彼の眼は例えるなら、サバンナで生き抜いてきた百獣の王の嫁みたいな眼だ。それが俺の尻を捉えて離さないんだ。おいおい。

俺は勇者さまで、俺の尻は排泄専用何だぜ。絶対に許してはならないんだ。だが、無力。圧倒的無力な存在なのだ俺は。立ち向かって勝てる要素はない。負ける。俺の尻は彼の猛獣に屈服させられてしまってもいいのだろうか？否。断じて、否である。

そんな事は許される筈がない。俺は、俺が、俺であるかぎり、俺の尻とまだみぬ未来の嫁らと未来の家族を守らなければならないんだ。しかし、いくら勇者であつても今の俺は配給品を食べる作業で生きている無力な未来の勇者だ。相手は歴戦の猛者ハクシャクさま。勝てる要素はない。

だから俺は引越した。勝てなくてもいい。俺は自分の尻が無事ならそれで良いんだ。そもそも勝つ必要なんてないんだ。勝つたから尻が無事なんではなくて、負けないから尻が無事なんだ。それで、良いじゃないか。たとえ配給が手にはいらなくなっても、さ。良いんだ。良いんだよ。クッソ。

俺は目許に光流れるきらめきに気がつかないフリをしながら、今日からのキャンプ地となる町外れの森に

来ていた。なんだか森がざわめいている感じがしたが、案外きのせいだよなと思いつながら寝床の魔法シートさんをひいてみると、

13 今夜も一人

「おい、その女。そう。その金切り声をあげているお前だ」

我が輩は立ち上がり、また啞然とこちらを見ているシスターに指をさす。失礼は承知の上だ。だが我が輩はだな、サンバのリズムにはサンバの、阿波踊りのリズムには阿波踊りの。ウンコにはウンコの、と相手にあわせる者だ。つまりこのシスターは我が輩から見たらそれなりの奴だということだ。

シスターはようやく金切り声を止めたと思ったら、こちらを見てまた金切り声をあげだしたではないか。おいおいどんだけお前は叫びたいのかと。要求不満なのか此奴は。

「ヘンタアアアイイイー！！いやアアアアーツ！！」

うるさい。常々うるさい女だと思っていたのだがやっぱりうるさい。といっても二回目なのだが、その短期間で二度ともうるさいのだから普段もさぞやうるさいのだろう。我が輩自身は彼女に何の恨みも悪意も持つてはおらん。だがあんまりにもやかましい。

「ヘンタアアアイイイーがあああ、いるうううのおおおー、イイヤアアアー」

温厚で忍耐力あると思う我が輩もこの金切り声には流石に我慢ならぬものがある。そういう奴はどうしたらいい。殺してしまえ。どうしたらいい。殺してしまえ。我が輩の心の声もそう言っている。

先日、我が輩は死んだ。後は何回死んでも同じである。

「お前を蠟人形にしてやるッ！！」

「…………い、イイヤアアッ！！変人ッ、頭おかしい人だぁッ、イイヤアアッー！！」

「運が良かったな。今日はどうも魔力が足りぬらしい」

世を忍ぶ仮の姿であるから、どうも魔力の調節がうまくいかないっぽいのだ。これに考えられる要因はやはり魔界とこの地の重力の違いが大きな原因なのだ。最近になって我が輩が悪魔なのだと自覚してから時間があまり経過していないゆえに、重力の違いを克服するにはやはり慣れが必要なのだ。こればかりはどうしようもないことなのだ。

「ぬはははは、お前は蠟人形にしてやらぬ」

我が輩はそう言っただけで教会を後にしようと思い、ゼウスの哀れな下僕に背を向けたのだが、その背中にだ、ビシャッ、と何か水のような物をかけられたかと思うと、背中がぁー、焼けるようにいー、灼熱だ。熱いぞぉー糞ッ！！俺はのたうちまわり、背中を床に擦り付け、熱みを取り除こうとするも、そういうものではないこの背中の苦痛は消えはしない。のたうちまわる俺を睨むように見ている哀れな下僕が片手に持つ小瓶。それはきつと我が輩にはとても有毒なものだったのだろう。黄色い聖水ではない、普通の聖水だろう。

男 死亡

死因：聖水をかけられた事で、消滅

能力：聖飢魔？ 悪魔の逆襲より、悪魔っぽくなりミサが行える。

14 ゴロゴロ

何だか変な夢を見ていたか、とち狂っていた気分だ。羞恥心でいっぱいの俺はウザシスターに見つからぬようにこっそりと教会を出たのだが、その入り口にはエキサイトバイクと書かれた札とバイクが置いて合ったので、今回の能力はこれかと思い、札を剥がしバイクに又がる。

知識としてはうる覚えであるが、たしかアクセルは右ハンドルである。グリップを握り、まわす。うんともすんとも言わない。そりゃそうだといっていた鍵でエンジンをまわし、さあ回そうとした所で、脳裏にウィリー走行みたいに前輪が浮いてしまう光景がよぎる。じゃあちゃんとしようと思い、思いバイクのタイヤ両輪を地面と接地させ、ブレーキを数回握りながら前後に揺らしたり、ウィンカーを点灯させてみて、とりあえず大丈夫だろうと、そこでゆっくりとグリップをまわす。

すると、ゆっくりだが動いた。ならば、ともう少し深くまわすとそれに比例してゆっくりとスピードが上がってゆき、俺はバイクに慣れていく。

といってもここは街中である。素人がおっかなびつくりで運転しているのだ。そんな俺だから出せても10km/h→20km/hで、それで曲がったり人を避けて走行するのが現状で一番安全なのである。それでも歩行よりは断然速いのだ。すれ違う街の人は現地にはない二輪の謎の鉄の馬とも言っべき物にまたがっている俺を奇異の目で見ると、でも俺はそんな事は気に出来ない。

俺は風になった。野を走り抜け、坂を下り、関所を駆け抜けて行

く。どこまでも、どこまでも、ピリオドの向こう側へと行ける気がした。小高い丘をフルスロットルで飛び越え、着地に失敗して俺は死んだ。

男 死亡

死因：ごろごろ

能力：エキサイトバイクより、ライダーになる。

実に惜しかった。あの丘を越えた向こうに魔王の本拠地がありそうなのがしたんだけど、実際禍々しい城が見えていたし、だからこそ死んでしまったのは実に残念だ。

今回の死亡経験は実に有意義であつた。だいたいの方角や距離がわかったのだから次に役にたつし、能力によつてはその能力に必要な知識と物が用意されるということがわかった。ロックマンではロツクバスターに片腕が変化したから、そうなるだろうなと思つていても、変化はすれど物品は現地調達しなさいね、という事もありえるしね。

となるとコントラとかだと結構嬉しいね。でもコントラは防御面が弱いんだよな。一発即死はキツイよ。似た系統の魔界村の方が防御面では優れているけど、火力が足りないよな。やっぱり対魔王戦だけ考えると、ロツクマン系が嬉しいね。

男 生存

能力：?????

15 アタック

生き返った俺はウザシスターの金切り声を背に教会を後にして、街の広場にあるベンチに座って考えていた。

とりあえず次の目的地はあの暗黒城であるが、徒歩や馬車で行くにしる金が必要である。無一文の身であるから労働が必要であるのだが、いかんせん俺の身体は時にガラスの身体となる。すると異世界冒険物の定番である魔物狩って金銭を得るのは難しくなる。

ライフ制ゲームの能力だったら良いが、シューティングだったら敵と接触して即死なんだ。嫌すぎる。それにポートピア連続殺人事件とかどうしろって話だ。そもそも自分の現在付与されている能力がわからないって本当にムリゲーです。ありがとうございました。

「南門から、ま、魔物の襲撃だー逃げろー」

俺が落ち込んでいると、大きな道の向こうからまるでテリーマンの様な解説口調が聞こえてきたではないか。魔物の襲撃とかそれなんてイベントですか。

俺は他人事の様に南門のあるだろう方を見ると押し寄せてくる人の波と魔物の列。抗う術はない。逃げましょう逃げましょう。軟弱者といわれ、うおっ、押すな、押すなっ、押すな。あばっ、痛い、いたたたっ、あがつ、ちよっ、踏むな、いるから、アンダーにヒューマン、道路に俺がオンしてるから、あぎゃ……

男 死亡

死因：圧死

能力：バレーボールより、腰がエロす。

教会が燃えてました。息が……ツライ……熱……痛い……

男 死亡

死因：焼死

能力：マジカルドロピーより、ロックマンっぽくなる。

草原で目をさました俺はゆっくりと立ち上がり、衣類についた泥や砂埃を手で払う。ある程度綺麗になったところで俺の頬に一筋の涙がつたう。何でだろうか。頬に付いた後をたどって行くと俺の眼球が格納されている所に着く。なるほど。これは俺の涙なのだ。

圧倒的理不尽。俺がいったい何をしたのかはわからないが、カイジさんよりも圧倒的理不尽な自体に直面している。カイジさんなら圧倒的閃きにより打開できるのであるが、自分にはそんな閃き降りやあしません。

俺は草原をまたとぼとぼ歩きだした。

この道は街へ向かう道。逆もまたしかり。僕の知らない道の向こうで、僕の知らない街が、まだ見ぬ僕を待っている。行こうよ、おいでよ祖父マップ。

良いポエムが出来たと歩きながら自画自讃していた俺は道の脇に隠すように放置されていた板の様な物を見つける、俺はそれに近寄り眺める。それは四角いです。厚みはありません。土器や金属、化学物質で作られた物でもありません。私はそれが何で出来ているのか知りません。おそらく私の知らない物質でそれは出来ていると思います。トム。

男 生存

能力：？？？

16 カレーが飲み物なら、ちくわはストローでござるよ

うん、アレだからな。うん。あのアレがアレでああだからな、うん。俺ア、アレだからな。

男は腕をグルグルと回しながら街へと続く道を疾走する。憎きアレをアレするために。その姿はまるでメスカブトムシの如き姿であり、男ことメスカブトムシは街へと走った。

街はそろそろ全滅しそうなアレが、男が街についた時の事である。アレがあれであれなのだ。まあ、あれだからな。

メスカブトムシは腕をグルグルまわし自慢の右腕でなぎ倒し、倒れたアレをひっくり返し素早くアレする。スコープオンデスロックである。害獣の下半身をキリキリとアレし、絞りあげる。害獣の身体が直角に曲がるだろう、その時だ。

「コラッ！！害獣タココラ。いいか、蹴るなよ。蹴るな、蹴るなよ」

メスカブトムシの願いは届かない。害獣はスコープオンデスロックをとこうとしていたメスカブトの顔面にアキラ氏が放ったかのごとき強烈なキックをたたき込まれ、メスカブトは息を引き取った。

男 死亡

死因：頭部損傷

能力：新人類より、長州力にアレ

俺は蘇生すると立ち上がり街へと向かった。人に一回、モンスター

ーに一回殺されておいて、馬鹿の一つ覚えの様に、なぜまた街へと向かうのかと言うと、それが本能であり、宿命であり、DNAに刻み込まれているんだ。俺はそれしか出来ない不器用な男だから。

男はチヨイ影あり男ごっこをしながら街へと進んでいた男は街の門があつた所の前で立ち止まる。

「ひでえ事しやがるござる」

男があのだ殺された詰所も、リキラリアトで重戦車の様に敵をなぎはらいながら爆進したこの場所が今ではそこいらが瓦礫で大変だ。男は怒りに身を纏わせながら歩を進め、街へと入る。街の中も悲惨な状況であつた。街路樹は根元から折れ、家は倒壊し煙がちらほら見える。

男は辺りを見ながら進んでいたから気がつかなかつたが、男が通り過ぎようとしていた倒壊した家の屑から何者か出て来ていたのだ。何者かは家の中央で仁王立ちしていたかと思うと、高速で何かをまきはじめた。その何かが男の後頭部に当たり、そこで男は異変に気がついた。

(これは……ちくわ！？ござる)

それは竹輪であつた。両端は白く、真ん中はキツネ色の竹輪。ななで竹輪が空から降ってきたのでござろうか？疑問に思った男。今も相変わらず降ってくる竹輪。男が辺りを注意して見回すと、いた不審者だ。男が不審者である何者かを見つけたとき、男の頭部に鉄アレイがヒット。男氏死亡でござるよ。

男 死亡

死因：鈍器で頭部損傷

能力：忍者ハットリくんより、忍法が使えるようになるが泳げなく

なる。

17 つついのう

草原から街へ来たんだけど、なんか街だった所の、門だった所に人の列が出来ていたんで並んで見たらパン一切れとカップスープ貰えた。んで食って見たらうまくなーのよ。パンは硬いし、スープは出汁が聞いてないからか、塩を湯に溶かしただけの物みたいな感じだし。

でも、-13のパン+-27の味の薄いスープ+3の野外補正+ただ飯無限大〓最高なんだよね。

「やれやれ。こんな配給品で満足してるようじゃあ、ダメだ。明日もう一度ここに来てください。最高の配給品をもらいにいれましよう」

「な、なっんだチミは」

俺が配給食事をウマウマしていたら、いきなり変で謎な男がやって来て意味不明な言葉を言ったかと思うと、言いたいことを言っただっか行っけしもうた。彼は間違いない。いいたい放題だった。なんて奴だ。

次の日。俺はまた配給の列に並んで食事を受け取ってウマウマしていた。

ー13のパン+-27のスープ+3の野外補正+-48の飽き補正+ただ飯補正無限大〓アンキモアンキモアンキモ

アンキモアンキモアンキモアンキモアンキモアンキモアンキモアンキモアンキモ……

「アンキモアンキモアンキモ……」

男 死亡

死因：あんきも

能力：美味しんぼより、あんきも

平野から元街へ、特にイベントはなく到着です。襲撃されて崩壊して三日目ですから復興のにおいもチラホラとあるから、配給品の分ぐらいは恩返しをしないとイケない。恩には恩を。

俺はどうみても塗料のスプレーにしか見えない塗料魔導具を腰にぶら下げ梯子をあがり、屋根の上で屋根に吹き付けていく。防水魔法がかけられているという木材が真っ青に染めて行くのだが、俺の身体に魔導具の塗料がちらほら付着していく。全裸の俺にはキツいぜ。

なに？突然全裸になっているけどいつから全裸になったかって？
んなもんアレだ。あの時だよ。

一人脳内会話をしているうちに片面が終わったので、反対側へ向かい、さあ、塗るぞ。と思ったら時、イカれた侵入者がやってきたんだぜ。

「と、と、鳥だぁー」

横幅三メートル、縦一メートルのタカがワシにも似ていそうないかにも肉食でありんす。といった感じの鳥がこっちへ向かって来ているではないか。

「あ、あれはッ……！」

「知っているのかおっさん!!」

「ああ……あれは羅繰天黄金威愚類守じゃ」

羅繰天黄金威愚類守

それは古代うんたらがどーだこーだできつと凄いんだろう。この時のどーたらがこーで、現在のあれの名前の元になっているとかい
ないとか

「プロ野球選手の年俸、億円プレーヤーむだに乱造されすぎ」より
しまった!!　ここで死んだらまた平野に戻ってしまう……!!?
どうしよう。

男 生存

能力：????

18 赤い兄も結構軟弱でしたよね

はあはあ、勝ったぜ。長い激闘の勝者は俺だっ！！

「す、すげえ……あの若造、塗料の魔導具で羅織天黄金威愚類守を倒しやがったぜ」

「ひゅう……最高にクレイジーなファツキン野郎だぜ」

「きゃーステキー抱いてー」

「皆ーあの英雄を胴上げだぁー」

「おおー」

激闘で疲れた身体を休ませようと屋根から降りた俺に群がる民ども。俺はその波にのみこまれたかと思ったら、空をまっていた。

「わっしよいわっしよい」

「！？……み、皆っ！！ ちょっと待って……こ、この人……死んでいる！？」

男 死亡

死因：胴上げ

能力：スペランカーより。

突然ですけど、魔王倒しました。ロックマン3、2コン使って余

裕でした。

禍々しいあの地に単身乗り込む俺。向かってくる敵をロックバスターで射殺したり、スライディングで躲しながら進んでいく俺。憎きスライムの王っぽい敵、ブルーデビルと呼ぼう。ブルーデビルの目ん玉をロックバスターでスナイプして倒す格好いい俺。倒した記憶ないけど出てきたハボスも優雅にかつ軽やかに倒す俺。

魔王の上に下に襲いかかる魔法攻撃をジャンプ、スライディング、小刻みに動いたりトリズムよく躲しながらのタップスピンドで瞬殺する俺。

「ふははは。よくぞ我が輩をうち倒したな人間よ。だが我が輩は魔王四天王の中でも最弱の魔王。第二、第三の魔王が……ぐふっ」

ジャンピングどけ座をしている魔王の頭にロックバスターを一発。汚い花火だぜ。

しかし、魔王四天王とかちょっと何を言っているのか理解できないんですけど。

男 悲願達成

能力：ロックマン3

さてはて、これでおいらは一般ピーポーになったのですが、おい、魔王倒したっつーのに俺のロックバスター消えねーんだけどマジうけないんですけどコレ。

（神のお告げ：イベント：第一の魔王討伐。能力SFC付与）

（神のお告げ：不具合により巻き戻します）

（神のお告げ：特定作品のバグによる無敵効果等は想定外により、禁止とさせていただきます。その為、前回蘇生時まで巻戻りますのでご了承くださいますようお願いします）

（神のお告げ：つーか、ぶっちゃけズルはよくない。巻戻りなんで能力SFC付与は取り消しね。もう一度よろしく。あと言いわすれていたけど魔王は21人おるからよろしく）

魔王21人ってどういう事になって思ったら脳内になんか情報きたみたい。

大ボス：大魔王

中ボス：魔王四天王

これで五人だ。まあ、よくある構成だと思う。その魔王四天王も魔王で、魔王四天王の部下というか配下に四天王があるらしい。ので大魔王1+魔王四天王4+（四天王4×四人4）＝21人。もしくは1+5×4でも良いんだけどさ、さっきの魔王が最弱って無敵技なければ勝つのが難しいくせに、後付けみたいのいきなり魔王21いましたー、貴方の相手は最弱ですけどねー、って、そういうのズルくね？

男 巻き戻し

能力：ロックマン3

19 自殺だめ絶対

男 死亡

死因：ブルーデビルに溶かされる。

能力：ロックマン3

道はわかってたし、パターンもう覚えたけれども覚えていた。E缶なる回復アイテムでティウンティウンしないであのブルーデビルまでたどりついたけど、ボスで一撃必殺はキツイんだよクソ。いいじゃん。倒したんだからいいじゃんかよ。俺は魔王を倒したんだよ。後付けで実は21人もいて、君はそのうちの最弱魔王をズルして倒しただけだから無効とか言われてもさ、納得できないじゃん。もういい。俺は寝るッ！！決めた。もう、どうにでもなっちまえクッソ。

男 死亡

死因：害獣に襲われて

能力：

スーパーマリオブラザーズ1〜3より、キノコおつきくなる

DQ1、3より、魔法が使えたり民家をあさっても罰せられなくなる

FF1〜3より、魔法が使えるようになる。3のみジョブチェンジ出来

ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大魔境より、髪の毛針が飛ばせるようになる
麻雀より、素敵なコーヒープレイクがおくれる

熱血硬派くにお君より、熱血硬派になる

ヘラクレスの栄光1〜3より、それっぽくなる

バーコードバトラーより、バーコードが読み込め、バーコードで能力が変動する

バイオ戦士DANより、宿に泊まると浴衣でくつろげるようになる
ロックマン4〜6より、チャージショットが3の能力に加わる
マイティファイナルファイトより、首長がむきむきになった
サンサーラナーガより、人に喧嘩をうれる
桃太郎電鉄より、日本地理の勉強に助かる
サッカーより、足が痛い。正解じゃない。

「満足かい神に選ばれし勇者くん」

「どなたですか」

俺は寝っ転がったまんま答える。裾に白のフリルをつけた黒のロングスカートで、わかりやすいくいうとゴスロリっていうのですか？
上下それに身をつつんだ子供がたっていたんだ。俺が上半身を起こして声の主を見ると、声の主は以前お世話になったバッファロー美少女だった。おくにはもう一人もいる。

「こんにちは。で」

「私が君のラスボスの大魔王なんだよ」

バッファロー美少女はラスボスだった。これにはさすがの俺も苦笑。おいおい、こんな美少女ちゃんがラスボスだって？ 笑わせてくれるじゃない。威厳や風格のいもふもないじゃないの。

「ボクは大魔王アカネだ。まあよろしく。後ろの彼女は」

「初めまして。四天王長を務めさせていただいております」

さいですか、そうですか。はいはい、ごくろーさんです大魔王さま。俺は鉄壁のガードに包まれた魅惑スポットがいやーんなイベントで覗けないかなとねっころがって、そう思いながらきいていた。

20 死の地獄の業火……だと……！？

それから大魔王さまはきいてもいねーのに、いろいろ語り出しやがったので静聴してやった。

大魔王さま。名はアカネ。元日本人で労働帰りにトラックにはねられたと思ったら、地獄死神とかいうのに地獄に連れてこられて、圧倒的魔力、圧倒的パワー、みなぎるカリスマに、条件付きの美貌、永遠の命を押し付けられこっちに来訪。

永遠の命の解除条件は憎き神が送り込んだ哀れな今代の勇者の抹殺。それが済んだら快適な余生を過ごせるようにしてくれるらしい。ある程度思い通りになる力だとか。例えば、素敵なイケメン引っ越してきてくんないかなー、って思うとアカネさんのタイプっぽいイケメンがアカネ周辺にやってくるのだとか。例えば魔王止めていてどっかの街で隠居中だと近所に越してきたり、同僚になったりとか。で、噂になってる奇人を見にきたら、噂に違わぬ奇人で、しばらくこっそりと注意深く見守っていて勇者（笑）と確信したらしい。

何それ？俺の労働条件と段違いじゃあないですか。うらやましいってレベルじゃねーぞ、これ。俺なんか最初から死んで居るじゃねーか。スライムに溶かされる勇者って斬新ね、ってこら。

「んでだな、ボクとしてはイケメンとかはどうでもいいんだけど、永遠の命なんてくだらんものが邪魔でね、わかりやすく言うと、死んでもらうねって事だよ」

アカネはそういうと、マントの中にくくっておいているっぽい杖を取り出し、何かを唱え叫んだ。

「喰らえ！！ デス・フィナーレ・ヘル・ファイアーッ！！」

「デスフィナーレヘルファイアーだとっ！！」

「知っているのか、その人」

「ああ」

デスフィナーレヘルファイアー

和名：最後に見る死の国の業火。魔王の対勇者決戦魔法であり、喰らったら最後。神のご加護も突き抜けて死んでしまう。

これが火葬の元になったことは言うまでもない。　ゝあなたの知らない悪魔葬祭編ゝより

俺？もちろん避けなかったよ。勇者のくせになんでって言われてもさ、なんとなくわかっていと思うけど、俺の能力がゲームの能力っていうけど、全部ファミコンじゃん。とろいんだよファミコン。好きだし楽しいけどさ、思い入れあってもハードの能力でPS3とファミコンどっちが凄いつて言われたらPS3でしょ。良く訓練された妊娠でもそれは否定できないでしょ。比較対象がおかしいって言われても、それぐらいの差があると思うのさ。PCエンジンだ、メガドライブだったら対抗出来なくもないと思うんだけど、こればかりはね。

負けたし、死んじゃったよ。平野で目覚めないってことはそういうことなんだろうね。

では、最後に

ざんねん！ わたしのぼうれんはここでおわってしまった！

男 消滅

死因：大魔王戦敗北

能力：スマッシュピンポンより、卓球能力UP

死亡記録大全集(笑) 01120

男死亡早見表

00回目(話数)能力元：作品名

【地名】にて、注釈。

01回目(01) 能力元：テトリス

平野の道にて、スライムに溶かされ死亡。

02回目(04) 能力元：ファミリートレーナーエアロビスタジオ

平野の道外れ奥にて、山賊に斧で頭をかち割られ死亡。

03回目(05) 能力元：魔界村

平野の道にて、魔界村の能力により、敵と接触したために白骨化

04回目(07) 能力元：時空の旅人

街の罪人埋葬地にて、門番に殺される。

05回目(08) 能力元：元祖西遊記スーパーモンキー大冒険

平野の道にて、餓死

06回目(09) 能力元：グラディウス

平野の道にて、敵と接触して爆破。

07回目(09) 能力元：ロックマン

平野の道にて、尖った石と接触したことによりティウンティウン

08回目（11）能力元：松本亨の株式必勝学
街の教会付近にて、自爆

09回目（11）能力元：探偵神宮寺三郎 新宿中央公園殺人事件
街の教会にて、内臓に強打をもらい死亡

10回目（12）能力元：じゃりん子ちえ ばくだん娘の幸せさがし
街の貧民街【肥溜めの巣窟】にて、殴られた

11回目（13）能力元：聖飢魔？ 悪魔の逆襲
街の教会にて、聖水をかけられて死亡

12回目（14）能力元：エキサイトバイク
平原にて、ゴロゴロゴロ

13回目（15）能力元：バレーボール
街にて、人の波に巻き込まれ踏まれて圧死

14回目（15）能力元：マジカルドロピー
街の教会にて、煙に殺られる。

15回目（16）能力元：新人類
平野の道にて、アレ

16回目（16）能力元：忍者ハットリくん
街南間にて、鉄アレイ

17回目（17）能力元：美味しんぼ
街肥溜めの巣窟にて、あんきも

18回目（18）能力元：スペランカー
街にて、空中死

19回目（19）能力元：ロックマン3

【音速機動隊第四鈍足要塞】にてティウンティウンティウン

20～42回目（19）能力元：いっぱい

平野の道にて、自殺

43回目（20）能力元：

平野の道にて、消滅

大魔王01

彼女はカブトクワガタを繁殖させて、それを売って生計を立てている成人女性であった。恋人はおらぬが、カブトクワガタがいて、それでメシと酒をとれて、休みはテレビゲームがあれば満足なので、伴侶がいない事に困った事はまだない。

今は冬であり、オフシーズンであるから収入は少なく贅沢出来ぬがもともと貯蓄できるほど困ってはいない。ただ暇を潰せれば満足である。

「くっそ！！ 装備外し忘れてたよ」

一人用テーブルの上に酒の空き缶とカキピーや乾物を置いて、彼女が進めているのはRPGであった。コマンド選択式の日本でよくあるRPGである。一周目は下見で、二本目から本番といったきわめて普通のプレイヤー。高速や低レベル、縛りプレイはあまりしない。

彼女はシューティングとかアクションなどの忙しいゲームが苦手である。RPGの中でアクション要素の強いミニゲームが出てきてそれを必ずクリアしないと先に進めれないとなると怒りさえおぼえる。

ふざけなさんな！！ ボカアねえ、RPGをやってたんだよ！！
くそつ。この糞ゲーがッ！！

そういつて酒を煽り、コントローラーを壁にぶんなげると乱暴にゲームの電源を切って不貞寝をする。皆の喜ぶ顔を思い浮かべ、一生懸命にミニゲームをつくった人もまさかミニゲームのせいでコントローラーが乱暴にぶんなげられるとは思ひもしないだろう。このハードを購入して二年弱にして早くも三回目のコントローラーであ

る。

抜けるキャラの装備を外し忘れ苛立った彼女はコントローラーをまた投げ、残った酒をグビりと煽り、クールダウンするために上着を来て、近くの小さい小屋がクワカブ繁殖小屋のそこへと向かう。温度もそれほど低くはなっていない事を確認して小屋から外へ出る。夜風にあたり苛立ちと酒で熱くなった頭が程よく冷える。

冬の寒さで冷える身体を早く酒であつたためようと急ぐ彼女。そこへ眩しき光を放つ10メートルトラックがこちらへ突っ込んで来る。だが、まだ距離は大丈夫だ。大きくセーフリッドを保てば事故は回避出来る。眩しい光を直視しないように顔を下げて小走りで光の範囲外であり、トラックのコースの脇へと抜けようと位置取りをするも光は激しくチェイシングをしてくるではないか。

さらに脇へと抜け出そうとすると、先はオフシーズンの田んぼ。そこに侵入して様子をうかがうとまだマンマークされている。

これはテンプレか！？実は彼女、ネット小説も案外いける口なのであった。

アカネ 生存

現在：独身自営業

大魔王02

トラックをギリギリまで引き付け、もう危ないぞっていう所で大きく横へ跳躍。前転してから素早く立ち上がり、今度は後ろにバックステップ。するとさっきまでアカネの頭があつた位置を隕石が通過していく。

ふふん。なめなさんなよ。このボクを。ボクがその気になれば、余裕つすから……あつ、嘘ん……

トラックの、荷台部分が、横滑りをして、アカネを粉碎した。

アカネ 死亡

現在：肉片

おどろおどろしい部屋で、テンプレが起きて、超肉体強化能力貰ったんだ。ボクはそんなことより酒と娯楽とカブトが欲しいんだけどさ、人生は思う通りにいかないってことにも限界があるんじゃないかな。

いらぬ物の代償が勇者殺せつて、ご自身でいかれてはどうかなくて思うのさ。超肉体強化できるぐらいなんだからさ、他のスペック高い人でも魔物でも魔神にでも頼んで、さ。

え、ダメ？ つまらない？ そんなことを言われても、ねえ。正直、気が乗らないですよ。それにボク一人でどうしろって？ 108人ですか？魔王が108魔王？ ボクが大魔王で仲間が107人だって？ いやいや、それなんて幻想水滸伝ですか？ え？ 水滸伝って何ですか？ はあ……はあ……はい。元ネタ何ですね。わかったけど、でもそれでやりたいかと言うと、それはノーなんです……拒否権はないとあなたは簡単に言うけども、ボクだって……すご

いカブトやクワガタにボクも出会えると、ならかまいません。このアカネ・テキトー。必ずや勇者なる者をぎったんぎったんにしてみせましょう。

こうしてアカネ・テキトー大魔王は敵である勇者がいる大陸に向くこととなった。

アカネ 生存

現在：ひよっこ大魔王

頭痛で目が覚めると、そこは資材置場であつた。辺りを見回すとどうやらここは山の上であることがわかる。空気が軽いし辺りを見回すと、それがよくわかる。

「ククク、みる。人がまるで蟻のようだ」

これは有りだな。蟻だけに。なんつって。

しかし、資材置場にいきなり放り込まれて、勇者倒しなさいってのも、何だろうね。意味は多分あるんだろうけど、伝わらないんじゃないあどうしようもないよね。

ボクは資材置場に置かれている中で一番近くに置いてあつた木材に手を触れると、頭に流れ込んでくるインスピレーションッ！これは、まるで、否、まさしく、そうマニュアルである。

『野球部スライムでも、百姓バーサーカーでも三分で理解出来る勇者退治の方法』。なんて頼りがいのある題名なんだ。これは嬉しく、かつさりげないッ！

アカネ 生存

現在：チュートリアルひよっこ大魔王

大魔王03

マニュアルを見て、アジト型という本拠地をつくったんだけど結構疲れた。アジト型というのはアレね。山に穴掘ってダンジョンつてやつ。「火山の調子がおかしいけど熱いし、危険だから、勇者さまどうか代わりに奥深くまで見に行つてちょんまげ」って感じのお使いイベントで行かされるダンジョンみたいな所。

アジト型は城型とくらべて資材はあまり使わないけど、場所によつてはドラゴンさんの住まいにぶつかる危険性もあるらしい。力関係で言うと、ボクを送り込んだ悪そうなの「聖神」長生きしているドラゴン>>若いドラゴン>大魔王「勇者」>平均的な魔王 英雄>>平均的な魔物 平均的な人だつてマニュアルに書いてあった。人とドラゴンは交ぐわつても龍人なんてできないそうだ。人種が犬や猫と交ぐわつてネコ人とか出来るらしいのにフツシギー。

で、本拠地だけでも入口を1Fとして、うねうね曲がりくねつたほぼ一本道でB10Fにした。B10Fは個人部屋や物置なんて実質十階建て相当なんだ。流石に階段はずらして配置しているけどね。

疲れたから、寝るよ。おやすみ。

アカネ 生存

現在：デイグダグひよっこ大魔王

B10Fの八帖一間の私室からおはようございます。大魔王のアカネです。次の日なんですけどベッドで寝て起きたら女性がお二人立ってボクをジーンツと見てるんですよ。ビックリ驚愕で眠気も吹っ飛びました。話をきけば彼女らは、暗黒秘書属の女性と暗黒メイド

の女性らしい。魔王が生まれるとわかるらしくこうして仕えに寄ってくる、というか、魔王お世話種族らしい。

銀髪のおねいさんが暗黒吸血秘書のバツサムさんで、黒髪の娘さんが暗黒おはようからおやすみまで暮らしをみつメイドのキーパーさん。暗黒とつけければそればくなる不思議。とりあえずボクは仲間が出来たんでアジトに彼女ら用の仕事をつくってあげたいのだが、組織ではなくて今は個人の魔王のボクだ。暗黒メイドさんはともかくとして暗黒秘書さんは食い扶持とか考えるとまだ不要なのだ。

だからといって、メイドさんは必要だけど秘書はいらないから、バツサムさんだけは必要になったら呼ぶからまた来てねって言うのも失礼極まりないだろう。というかボクだったら呼ばれても行かない。それに彼女が限定イベントでこれを逃したら二度と仲間にならないとかだったら困る。悲しい。これはゲームじゃないからボクには二周目は用意されていない。

アカネ 生存

現在：暗黒ひよっこ大魔王

大魔王04

そこいらの木を放り返して、切って乾燥させて、はい、木材です。隣の山の麓には集落があるんですよ。この話は関係なさそうかと思われませんが聞いてください。と言っても、ただシンプルに木を根こそぎ掘り返して木材にして売れば儲かるし、運よく土砂災害でも起こってくれば集落壊滅万々歳なんですよ。シンプル一石二鳥作戦です。土砂災害が起きなければ別に構いませんし。

酷いですよねえ、ほんと酷いです。だけでも大魔王となって十年近くもたてば、そりゃあ人間殺すのに躊躇うことは無くなりますよ、流石に。けども、まあ、ね。

「魔物だ。よし、殺すぞ」

なんて短絡的に殺しにこれれるのでしたら、温厚なボクもキレますよ。OKベイベエ、よし、戦争だってなっちゃいますよ。

現在配下は主だった人が六人。

暗黒ゼリーモンスターのスーさんとその下にスライム先生ら、暗黒アンデットのズーさんとエコゾンビの皆さん。暗黒魔乳ハーピーのルーさんとハーピーの皆さん。皆さんが現在の戦力です。

それに内向きは、アジト整備のメイドさん部隊。修繕から補修、増改築までアジトはおまかせ。でも戦いは勘弁な、な人たち。これはもうメイドじゃあないだろう。それとバツサムさん率いる暗黒秘書軍団に、雑用肉壁なんでもござれゴブさん率いるゴブリン部隊だ。

ゴブリンが木を切って、ハーピーさんらが空輸して、秘書さんらが管理する。メイドさんが加工して販売したり調度品を作ってアジトを彩る。

ゴブリンのもう半分が獣や人間を襲って血抜きをし、肉は皆ので、血は秘書さんらの食事。余った骨はボクがせつせと魔力注入してモンスターにして、とてもエコなんですよ。

スー、ズー、ルーはボクの子といっても過言じゃあないね。バツサムさんと相談しながらアジトをせつせと拡張していてさ、ああー、面倒だねって言い合いながら作業してたの。といっても資材ないから計画たててその通りに穴掘っているだけなんだけどさ、ある時メイドさんに言われたの。

「疲れるのでしたら他のものに任せてはどうですか」

って。こやつめ、突然何をいつているのじゃH A H A H A って気分だったね。三人しかいないのに誰にやらすんだこのすつとこどつこいつて冗談で言おうとして、ふとバツサムさん見たの。そしたらなんか口が動いてんのさ。ちっこい声でブツブツ言っているの。

ボクは暗黒デビルイヤーを使ったね、地獄耳。で、聞こえてきたのがさ、

「……その手があつたのか、その手があつたのか、その手が……」

壊れかけのオウーディオですかバツサムさん？

それからすぐバツサムさんに指南うけて配下のモンスターつくりましたが何か？あと便利なことに最初のオリジナルだけは一体いれば勝手に繁殖してくれるらしいので、作った人即ちボクと、作られた最初のオリジナルさえあれば絶滅はしないらしい。便利やね。気がついたらゴブさんが勝手に巣くっていたんだ。何食わぬ顔でうるちよろしているゴブリンらを見た時は驚いたよ。

アカネ 生存

現在：山賊初心大魔王

大魔王05

「いい？スー君。ボクはね、君の為を思っ言っているんであってね、憎いんじゃないんだよ」

「……」

申し訳なさそうにプルプルと揺れるスライムのスーさん。聞いているのかも解らないし、そもそも彼らはボクの言っているんで事を理解しているのだろうか疑問に思う。それでもボクは彼に理解してもらわないといけないからツライぜ。

発端は繁殖しすぎた事によりスライム過剰になって、山の生態系を壊した事だ。だがこれはまだ良い。ボクはしょうがないなあと思いながら、食糧代わりに暗黒人擬のオーくん、暗黒牛擬のモー、暗黒魚擬のフー君。それに暗黒鶏擬のクー君を作って、牧場や生簀に放して養殖？しているからだ。

メイドさんが早朝に牧場へ乳と卵を貰いにいくと、そこはスライムで一杯で、牛も魚も人や鶏なんて一匹も見当たらないのです。これにはバツサムさんもメイドさんらもルーもゴブもみんな激怒しちゃったんですよ。

スライムはね、雌雄同体だからね、分裂して増えるの。栄養とつたら増えて、分裂後に足りない栄養取って大きくなって、分裂しての繰り返し。大量にやってきて草を食いつくしていくイナゴみたいなもんやね。

だから増えすぎると困るんですよ。昨日は報告では増えていた家畜が今日は全滅してましたって設計、ブウイジョオンがね無くなるわけですよ。ヴィジョンがね。行き当たりばつかりの長に誰がついて行きたいのって話ですよ。甘い顔の長でもなめられたら組織崩壊しちゃうですよ。

だからボクは心を鬼にしてくれ、スーさんに言うの。苦情きているし、やりすぎだから自制をなさい、と。いまはまだ庇えますけどこれから先は難しくなるかもねって。

「いい？スー君。ボクはね、君たちのポテンシャルの高さはね、認めているの。君たちほど恐怖を与えられる、不気味さ、驚異度No.1な存在いないから勿体ないのさ。不意打ちで君たちに勝てるものはいないんだよ。……次はないかもしれないからね。いいかい！？」

目がないから感情を読み取れないからこつちで勝手に反省しているものと推測したので退室させ、次の食料の相談をバツサムさんと始める。

「牛は肉としてはいいまいちですが乳は好評です。鶏も牛と同じく肉がまいちですけど卵要因。魚は賛否両論です。淡泊な白身派と脂ののった魚と、海魚と川魚を増やして頂い。人は不満ないので現状維持しましょう」

「つまりは、二つは魚をさらに四種類を新規に召喚しろと」

「はい。そうなりますね」

それは、まあ、ボクがちよいつと疲れるで済むんだけどさ、召喚するのにも資源が必要で、え！？過剰スライムを資源に！？……出来るの？出来る………んですか。さようですか。はいよ、わかったよ。

アカネ 生存

現状：召喚ルーキー大魔王

大魔王06

今日は召喚DAY。牛鶏魚で大疲れですよ。でもそれで旨い飯がタダで食べれて、しかも人がつくってくれたとなると旨さが倍ブツシュだ。だが野菜が圧倒的に足りない。ボクは誰よりも飢えている……ッ！！……植物性タンパク質を……ッ！！……カロチンを……ッ！！……繊維質を……ッ！！……ククカカ……ッ！！……

というわけで暗黒腐葉土と暗黒太陽線を呼び出したのですが、召喚と同時になんかジョグレス進化で地下暗黒畑になりおったで。どいう事かなと思ひ、いつも召喚に立ち合ってくれているバツサムさんに聞いてみたら、

「細かい事はいいの。あるがままに受け入れなさい」

って。んな適当なっと思っただけどバツサムさんの眼が自分も知らないっていつている気がしたのでスルーしてあげた。大人だからね、ボクは。そんなこんなでジョグレス進化したハー君ですが地下の地下！！地下室120年行きを命じ、さらに召喚を続け暗黒森の民の農耕エルフを召喚して彼らも地下120年ッ！！クカカ……！！

「暗黒森の民？」

「暗黒森の民ですが」

ボクはスツと部屋の片隅に置いてある鳥籠を指で指す。バツサムさんは指の先に何があるのかを目を動かし見てから言った。

「暗黒鳥籠と暗黒ヒヨコのオスですが」

「暗黒？」

「はい、暗黒鳥籠と暗黒ヒヨコです。何か疑問でも」

前々から思っていた。気にはしていたが聞かなかった事がある。それは召喚疲れもあつたし、スライムさん追放のゴダゴダ忙しかった事もある。伸ばし伸ばしにしていた疑問。それは暗黒暗黒うるさいけど、この暗黒っていったいなんだって事。

「暗黒森の民はエルフですよ」

「いえ。暗黒森の民は暗黒エルフです」

「エルフはいるのですか」

「はい、ここいらではあまり見かけませんが、他国ではところによりますが、だいたい森一つに一集落はあるかと思えます」

「ダークエルフとかハイエルフとかは」

「どちらもおります」

「暗黒エルフとダークエルフは違うのですか」

「いいえ、違います。そうですね……だいたい陛下が聞きたい事がわかりましたのでご説明します」

そういつてバッサムさんは教えてくれた。暗黒何々の暗黒は何となく魔王っぽいよねって思った過去の魔王が始めた事でそれが魔王

の間でブームとなり、取り敢えず魔王陣営の何かの前に暗黒をつけるようになったと。それだけの事だってさ。

「仮に聖騎士と呼ばれる人がこっちの仲間になったら暗黒聖騎士なの」

「はい。そうであります」

なんというか、なんというか、ガツカリです。ダサいのと意味無い事だって聞いて二重にガツカリですよボクは。

アカネ 生存

現在：暗黒ガツカリそれっぽい大魔王

大魔王07

食糧事情は良好ですから、次は調理人ですよねって言ったらメイド長に、その次は清掃で、接客で、私たちはポイされるんですね、って言われたので調理人らは諦めました。メイドがなぜ料理を作ってたがっているのかは理解出来ないけれども、彼女たちがそうなら、おめえはそれでいいや。ですよ。

美味しい食事とって、栄養とった。ボクは今日も皆を率いる大魔王で、皆の代表として大事な見回り、皆を鼓舞する作業にはいろいろとしたらバツサムさんにそろそろサボるのを止めて魔王として活動してくださいと言われた。サボっているとか言われヤル気を失ったので寝ることにした。

翌日、起きて冷静になったボクは今日から頑張るぞと思い、バツサムさんの言う魔王活動しようと思ったが、朝食後に今日こそはやってくださいねということをガミガミ言われ、今やろうと思っていたのに言われてげんなりしたので寝る。

翌日の朝一番に見たのは般若の如き恐ろしく怒りを滲ませている顔をしたバツサムさんだったのでおとなしく魔王活動（笑）をしようと思う。ここで、

「そんな顔をしてどうしたんだいベイベー。美しい君にそんな顔は似合わないよ」

と言って火に油を注いでみたくもあつたが大人なので我慢することにした。大人だからねボクは。

さてはて魔王活動とやらであるが、それはどうも近隣の村に手勢を率いて襲撃せよとかでは無くて、近隣の魔王を圧倒して配下にし

るって。古今より魔王はそうやって世界征服勢力を作ってきたらしい。召喚じゃあ、あかんのって言ったら、縄張り争いに勝って資源を増やさないと遅かれ早かれ頭打ちになる。これはここだけではなく魔王共通の事だって言われたので、じゃあ過剰スライム資源に出来ているから大丈夫じゃないかな、って聞いてみたら、そのスライムに溶かされ禿山や死んだ土しかない大地ではスライムの食も無くなって分裂出来なくなる。だから無理だとさ。ほんと、ああ言えばこう言う秘書なんだから。

このアジトから一番近くにいる魔王は暗黒茸魔王メシアとかいう魔王らしく、全盛期は凄かったらしい。歳を重ねて多少は弱体化したが経験がそれをカバーして今でも強敵だと思われるのでしっかりと準備をした。といっても実質初実戦みたいな物なのでどういう準備をしたら良いのかわからないので無意味かもしれないけど念入りにストレッチをして、アップをする。

だんだんと身体が暖まってくる。腿上げをしばらくしているとバツサムさんとズーさんが呼びに来たので、いざ出陣だッ!!

アカネ 生存

現在：ダメダメ大魔王

大魔王08

メシアさんはあつさりと降伏してくれました。自分圧倒的すぎて拍子抜けです本当に。ガツカリです。メシアさんにはガツカリですし、いつのまにかメシア一派が配下に加わっていてびっくりです。ジャンプでもこんな展開は中々みれませんよ。

「ボス、グッドですよ」

バッサムさんがそういつて褒めてくれたんだよね。だから今日は侵攻記念日。今日は侵攻記念日なんでもう一回。

…… よーし、オーク一派を討伐して配下にしたぞ。もう一回。

…… よーし、オーガー派を討伐して配下にしたぞ。もう一回。

…… よーし、オージー派を討伐して配下にしたぞ。もう一回。

…… 調子にのってガツガツ攻め込んでいたらうちの兵が壊滅していた。ボクとバッサムさんしかいないとかありえない。というか気づきなさいよボク。馬車に乗っていて動かないなあじゃないよ。そうなんだ。暗黒馬もこの戦場で亡くなっていたんだ。動かない馬車はただの箱だ。

暗黒馬を召喚して繋いで発進ッ！！ G OマシンG O。ガタゴト揺れる馬車に揺られて長時間。草原というのか、平野というのか不勉強なもので定義は恥ずかしながらわからないが、そのような場所でボクは自称記憶喪失だという危ない人と出会った。

バレバレですから勇者さん。あなた、どう見ても現地人違いますから。でも大人は気がつかないふりをしてあげる。多分だけそういうものだと思う。何回かこういうネタ使っているけど、大人だからボクは気にしないんだ。

暗黒段ボールだスネーク君。これを使って馬車に潜入したまえ。

と言って段ボールを渡したけどマジで被りおった。ノリがイイぜこの勇者さん。グッドだぜ。

馬揺れる馬車。揺れる段ボール。中には人が一人。くくく、初めは滑稽な姿が面白かったが、こんな長時間みるものじゃあないね。飽きた。もういらないんだぜ、この勇者。外にでも拾ってください。でも書いて投げ捨てたいけど、勇者だからね。変なフラグでも起てられて、戦力アップでもされたらなあって考えると捨てれないし、じゃあ今退治すればとも思うけど、胃腸のコンディションが芳しくないですからね。アカネリバーシしそうですね。首から上を外に出して大リバーシだ。……ウツ！……ふう……勇者はここで殺すべきだろうけど面倒だからポイしちゃおうね良い子の皆。おねーさんとの約束だぞ。

アカネ 生存

現状：慎重大魔王

大魔王09

勇者をポイ捨てして、侵攻Let's進行。おりゃー、勝ったぞーッ！！仲間増えたぞー。というわけで人事だぁーッ！！ボクは客観的に見える人だからね。スーさんとは違うんです。スーさんとは。とは言ってもこういう人事に関わる事って中学の時に一年学級委員長やらされた時ぐらいだよ。その人事も担任がそれっぽいつて勝手に決めていつて関わっていないし。

という理由で助けてバツさえもん。

「しょうがありませんね。はいっ、侵攻ブースター」

「侵攻ブースター？」

「これはね、勝手に侵攻して仲間を集めてきてくれるすっごいマシンなんだよ」

「うわぁ、すこい。ありがとうバツさえもん」

「あつ、ちよつと……行っちゃった。もう、しょうがないなあ陛下は」

すっごいよ。侵攻ブースター凄いよ。もう魔王がゴミのようだとかそういうレベルじゃない。強いていうなら……まさしくゴミの様な！！

「大魔王のくせに生意気だッ！！ギッタギッタにしてやるからな」

「そうだぞ大魔王のくせに」

なんか蠅がうるさいので魔力を開放するんだよね。ちょびつとね。ほんの。なんでほんの少しだけだと思う。

「圧倒的ですからか」

正解じゃない。ボクは皆を圧倒したいんだ。だから、あまり、ね。イシマタラするんだよね。アイツだってイシマタラなんだからぶん殴りたいんだよね。ていうか、ぶん殴るんだよね。良いことじゃない。ていうかちゃぶつたんだよね。彼らはほら、生まれつき身体のアレがアレだからミンチなんだよね。何か得る物あったのかな。

メシアごっこをしているうちに魔王百人を制圧しているではないか。なんていう早業だ。凄いぞ侵攻ブースター偉いぞ侵攻ブースター。これには頭が下がる思いだ。で、次々とやってくる下つてきた魔王たち。なんていうことだ。見分けがつかないではないか。次々とやってくる彼らはまるで金太郎飴の様に同じ魔王たちである。これらを金太郎飴01号から金太郎飴16号にしよう。

所で、魔王といえば四天王である。四天王といえば4。4×4＝16。ははん、これはあれだ。四天王を作って、さらにその下に四天王をつくれという事だな。

大魔王四天王だ。暗黒秘書バツサムさんを四天王筆頭に、ズー、ルー、エルフさんにしよう。

バツサム四天王にはメイドさんと、ご無事さんに01、02だ。ズーさんには3、6号を、ルーさんには7、10号を代役として配置をしよう。エルフさんには人擬、牛擬、太陽光線に……豚擬でいいや。出来たぞ、暗黒農耕四天王だっ！！金太郎魔王余っても気にしないぜ。

アカネ 生存

現在：量産型大魔王

大魔王10（前書き）

03/01までお休みのお知らせ

大魔王10

「陛下、最終決戦ですぞ」

うるさい赤モップ。ボクはいまヘラクレスオオカブト対アンコクバイオメガコクワガタの世紀の一戦を観戦しているんだ。話掛けるな、圧倒するぞ赤モップ。

「勇者はいまだ一人、何度も自殺繰り返しておりますぞ。何が何だかわからないではありますが、チャンスですぞ」

うるさい、もう。バッサムさん、バッサムさん？行くよー、出陣だよー、徒歩で。

決戦つてさ、自分の戦力全てで決死の覚悟で臨むもんじゃあないかと思つていた時期がボクにもありました、違いました。ザクとは違うというほどの差以上に違いました。ボクとバッサムさん対勇者です。たしかにフィナーレっぽい感じはします。決死の覚悟で潜入してきたどちらか。敵をちぎつては投げ、ボロボロに疲労した身体でやつとたどり着いた怨敵。さあ、最終決戦だ。こうなるのが王道で熱く燃える展開じゃん。

じゃあボクは何していたかと言うと、バッサえもんが進攻グッツ出し、それを使って制圧して配下増やす傍でお茶して料理楽しんで時々召喚してさ、楽しく過ごしてさ、そんな毎日なの。それで配下も集って肉の盾も出来たから勇者倒しましょう。それも実質戦力ボクだけの一人だって何か違うと思う。

じゃあ、今までののは何だったですかって話になっちゃいますよ、

こんなんじゃないやあ、配下集めて何か得るものあつたのかなって気分になりますよ。

決戦というのはさっきも言った様に決戦何です。ならば大戦力で相手を疲労させて討ち取る方向で行けば良いじゃないって思うんです。実際、提言もしましたよ。そうしようぜって。

「そんなことをしたらここが危ないじゃあないですか」

ですってよ。イヤイヤイヤ、ちょっと待って欲しい。君らはボクの配下で、ボクの部下だろう。内心どうであれボクの兵隊だろ。そうしてくれよと思うのですが、流石知能派大臣。大臣のりりくらかわす。大臣汚い大臣。ボクの怒りは、今まさに、右肩上がりだぜ。監視金太郎魔王の報告通りの場所へLet'sらGOだもん。よし、勇者さつさとプチ殺して魔王生をぐーたら満喫すんぞー。

「陛下、こちらが対勇者決戦武装でございますのでお着替えを」

対勇者決戦武装だあー！？んなもんコレ、マントと杖じゃねーか。ば、ばつかもーん。頼りないぜ。ったく。まあ着替えるんだけどね。上下共に上等な部類にギリギリ入る厚手の布の服だからね。ないよー、マシってえー、感じ？それ系でシクヨロー。

着替えて馬車を停めて歩いて三分程の平野にある街道で勇者と出会える。勇者は大変無気力なものであり驚きを隠せなかった。あの勇者にいったい何が起きたのだろうか。疑問に思ったボクは彼を生暖かく注意深く肅々と見守り、呆れ、もうこれ楽勝できると思ったから、戦闘になっても勝てるだろうし、接触を試みる事にした。そしてボクは彼と戦う事となり、勝った。

アカネ 勝利

現在：元大魔王

大魔王と愉快じゃない面々

001：アカネ 暗黒大魔王（両 01）

大魔王。趣味は昆虫。クワガタやカブトが儲かるから大好き。

002：バツサム 暗黒秘書（内 02）

吸血秘書。大魔王軍の頭脳。

003：メイド 暗黒ハウスキーパー（内 02）

おはようからおやすみまで、大魔王軍を支える人たち。

004：スーさん 暗黒虹色スライム（武 04）

何でも溶かすぜ。

005：ズーさん 暗黒アンデット（武 04）

腐った足をズールズル。

006：ルーさん 暗黒魔乳ハーピー（両 04）

冬でも夏でも半裸。お父さんは大喜び。なお鳥なので卵から孵化する。

007：ゴブさん 暗黒ボスゴブリン（両 04）

ゴブリンはね、とつても力持ち何だけど、知能が高くないんだ。彼らを光らせるのはボス次第。

008：オーくん 暗黒人擬（食 05）

吸血族の主食。通勤帰りの吸血族の最初の一杯はとりあえずO型で。

009：モー 暗黒牛擬（故 05）
えーおら。牛だタコオラエーッ！！

010：フリー君 暗黒魚擬（故 05）
ギョギョギョ、新種のお魚ですねーギョギョ

011：クー君 暗黒鶏擬（故 05）
血行結構コケコッコー

012：Hiモー 暗黒Hi牛擬（食 06）
上位モー。脂身も赤身も通常の三倍

013：クー君DX 暗黒鶏擬DX（食 06）
朝の挨拶クツクドウドルルルー

014：タンパク海 暗黒淡白海魚擬（食 06）
煮付けて食べられる。

015：脂海 暗黒脂海魚擬（食 06）
脂ののった海魚。バラモスは腸も好む中ボス。

016：川タンパク 暗黒淡白川魚擬（食 06）
タンパクな川魚。夜もタンパク。

017：川脂 暗黒脂川魚擬（食 06）
脂ののった川魚。

018：ビーくん 暗黒鮮血人擬（食 06）
血を吸われるのが彼らの存在意義。それ以上でもそれ以下でもない。

019：腐葉土 暗黒腐葉土（故 06）

正体は微生物

020：太陽光線 暗黒太陽線（故 06）

光れッ唸れッ紫外線！！敵はUVカットだ。

021：畑 暗黒畑（農 06）

畑は生き物じゃないだろう。でも暗黒がつけば生き物ってどうなの。

022：エルフ 暗黒森の民（農 06）

耳長ッ！！

023：01号 暗黒金太郎魔王（凡 09） ｝ 038：16

号 暗黒金太郎魔王（凡 09）

彼ら一人一人にストーリーがあるんだ。

その他01（前書き）

これは本編とは関係のない、入れ忘れたネタ、後に思いついたネタです。

その他01

俺は街で唯一の宿に来ているのだが、風呂なしトイレなしはまだ許せる。まあ、文化レベル技術レベルからしてある方が特別で一晩10Gの安宿だ。なくても納得出来る。ところでお偉いさんや高貴な方々がきたらここに泊まるのだろうか。村長の家に泊まるのだろうか。

それはともかくとして、俺は許せない事がある。二部屋寝床各二部屋で最高四人まで宿泊可能ってやる気ねーだろう。

「部屋は二階になります。お食事は別会計となっております」

はあ？素泊まり10Gって高くないですか？凶悪スライム15匹分ですよ。石を投げて投げて投げてやっと倒せるスライムが15匹で素泊まり一泊分だあ？フオークでもスライダーでも変化球で投げれるようになったぞ。カーブはシヨンベンカーブだけだな。おかしいんじゃないのか。

「もういいました」

俺は宿主に値引き交渉を仕掛けたくれども、お話になりません。なら、もういいです。俺たちはそういつて見るからに強度に難がありそうな狭く不思議なほどに小さい階段をのぼると、そこはいきなり部屋だった。のぼったら扉もなく部屋だとかプライバシーどこさいったの、と聞きたいが、俺は疲れていたのでさっさと寝ようとベッドに寄っていった。

部屋の真ん中をとおとしたとき、俺はほんのちよっぴり無重力を体験したが、すぐに自由落下して俺はそのまま気を失った。

「ああ……この高さから落ちたのでは勇者さまは……ああ、もし最初からやり直す事が出来たのならどうにかできたのならなんとかするのに」

男 死亡

死因：二階から落下

能力：ミシシッピー殺人事件より、推理力UP

「武器は装備しないと意味ないよ」

武器屋のおっさんのいうことはごもつともである。正解だ。このバスターソードもカタナも鍋やフォークも手に持って正しい使い方をするのがベストである。たとえばフォーク。戦争で恋人を殺されたからといってもフォークで敵国の捕虜を突くのは間違いである。おじょうさん中途半端はよろしくないのだ。刃物をお使いなさい。

たとえばスプーン。いくら眼球をほじくりかえしやすい形状だからといってもそんなグロい使い方は間違いにさつてますよと言いたい。

フォークやスプーンが活躍するのは食事中だけなんだ。だが竹槍竹槍というのは実に素晴らしい。刺してよし、平時は洗濯物を干してもいいし、安価で手頃で軽い。家に一本防犯で持っていてもいいぐらいだと思う。米屋や真昼のセールスマンに間男もこれで撃退するのだ。ほんと、竹槍って良い物ですよ。安価だし、安いし、手頃だし。

これは実にいきしがいのある竹槍だ。鬼畜米兵なんのその。B29にも勝てるぞ。ゼロ戦にも勝てる。そんな気がする。勝つてはただめだけど。

バババババッ

かみかぜで おとこは しょうじつしました

男 死亡

死因：戦闘機の銃撃によりこっぱみじん

能力：東方見文録より、タイムマシーンが自作もできる。

あれはなんだッ！！アサシンかつ！？暗殺者かつ！？いや、シノ
ピアサシンだっ！！

意味合い的には全部同類何ですけどねー。いやはや参った。俺の
武器はたけのやりに、なべのふたにセクシイなしたぎだからな。い
や、まて。俺はまだ装備していない。ならセクシイなしたぎをきた
死体が晒される事はないのか！？

やる前から負ける事を考えてはいけませんね。やってやりましよ
うとも。

おとこは たけやりをそうびした たけやりは のろわれていた

竹槍を装備したと思ったら、身体が勝手に突きの動きを繰り返す
のですが。ひたすらにです。そんな事をしている場合ではないので
すよ、と自分に言っても身体は止めてくれません。く、くやしい…
…でも、身体が勝手に…（ヒュッヒュッ）

前後に一定のリズムで突かれる竹槍など三流のシノピアサシンで
も赤子の首を捻るよりたやすい事であった。大の大人一人をも一瞬
で絶命させる程の猛毒が塗られた手裏剣が四方から一斉に男に放た

れる。

あわれ男避ける事かなわず。一本二本と確かに男の身体に刺さり、男は死んだ。

男 死亡

死因：毒

能力：いつきより、たけやりがお上手になれる。

キンパツクソブタヤロウの ちとにく。

ゆうかんなるオトコせんし ここにねむる

キンパツクソブタヤロウの おおいなるかなしみ。

ゆうかんなるオトコせんし ここにねむる

キンパツクソブタヤロウの ぜんなるところ。

ゆうかんなるオトコせんし ここにねむる

キンパツクソブタヤロウの うちなるところ。

ゆうかんなるオトコせんし ここにねむる

キンパツクソブタヤロウの えいえんのしもべ。

ゆうかんなるオトコせんし ここにねむる

おとこの はか

しんでいる

MOTHERより、君がフライングマン戦士だ

負けたら、金髪糞豚野郎と出会った空間に来ていた。ポルナレフ並に驚いた。やれやれだぜ。

なんか金髪糞豚野郎が俺にもう一度魔王退治に行ってくれんかとか偉そうに言っているけどNoだ。当然だよ。一人のサイレントマジョリティを考慮するとフツーびっくりしたとなつて、お断りになるよね。といったことをオブラートに包んで言っただけ、オブラートに包むより糖衣で包んで言っただけという表現の方が優しいと思うのなぜでしょうか。教えてお爺さん。

今度はファミコンではなくて新しいゲーム機的能力にしてくれるんだってさ。なら良いよって事で俺は再度平野に立つ。

見なれた平野にある？み。俺の死んだ場所が汚されたのだ。何度も何度もここから立ち上がって進んで行った原点であり、第二の故郷と言つても過言ではないこの地が、何度も生き返ったもう一つの母みたいな存在でもあるこの地が憎きバツファローロリに汚されたのだ。許すまじ大魔王め。

怒りに震える俺に忍び寄ろうとしている我が永遠のライバルスライムめ。貴様の行動はお見通しである。強くはなっているかわからないが二周目の俺だ。経験値はたっぷりあるからお前の行動はお見通しで俺の想定内だ。かかってこいやあ！！

スーパーでデラックスでハイパーだぞ多分。フルボッコにしてやんよ。

その口で挑発しながら俺はクールに冷静な思考で相手との間合いをとる。だが相手をどこかなめていたのかもしれない。今の俺なら指先一つで相手をダウン出来ると思っていた。ここでは誰も指先一

つでダウンしてくれません。

ファンタジーの国異世界の空気を吸うだけで俺は強くなれるとおもっていたのかなあ。

……この男。まるで成長していない。スライムはただシンプルにまっすぐと向かってきただけ。スライムは本能で知っていた。これが十分に効率的で効果的な攻撃方法だと。

男は知ってもいない。スライムを相手にするのならば火が一番効果的だということを。それを男は知らない。

男 死亡

死因：スライムに溶かされ死亡

能力元：テトリスより、ミノを横一列に並べるとその列が消える。

「くくく、FCが破れおったぞ」

「あやつはレトロゲーム四天王でも最弱」

「違う。だが恥を晒しおったのは事実」

「ふむ諸兄らよ。次はこのGBにお任せを」

「我がGB兄弟が必ずや勝利してみせましょう」

「おお、GBにGBポケットにGBカラーか。ふむ。ブロスやライトの姿が見えぬが……まあ良い。お主ならきつと」

「不甲斐ない姿は望まぬぞ」

「承知」

彼らはいったい!?

溶けた次の日の全裸で起きる朝はちよっぴりおセンチな朝。あつ、あれは馬車だ。おい。一緒に街まで行かないか？

「一緒に街まで行って、知り合いに噂されると恥ずかしいし」

行っちゃった。とほほ。一人で行くか。俺は一人で行くことにした。ストレス+15 容姿-255

あつ、マングースだ。うわあ蛇だ。たたかうぜ。

うわ、蛇めっちゃ強い。

男 死亡

死因：ハブに殺られる。

能力：ときめきメモリアルPocketカルチャーより、素敵な学生生活も体験出来るようになる。

蛇って結構な強キャラだね。毒攻撃に高い攻撃力。耐性も強いし素早いしで、マイツングです。アーケードで考えると2クレジットを無駄にした気分に近いんだぜ。

嘆いていても前には進まない。だから毎日進めば何か起きるんじゃないかなって思えば、うん。まあ、いいんじゃない。そう俺の尊敬するソレポオネ先生の著書に書いていればいいと思う。思うのだが、俺は少し、いや、結構？まあ、びっくりしたのだけでもどこかで、似たシチュエーションで、この場面と極めて類似性の高い場面に遭遇したような気がする。

たしか前の最初の時だ。スライムに殺られて全裸の俺で、なんかあったかも知れないし、ないかもねって感じだった筈。道なりに歩

いていて、たしかここらへんでおぜうさんが

「へ、変態だあー」

いきなり現れたお嬢さんは全裸の俺を見るとそのままバタリと後ろに倒れる。俺はただただそれを見ていたかったけれども、人として介抱して差し上げるのも、これまた正しい。俺が全裸で、初対面ではない相手だったら正解だけれども、前回、生殖器から排泄穴まで見せたかもしれないし、さらにスプラッタな場面も見せてしまい猛省しなさいよ、ボクは。

だから俺は嫌なんです。嫌がる自分も嫌だけれどもそれ以上に全部を見られた彼女にトラウマを植え付けたかもしれない俺が、事実気をうしなっている彼女に俺の介護が必要かと考えると、俺は彼女の立場で想像します。すると解は導かれるんですけれども、残念ながら否となっちゃいまして、再起の傾向として俺たちが学んできた『人に嫌がる事をしない』という考え方が廃れてきているのを痛感するたびに自分はこれで良いのかと思うし、思っただけです。

そんな事はまあ、正直、説教臭いおっさんの戯言だと取られるのだとしたらしょうがないですけども、残念に

思います。だから俺は変態と称されたことについて何でもないと、気にしないふりが正解だと思うので、俺は彼女に言います。

「変態ですけど何か」

と。

男 生存

能力：？？？

「なんだ変態でしたか」

そうです。私に変態です。

そういつと彼女は途端ににこやかな顔となり、別れ際には手を振ってくれた。

俺には彼女に何がどうでとかはいまいち理解出来ぬが、彼女にとって俺が変態な方が都合の良いのならば、勝手に勘違いしてほしい、というか変態とかいっちゃったけれども、俺は勇者なんだ。気にしよう筈がない。つか、どうでもいい。

さて、しばらく歩を進めるとしばらく先に木製の看板が見えるではないか。おや、前に通った時には一切見当たらぬ物であり、新しく設置したにはいささかボロいように見える。

近くに寄って見るとますますボロいものであり、これのぼろさはおそらく長い月日に野ざらしとなっていたことによる劣化であると推測する。

『ここから左 伝説の腰の者の墓』

読めますです。曲がりますです。伝説の腰です。興味惹かれそうです。ええ、ええ、若い情熱が俺の身体に血をたぎらせますです。他の男はどうかは知らぬが、俺は嫌いではない。あいにくと、俺は下ネタが嫌いではない。

ならば行くしかあるまいて。なあに、一日二日遅れたぐらいで魔王倒せないんだったら今行っても倒せはしないのだ。

文化教養は心に広がりをつける。ただし箱物テーマはだめだぜ。左曲がりだけどダンディじゃない俺が左にターンレフト（笑）して

歩くこと数分。何ということでしょう。見事な腰とナニの銅像があるではないか。

『第四十二代女王をお護りし、天に届きしご立派なナニと変態全裸戦士、この地に眠る』

くっそ、くっそ、くっそ。ご立派じゃあないかくっそ。ふと隣を見ると、同じく観光客であろうおっさんが自分のナニと銅像のナニとを交互に見て落胆していたが、その気持ちはおおいに察することができます。

だが、俺の観光はまだ終わらない。が、さつさと終わらせる。つまりはこのご立派さまは、まだうら若き姫であった少女に襲いかかったケダモノの前に立ち塞がり、犠牲となった。と。

ふーん、そう。それ俺じゃないかなと思うけど、案外、どうでもいいっすよ。それよりもなーんかへんだなあって思っていたけど時間軸ずれているじゃないの。ということは復興してるだろうな。街は栄えているのかな？ウザシスターももう故人なんだろうな。そうだろうから悲しいね。

俺は最後にご立派すぎる分身を他の男性観光客と同じように、この銅像のように立派になあれと思いつながら一撫でして後にした。

ちなみに女王は「伴侶たるもの、かの者よりご立派な男でなければならぬ」と宣言したとかで、生涯独身、最後の王族となりこの国は議会民主制へと進みだしたらしいのだが、王族最後の血縁者とか、なぜか突拍子もなく民主制で、あまりのぶつとびぐあいに理解出来なかった。

男 生存

能力：？？？

銅像の奥にもさらに奥へと通じる道を見つけたので行ってみると、

『乙女の敵を退治しせり偉大な賊の頭領ここに眠る』

と何だかなあーと思う銅像が設置してあったのだけれども、怒りが頂点です。何だこれは、何なんだとこれは。人殺しだぞ、人殺し。変態殺せば偉大なのか？人殺しだぞ。ふざけた人殺しですよ。

おや！？……どうぞうのようすが……

おめでとう！どうぞうはちょうこくにしんかした！

銅像が石の彫刻に変わったので何事かと思いじろじろ見てたのですけれども、おかしな話ばっかしでして、怖いのです。そして、残念な事に目と目があったかと思うと、ずんずんと近寄ってきます。怖いです。こう霊とか神が宿るにしても勘弁してくださいよ。

そして彫刻はついに俺の前に来たかと思うと、たたかえるポケモンがない！おれはめのまえがまっくらになった。

男 死亡

死因：手持ちのポケモンがない

能力：ポケットモンスター緑より、モンスターを使役出来る。

何で俺は死んだのだろうか考えると、何も思い浮かぶ事はない。ので俺は街にいかうかと思う。というか街へ、おらいくだ。街さ、づいたらぜ二つこば貯めて街さ家買うはんでな。土地の代金だば口ーンば組んで貰うはんでしんぺえねんずよ。これらば嘘だはんでな。

おんやブサガワイイとか噂ばなつとる犬っこばようにブサイクだのう。めんごい犬もんでねえ犬っこもわの犬じゃねば好きなんずよ。めんごいのう、めんごいのう。ほあれ、こっちさけえ……

男 死亡

死因：敵と接触

能力：スーパーマリオランドより、特定の物を摂取すると、でっかくなったり、スーパーボールが出せたりする。

リターンの手間が……

男 死亡

死因：敵と接触したことによる爆破

能力：ネメシスより、グラディウスと同じ

またこのパターンなのですか。なぜあの金髪糞豚野郎は素直に能力を与えないのであろうか。効率というものを考える事はないのであろうか。トヨタにでも行ってもう少し考えて欲しい所だ。

「最高の身体能力に最強のパワーアンドタフネスを兼ね備えた肉体と、見つめ合うと素直におしゃべり出来なくなるほど万人にとって格好良くてクールでエレガントなルックスに、インテル入ってる知能と、とりあえずスッゲー口先と、溢れんばかりのカリスマ性に、人望とかも色々つけますんで、サクッと魔王退治してきて下さい。どうかお願いします」

とか言ってくれたら、そもそも、そんな能力付与出来る人が他人に頼まないよね。こっそりと行ってサクッと退治しちゃうよね。どうなんじゃろね。

男 生存

能力：？？？

と、なると、だな。なんらかの理由があつて糞豚野郎はこっちにこれないのだろう。仮説として、金髪糞豚野郎にはスンゲーパワーが足りないからいまいちな能力付与で限界か、そもそもスンゲーパワー自体が足りない。何かとの約束でこれ以上の能力付与は困難。金髪糞豚野郎との敵対勢力との代理戦争か、まさかとは思うのだが俺は金髪糞豚野郎の娯楽であるかもしれないという事だ。

代理戦争説やなんらかの協定でこれ以上の能力付与不可説はないと思う。ほとんど瞬殺でしたからね。相手パネーからバランス的にも釣合いは取れてはいないし、代理戦争で死ねば変わる能力なんて不確かな物を付与するのには疑問がある。だがまてよ。あわせ技の娯楽をかねら代理戦争つていうのもあるぞ。

？力不足　？娯楽　？娯楽代理戦争　？これが限界

この四つが残る。今の所は推測の域だが、おそらく、おそらくだけれども、俺の中では？が強い。さっきも言ったように自分で殺りに行く方が安心信頼できるのにそれをしようとしな。しないではなくて出来ないのではないかと思う。

現状での答えは？だ。

ブツブツ

男　死亡

死因：選択肢を間違えたから死亡

能力：クイズアメリカ力横断より、クイズを間違えるとゲームオーバー

自分の推測に当たりをつけたら死んでいた。超スピードぢゃぢゃない現象が最近起こりすぎて怖いんですけど。おちおち考え事も出来ねーぜ。

俺は珍しく、実に珍しくだ。街に到着したのだ。街は実に街だった。なぜ街が街なのかというと、街の定義を満たし、なおかつそれが村の定義ではないからであり、村の定義や町の定義を超えて栄えており、それが街が街たる所以であるして、俺は知っている筈の街に來た筈だが、知っている筈の街は知っている筈の街ではなくて、知っている筈と置いていたけど結構違う街がそこにはあった。

主に門がフルオープンです先生。他にも街並みも変わっております。心細いと言えばそうであります。さらに気が抜けません。民家の二階から植木鉢や鈍器が落ちてきてセーブポイント到達前に死亡とかシャレになりません。下水の排水口も気になる所です。穴に落ちて即死とかもあります。

何より、もう戦後ではないですから炊き出しなんてなさそうなんです先生。雨風しのげる家屋は要りません。一切れのパンを俺を求めます。炊き出しは仕分けされたのでしょうか。教えてください先生。金髪糞豚野郎は俺に何も答えてくれません。

（神のお告げ：ボーナス『ボスがきた』が付与されます」

答えてくれました。

男 生存

能力：?????

俺は教会でしっかりとセーブした。もしかしたらバッテリーバツクアップ方式で、数年後には電池切れしてセーブ飛んじゃいますけどよろしくとか言われたら困るよね。俺は数年後も同じ生活しているのかって話だから。

ウザシスターはいなかった。せつかく覚えたボスがきたでも使ってからかおうと思ったんだけどいないのはいないよね。っていうかいないよね。やっぱりというか再確認だけどちよい未来何だよね今は。リトルウザシスターはいたんでやることやっていたんだね。双子で、その姉妹の方の家系の娘かもしれないけどさ。

やっぱり大声あげられたよ。悲鳴じゃなくてさ、変態さま再臨されたーって。いやいや、そんなに立派じゃないし、それは拝むものじゃないお粗末くんや、と言いたいけど止めてさっさと出て行っただわ。

どうにも変にヘンナ目で見られているなって思っていたんだけど、俺は変態さまらしいのだよね。いやいや、普通にヘンナ目で見てくださいと思います。

俺はあてもなくブラブラしながら街を散策している。行き交う人の波は街にふさわしく活気に溢れており、前世に在住していた所の商店街の寂れ具合と比較すると残念な事になっている。だが俺の住まいはあの日からこちらなのだ。であるからして俺は誇らしいとも言える。実に良い。

今日という門出はそのオシャレなカフェでティーでも嗜みたいね。アフタヌーンティーだよアフタヌーン。あのオープンテラスでボヘミアンな感じで優雅にかつ繊細に紳士でアフタヌーンを過ごしたいね。実は僕は紳士なんだよ。本場イギリス紳士に負けず劣らずの紳士。ウェットに湿ったジョークもお手の物さ。

テッテッテッテ テッテッテッテ

それにしてもイギリス紳士は肉が食べたい気分だ。

テッテッテッテ テッテッテッテ

「Oh!?... This is インベーターだッ!？」

インベーターだあ!？ Oh!？インベーターだ。これはッ!!
多分ッ!!インベーターの能力だあッ!!

デッデッデッデッ デッデッデッデ
デデデデデデデデ ゴゴゴゴッ!!

ち、近いよ。近いよインベーターさん。近いし、速いよ。速いのは嫌われるんだぜ。な、名古屋打ち、名古屋打ちだっけ？脳内Aボタン連打だッ!!出た、なんか出る!？出てる!？ひゃっほー!？名古屋打ち勝つじゃけえのお。でもでも、相手もなんか出してる。回避ッ!!緊急回避ッ!!

「す………すげえ………か、漢だ」

「どうみても弾です。ありがとうございました」

オシャレカフェの屋根がどこ溶けていくッ!!間に合わん、間に合わんッ!!名古屋打ちってレベルじゃないッ!!ハイウェイ打ち!？

ちよ、待て、UFOにあたたよ。嬉しくない、いまは嬉しくないか、ちゅどーん

男 死亡

死因：異星人に体当たりされて死亡

能力：インベーダーより、弾が打てるし、施設を弾除けに使つと強度が気持ち上がる。

肉片を纏し変態は何度も蘇る。

おはようございます。教会です。外はインベダーの襲撃で悲惨な事になっておりまして、考えるに、俺は探偵が歩けば事件に遭遇するのと同じ様な存在なのではないかなあって思います。歩く災厄なのじゃないかなと思ひまして、へこみます。

こんな時に、あのウザシスターが入ば……変わリませんね。

「あ、貴方は……ッ!?……変態さま!?……ですか」

なんとという幼女。この幼女は間違いなく口りだ。どれ味見してみよう。

俺は立ち上がり、あえて表現するなら、そう、ツカツカと近寄りだ。俺は近寄り両脇に手を差し込み、それはそう。幼い子をたかーいたかーいするように持ち上げ、幼女の頬を一舐する。

「うむ……これは病んでる少女の味だ」

顔を真っ赤にして震えている少女をおろし、俺は彼女に問う。

「で、俺がその変態様として、そうだとしたらどうなんだい」

「……」

「……」

教会に無音が響く。だがそんなことはどうでもいい。俺は無音や退屈に耐えられないのだよ。エブリバディハッピーがようございま

すね。

「……別に」

「そうですか」

「はい」

……さいですか。俺は教会を後にした。

「うわっ、ばつちい。流石変態ッ！！マジ勘弁」

何も聞こえてはいない。聞こえてはいけないのだ。それに彼女とは二度とかかわり合いならない気がするんだ。この予感間違いなくあたると思う。

俺は街を後にして先を急ぐ。山を超えて谷を超えてあなたの街に俺がやってきた。俺くんがやってきた。俺くんが新しい街にやってきた。っていうか、誰だよここを街にした奴！誰だよここを街にした奴誰だよ！でてこいよ、俺が説教してやるから。

街とかいって元咎じゃねーか。でてこいよマジ。そういう地理じゃねーからココ。

(神のお告げ：Hero comes a New challenge
nger)

脳内に電波がメッセージをのせて受信した。まあ、頭にショートメールが受信された。で、開封強制なんだよ。

で、これはなんじゃろ。新しい挑戦者、英雄来ました？新しい挑戦者は英雄になりました？……まあストリートファイターです

よね。日本語で良いじゃないかなと思う。

今の能力はストリートファイターですね。わかってありがたいです。脳内モニターに俺と……あと幼女がいた。俺の勘は間違いでした。またお会いできましたね。

ラウンド1 ファイツ

脳内レバーを動かして、波動拳ッ！……でませんでしたー。ダルさまにチェンジの、大Kって、ダルさまがいねーってどういうコトですか！？

幼女が投げてー、上に追いついての、デスバレーボムからのおーパイルドライバーで昇天余裕でした。

うわぁうわぁうわぁ

K・O・

ラウンド2 ファイツ

小パンチで牽制しつつのー、吸い込まれてーファイナルアトミックスバスター二連発

うわぁうわぁうわぁ

K・O・

「英雄でさえ私の前では村民になる。さしずめお前は入り口の村民といったところか」

男 K・O・

死因：体力バーがゼロになる

能力：ストリートファイター2（GB）より、劣化ストリートファイター2。キャラが削られている他、ザンギュラのスーパーウリアツ上はない。

なんという少女。あの少女は間違いなくトッププレイヤー。小足みてから昇竜余裕ってレベルだぜ。だがおかしい。俺は確かに脳内コントローラーで波動コマンド入力した。丁寧に入力した。にも関わらずかしてしまっただけとは何事だ。近所ではトップだった俺が、待ちガイルの鬼と称されていた俺が、なんだぜ。ターボまでだけど。そういえば、あの少女と出会ったのも、ここ、なんだな……

……

……

…

…

……

……

ふう。あの少女とは何の思い出もねーぜ。一回しか会っていないからな。そんなもんなんだぜ。

「又シがあの変態かつー！」

「何やつッー！」

俺は回想に浸れる暇もないのかッー！蘇生ポイントである教会で俺は全裸で胡座をかいていると、教会の窓を突き破り、その珍入者は教会中央に降り立った。俺のナニの上に。

男 死亡

死因：内臓に加わった衝撃による、ショック死
能力：女神転生外伝 ラストバイブルより、仲魔を加えられる。

俺は蘇生して見たものはライオン顔のおっさんが全裸の死体の上に立っているという何コレ珍百景だった。それは獣人の男が死体の上に立っているという光景。脳内委員長がボタン押さなかったので、登録ならず！。

「ぬははは、ぬしが今代の敵か」

今代の敵とか言われてもねえ。知らないと言えないよねエ。わかっていて、理解してくれるという前提で話されても、それはおたくらのローカルな話だよね。

「すいません。俺が貴方の何なのかというのがいまいち理解できてません。なぜそうなのかと言いますと、まず俺が貴方の事を何一つ知らないからです。貴方が俺の事をどこまで、何を知っているのかもわかりませんから肯定も否定もする事が出来ません。」

次に貴方は今代の敵かと言われたのを俺は耳にしましたが、それについては先程までの、死ぬ前の俺でしたらやはり肯定も否定も出来なかったと思いますが、今なら俺は間違いなくこう思います。貴方は俺の敵です。これは当然の事です。なぜなら貴方は俺を殺したからです。

俺は怒ってます。貴方に怒りを覚えています。俺は貴方を殺したいと思っています。切り殺したい、締め殺したい、残酷に見せ物として、断頭でも、鞭打ちでも、頭以外を地面に埋めて首を切ったり

と、貧相なアイデアしか出て来ない頭で申し訳ありませんが、様々な方法を考えております。貴方の下にあるのは俺でした。俺だっただのに乗っかっているその汚い足を粉々にして二度と歩けない体にするのも愉快だと思いますけど、それより早く退いてください。

両手両足を切断してダルマになって下の世話をしてもらったのも中々屈辱的でもいいかもしれませんが、おそらく、きっと、推測ではありますが、言います。今の俺ではおそらくあなたに勝てない。ですから俺は逃げます。ご清聴ありがとうございました。以上で終わります」

男 生存

能力：？？？

おとこは にげだした

しかし まわりこまれてしまった

「ククク、その様な心配無用。両者共に納得の行く死合案があるッ。
あちらをみよッ」

獣人さんはいちいち大袈裟なポーズを取るのが滑稽だと思うのだが、俺は殺されたくないの素直に黙って獣人さんが指し示す先を見たのだが、先には火がかけられている鉄製の巨大な鍋が二つ用意されてあった。

なんじゃこりやと思い、近寄ってみようと思い、聞いてみたら良いよって言ったので、近寄ってみると鍋の中に煮えたぎる油に、どの様な原理かロウソクの乗った笹舟が両鍋に一つつつ浮かべられている。

「これは先々代大魔王陛下の考案された魔王軍正式決闘その一の暗黒油風呂である」

なんでもロウソクは暗黒ロウソクとかいう代物であり、油風呂に入ると点火、中の人の体力と比例して消化されていき、死亡＝油に点火で消滅するらしい。なんというネタ競技。その大魔王って案外日本人かもしれないね。

まあ、ね。嫌だけど、この人がさ油風呂用意したんだから、逃げる事も拒否することも出来ずに無理矢理入らされちゃうよね。じゃあ入るよ。

「うむ、実に潔し。ならば入ろうぞ」

タイミング合わせてほぼ同時に入湯。めっちゃ熱いです。火灯り
ましたけどすごい勢いで消化され……

男 死亡

死因 焼死

能力：男塾 冥風島決戦より、ごつつくなれる。

「ぐぬぬぬ……」

耐えてる耐えてる。獣人さん耐えてる。獣人さんがさちよいつと
左見ればわかることなだけどさ、俺のいた鍋なんてもうとつくと
燃えているんだけどさ、気が付いていないの。多分、この人は良い
意味でバカなんだろう。

俺が戦力的にも強くない事、死亡しても俺がもう一人出て来るこ
と。そういうことを知っていて、それでもできるだけ公平になりそ
うなルールで勝負を仕掛けてくる武力おばかさんタイプ。

どういうルートで俺の情報を知ったのか。それは多分、この人は
魔王の人で敵なんだろう。あの幼女の仲間なのか、それとも別勢力
だけど魔王よりなのはわからないけど、この推測外れていないと
思う。

でもバカだよな。この公平な競技でも俺は倒せても蘇れるんだか
ら意味がないのに。ゲームだと頼れる前衛キャラでもテレビの前の
人からは好き嫌いの別れるタイプだろうね。

「ぐぬう……この程までに耐えよるとは……ぬしもわしに負けず劣
らずのますらおじゃ……も、燃えとるとは……やったー、勝ったぞ
ーやったあー」

はいはい、良かったね獣人さん。
俺はその後、いそいそと油風呂から出て、
撤収していく獣人さん
を注意深くかつ生暖かく見守った。

男 生存

能力：？？？

獣人さんは消火を確認すると油の入ったタライ二つも軽々と両肩に担ぐとそのまま教会を後にしていった。

それにしても自分はおかしなフラグを立てていたものである。この教会を起点に変なのに二度も殺されてしまったものは俺のあるのかないのかわからないレベルが低いからで、ポイント割り振りで強化システムだったらい訳しようのないので反省するべきだと思う。

すっかり変わった街並みをちい散歩していると気になる看板があるではないか。『魔王恒久平和記念館 この先、左500』。魔王恒久平和記念館とはなんであろうかと考えるに、歴代魔王討伐の歴史とお飾りになんらかの縁の品を展示しているだけなのだと思うが、先人の知恵が何か得られるのかもしれない。普段というか、生前？の俺だったら絶対行かないと思うが、俺の立場が変わったのだ。

なら行くしかないじゃないか、と思い行つてのだが、入場料を取られるとは想像もしていなかった。

よくよく考えれば、そりゃあそうよ、と言われるのが当たり前なのだが異世界の低脳だと内心バカにしていたのだろうか。あまり考えもしていないが入館料無料だと勝手に思っていたので、入館料いただくとなればノーセンクス・オールライトしたいが、俺はどうしても入館したい。

先人の、先代の知恵を借りてスマートに魔王退治をしたい。そして二三人女の子をはべらせたいのだよ俺は。受付の女性も綺麗でメガネのクールビューティーさんであるのだが俺の好みは大和撫子なのだから、申し訳なくてもおことわり。

寝間着は白の和服っぽい寝間着で、もちろんベッドなんか使わない。畳の上に布団を敷いて寝る。決してケツが痒くてもボリボリかない。そんな女の子が好みなんだが、受付嬢は違うんだぜ。

色白なんだが色白すぎる。彼女は間違いなく不健康な白さだ。ヒッキーの方がまだ健康そうだが。ところで健康そうじゃないという女性といえば、憎きあんちくしょうの魔王の傍にいた彼女が気になる所だ。

ふむ。つまりは、受付嬢の彼女と魔王の傍の彼女には類似点が多い。大和撫子ではなさそうだが、不健康そうだが、銀髪だ、顔も双子が本人かのようにそっくりだ。

なるほど、そういうことか。間違いない。彼女はコスプレイヤーさんだ。彼女は有名人になったのか、だったのかはわからんが、言えることは一つ。あの時にでもサインを貰っていたら良かったぜ。もしかしたら高く売れたのかもしれないと思うと、後悔が押し寄せてきやがるぜ。

男 生存

能力：????

スキル：現地言語、ボスがきた

「お疲れさまです」

俺は何くわぬ顔で入ろうとすると、案の定受付嬢に止められてしまった。

「入場券をお買い求め下さい」

その意見はごもつとも。だが俺の考えは違った。無賃入館するぞ。だがしかし、この受付嬢の守りがかたい。鉄壁である。ならばこの受付嬢は鉄の女である。

しばし観察を続ける。その結果、いろんな事が推測できた。

おそらくこの受付嬢は独身で、集合住宅に住んでいる。一人家に帰っても出迎えるものがない家。仕事帰りに買ってきた食材を使ってスープを作るためにピンクの花柄のエプロンを取り出し着用するのだろう。

今日はシチュー。小麦粉、バター、ミルクを鍋で丁寧に混ぜ合わせ出来た物にまたミルクを足し、野菜を投下。芋とキャベツと人参。それに出汁を兼ねたチキン。

後はコトコト煮込む間にパンとワインを用意して、部屋の植木に水をあげればそろそろシチューは完成だ。花柄エプロンを脱ぎ、一人テールでシチューとワインを食すのだろう。寝る時もやっぱりピンクのパジャマででっかいイルカのぬいぐるみを抱き枕がわりにして寝るんだろうな。いいな、いいな、家のある人っていいな。

まあ、多分、そんなもんなんじゃねえの。どうでもいいのだけださ。

俺はふと気がついた。くだらん推測していて気がつかなかったけ

れども、この受付嬢、他のおそらく顔なじみの客と話し込んでいて、俺のことをノーマークだ。無論、知っている。誰もが知っている。無賃で入館してはいけないという事は。

だけれども、世の中は正論でまわっているのでは無い。だから許されなくても俺は入館する。受付嬢の背中をこっそりと大胆に俺は通り抜ける。

一人で……出来たッ！！無賃入館一人で出来たんだ。俺は館内にいるんだ。

そう。目の前の長々とした説明文も展示品であり、許可された者しか閲覧出来ない展示物を俺は閲覧しているのだ。無料でッ！！けれども、ためになる事は何一つなかった。あるのは大魔王様がブリティでスーパードでグレードだと、ただただ賞賛しかない。それだけの展示物だった。つまらん。この展示物は実につまらん。もういい。俺はでることにした。

「あれほど、ちゃんとカネはらえていったのに。しかたがない。しんでもらう」

奥の展示スペースから戻ると威圧感溢れる受付のおねーさんが仁王立していた。冷静に考えればそうである。出入口が一つしかないこの建物では展示スペースを出れば入り口スペースでどうしてもこの受付のおねーさんと遭遇する。ならば気がつかない筈がない。

受付のおねーさんの身体を青いオーラが包む。受付のおねーさんは青いオーラを解放した。

ビビビッ！！

おねーさんからまっすぐとんでくる青いオーラが俺を攻める。炎、身体、焼き尽くす。もう、止めて、ぼくのハートの器がゼ

口よっ！！

ドロボー 死亡

死因：オーラによる崩壊

能力：ゼルダの伝説 夢みる島より、色々出来るけど、おいらいごどもだからわかんないや

教会でまた起きた。思い出せば飯を食っていない。一切れのパンも食べれないのは大変悲しいことだ。何か食べ物は、俺が食っても怒られなさそうな食べ物はないのだろうか。

あった。卵だ。オレンジと青のマーブル模様がとても毒々しい色合いとなって食欲がもりもり減って行くダチョウサイズの卵だ。うむ、それでも構わない。この卵に見合う、あったかご飯が欲しいが無い物ねだりはいけない。しかしお腹がすいた。ええい、どこか俺が気軽に受け取れる炊き出しはないのか？

さてよ、ちよつとさてよ俺。卵って茹でればゆで卵になるんだよな。そうすればご飯はいらないな。俺は卵を手に入れた。

卵はさておき、俺は教会を出て街を散策して、いまは店通りをぶらぶらしていたら、おかしな光景が目飛び込んできた。

パン屋の前だけ人の行き交いが無いんだ。道行く人々もそこだけは不自然に避けて通り、誰かにこのパン屋の前を通ったらお前の一族皆殺してやるとか脅されているのかしらん。

そついうのは良くないと思います。ならば俺が先陣をきって行くのではないか。俺は堂々と不自然エリアを闊歩する。さえぎるものは何もない。

歩きはじめた俺を付近にいて俺が何しているのか気がついた人は指を指したり、周りの人とこそそこそと何か話しているが、俺は気にもしない。俺の行く後に道ができるんだ。

パン屋入り口に近づくにつれざわつきは段々と大きくなり、俺がパン屋入り口前にきた時だ。ガラスの割る音が聞こえたかと思うと、俺は吹き飛んでいた。

何かしらんと上半身起こしてあたりを見ると、パケットが砕けたガラスの上に落ちていないか。何かしらんとさらに注意

深くあたりを見回すと、いつの間にか不思議スポットを取り囲む人の波が出来ており、

「……倍率……3だよ」

どうやらトカルチヨを行っているみたいである。パケット、トカルチヨ、俺を囲む人の波。こういう事だろう。

このパン屋では自慢のパケットを時間内に完食出来れば賞金が貰えるが、何かが原因で挑戦者が現れず、いつしか店の前を通りかかった人にパケットを投げつけ無理矢理に挑戦させる。だが、人もバ力ではない。

パンが無ければおかしを食べれば良いのと同じで、パケットが嫌なら通らなければ良いと考えた結果、ちよつとずれて有効範囲内に入らないようにしたのだろう。

頬を殴られたのかずきずき痛むと同時に十メートルぐらいは吹き飛ばされていて、頬をなぐって十メートル飛ばすのも凄いが、頬を十メートルも飛ばすぐらいの衝撃を顔に受けて無事な自分も結構なものだと思った。脳にはあとにくるのかもしれないが。

ドロボー 生存
能力：？？？

32 (後書き)

03 / 実質13日

俺の後に道行く ↓ 俺の行く後に道が

男 生存 ↓ ドロボー 生存

ちょっとムツと来たけどお腹がぺこちゃんだから落ちているパケットを拾って食べようと思う。

立ち上がり、歩いて近寄り拾う。俺は空いている方の手で砂埃を払い、さあ食べるぞ、と、ちぎろうとしたけれどもちぎれない。パケットとは固いものであるからしょうがないと思う。

はしたないですけど、直接、口に運ばせてもらおう。うむ。いただきます。

俺がパケットもう面倒くさいからパンーを口に運ぼうとした時、俺はパン屋の奥からやってくる四人の姿を見て硬まってしまった。なんでここにあなた方がいるのでしょうかと聞きたいけど、別に彼等はこの街の住人だとも違うとも言っていないのだからおかしくはないよな。

「うわ……ドロボー……落ちてるパン食おうとか……ひいちゃう系？」

幼女を先頭に、

「ぬははは、その生きようとする意思、まさにストロングスタイルじゃ」

獣人さん、

「こんにちはドロボーさん」

受付嬢と、

「……………」

どなただろうか。白い衣類に白いエプロン、コック帽をのせた筋肉達磨のごとき肉体を思わせるこの中年のおっさんはいったい誰なんだ。

「あ、あいつは……！？」

「知っているのテリー」

「ああ、あいつは……」

「暗黒料理長のクック。大魔王軍の食を司どるその者。唸る暗黒上腕二頭筋がスゲーでウメーな暗黒料理は知る人ぞ知る料理人なんだ。大魔王軍が解散した時に彼は流れの料理人になったと聞くが、この街にいたとは」

「な、なんと……」

「その様な者が……いまいちわかないけどスゲーぜ」

ざわざわ

……説明をありがとう、その観衆の中にいるテリーさん。つまり彼らは喧嘩してパンをとばした所に俺がきて、そのパンを食おうとしてたかたお怒りなんですネ。

「くくく。我ら元暗黒四天王で、わしは暗黒地獄の柴犬ポチーヌじや」

「暗黒妹のシスだよ」

「元暗黒秘書で現在は元大魔王さまの偉業を伝える記念館の暗黒もぎりをさせていただいてるバツサムです。よろしく」

「……クックだ」

な、なんて事だッ！こいつらが四天王だったなんて。くっ……
なんかしょぼいぜ。

……待て……元……だとッ！？

「なっ！？……元ってどういう事だ！？奴は……大魔王はどうしたんだ！？」

「？寿命で亡くなりましたけれども……ドロボーさん、あなたとどこかでお会い……してますか。記憶にあるような」

寿命で亡くなっただと？大魔王って寿命で死ぬのか？勇者とか英雄に討伐されたとかでなくてだと！！

「ど、どういう事だッ！？」

俺は思わず叫んだ。

ドロボー 生存

能力：？？？

34（前書き）

生きてられるかわからないので、とりあえず一気に投稿して、04
/15までおやすみです。

「知りたい事、知るには知ろうとする事が大切なり。知りたいのであろう。ならば、このパン早食いで勝負だ」

「ルールは簡単です。この人がいない区画でクック殿を除いた三人とパンの早食いをします。このパンを全部食べれた方が勝ちという簡単な競技です」

くっそう。こいつら馬鹿じゃねーの。なんでこう勝負したがるかな。ちゃっちゃと質問に答えてくれれば解決だろう常識で考えて

「よろしいですね。なら始めましょう。始めます」

そうバツサムさんが言った開始の合図と同時に獣人さんの腕が、俺には見えていない握り拳が俺に飛んできたのだろう。

否。前足？どちらでも良いが、俺はパンを一口も食べる事が出来なかった。

ゴミ屑の様に簡単に吹き飛んだ俺はエリア外の観衆密集地帯まで飛び、誰かにあたった感覚を感じながら意識を失った。

「ぬははは……あ、あれ？死んで……おるだど!？」

ドロボー 死亡

死因：頭部強打

能力：ダウントウン熱血新記録―どこでも大運動会より、人の咀嚼したパンでも、唾液と砂埃まみれのパンでも美味しく食べれるよ

うになる。

教会で目を覚ました俺は思わず呟いた。ここは何処だ、と。そこに現れた一人の男。彼は言った。たまごはこのままふかせるか、と。

彼は神父で、この教会はいごうのほこら。神父さんはモンスターーじいさんもかねている。

そして出会う相棒 + 05。彼は異世界でいたい何を残すのか。

「いいえ」

何も残しません。まだ残せません。相棒も金がないから孵化させられません。ちよつとヒビ入っているし危ない卵になつてるけど、どうしようもないんだ。

「なら、とりあえず牧場におくつておくからのう」

そうして下さい。牧場が何処なのかは知らないけれどもお金が入ったらまた来ますので。

俺は教会を後にした。

そして四日後。奇跡的に一度も死ぬこともなく俺は日雇いで金を稼いだ。手元には20Gがある。

一日あたり30Gで、宿素泊まり一日15G。それと食事二食で約5G程。なら40G前後ぐらいは残っていると思つただろうけれども、昨日、一昨日と二日連続しての豪遊。串焼き鳥と酒でまさかの二日連続豪遊。これにはさすがの俺も猛省。なんだよね。

とりあえず手元にある5G銅貨四枚を握り締め俺は教会へと走り、教会の扉を開けて叫ぶ。

「はい（おじちゃん孵化させてちょうだい）」

教会の中で、今、葬儀の最中なう。圧倒的場違い……ッ！！

ドロボー 生存

能力：ドラゴンクエスト テリーのワンダーランドより、まものつかいのマスターになれる、かな？

教会の外で体育座りで待つ俺。アッガイもこんな気持ちなのだろうか。しばらくすると教会から出てくる黒い喪服を着た人たちと神父さま。テリー氏とは縁がなかったわけではない。俺も影ながら冥福をお祈りするために列の最後尾についていき、霊園でお祈りした。蘇るテリー氏の記憶。初対面はあの時だったな。それからこんな事もあったと思う。子犬を助けるために列車の前で庇って……息子 はきつとカルビ丼が好きに違いないさ。それはたしか、違う奴だな。

そんなこんなで故テリー氏の葬儀も終わって、ようやくモンスターじいさんに孵化してもらおうと思ったのだが

「アグモン+5をふかさせるのには60Gひつようじゃ」

あ、ああー！？6、60必要だとお！？あ、アグモンだあー！？な、なんじゃそりゃあ！？新種のポケモンか？デジモンのアグモンか？ということは、ボタモンの存在が消えた……だと！？

「アグモン。二足歩行が出来るようになった爬虫類型デジモン。手足にはえている硬い爪と口からはきだすベビーフレイルムでどんな相手にも立ち向かう勇敢なデジモンじゃ。ピッピカチュウ」

「タ、タイチ」

アグモンはどうやらまだ混乱しているっぽいが、アニメアグモン？

「アグモン進化だ」

「わかったよタイチ。アグモン進化アーツ……りゅうおう」

アグモン／りゅうおう。Lv.1

りゅうおうの　しんの　すがた。

こうげきりよくじゅうし　である。

「タイチー、お腹ぺこぺこだよー」

アグモンって何を食うのでしょうか。デジタルモンスターというくらいですからデーターでも食べるんですかね。エロゲのデーターでも食べれるのでしょうか。あのメーカーのは、まずいとか。そういうのはないのでしょうか。

「あーん」

って、おま、アグモンさん大きな口をあけて何してはるんですか。あきません、あきませんで。

おいしゅうないですよ俺は。

アグモンの熱い吐息がドロボーの首元にかかる。

(い、いやっ)

身をよじらせ抵抗するも、いつの間にか伸ばされていたアグモンの巨大な手がそれを無にする。

(あ、あーっ!?)

アグモンの巨大な口がドロボーに近づき……

アグモンの口の中、あったかいなり。

そうですね。あったかいよね。でもベビーフレイルで、なんかこんがりを通り越して炭になりそうな予感でいっぱいだぜ。

どうせ炭になるのだったら、こうして炭になりたいものだ。

ロリボーイッシュボクっ娘が恋する幼馴染の男の為に、料理下手
だけど頑張って作った弁当の中身。その中には過熱しすぎでこげこ
げの物がいっぱい。俺はその中の一つになりたい。ロリボーイッシ
ュっ娘が前日にタレをしみこませる為に素手でモミモミしたおかず
になりたいものだ。でも考えてみれば、咀嚼するのは男なんだよな。

ドロボー 生存

能力：？？？

青空を首を動かして見る。青空だった。遠くから聞こえる子供の声。実に平和である。

教会は倒壊してますけれども。ええ、アグモン先生の責任です。モンスターじいさん？モンスターじいさんは無事ですよ。

あつアグモンそっち違うっ！！そっちは……あかん、八百屋やで、あかんアグモンあかん。いぐな、いぐなっでいてるべ。んだ、止まれじゃつアグモン止まれじゃつ……あばば、このほんずなし！！いぐなっでいつてらっきゃ。

「その竜と竜使い、止まれッ！！止まらぬならば……斬るッ！！」

倒壊した家屋の先の道に白銀の鎧を着用し、両手持ちの剣を構え、装備が統一されている女性数人と、斧だ槍だてんでバラバラの装備をしていり集団が待っていた。

マズい、俺が犯人だ。どうみてもこのままでは間違いなく極刑です。ありがとうございました。

「アグモンッ逃げるぞ」

しかしアグモンは命令を無視した。

アグモンのかみなり。ドロボーはスパークをコピーした。

俺は、今、電球を口にくわえている。それは例えるなら、赤子がおしゃぶりをしている。それだ。正直、顎がしんどいですけれども、外せない、外れない、外して欲しい。

「貴様ツ！！この方をどなたと心得る。この方は先の大魔王様の娘、スーパーストロング・ド・アカネ・ヨンゴーさまでいらっしゃるぞ。頭が高い頭が高い。ひかえおろーう」

サーセン。これ以上頭下がりませーん。物理的にふかのーです。すいませーん。アグモンさんが頭を下げないと俺の頭もさがらないよ。ごめんなさい。正直すまんかったとはこれっぽっちも思っていないけど。ふへっほー。

光れッ俺の電球ツ！！

「うお、まぶしっ」

ぐへへ、どうだまぶしいだろう。俺もそうだぜ。というかアグモンさん、そろそろ俺を解放してくだしゃい。眩しいし、電球熱いし、正直すまんかったって思ってるんだよ。ね、良い子だから。あの人たちも皆困ってるからさ。

「ふむ……抵抗するか……ヨンゴーさま、お願いします」

「……ふむ。デスファイナーレヘルファイアースラッシュッ！！」

「デスファイナーレヘルファイアースラッシュだとっ」

「知ってるのかライデン」

「ああ……」

デスファイナーレヘルファイアースラッシュ

対勇者決戦魔法をモチーフに作られた剣技。威力はデスファイナーレヘルファイアーより劣るけれどもマジパネエっす。

デスファイナーヘルファイアースラッシュがヨンゴーから放たれたッー！アグモンイン俺にまっすぐむかってくるデスファイナーヘルファイアースラッシュは八百屋の残害もまだ無事だったお花屋も街のお菓子屋も吹き飛ばし、俺らも吹き飛ばされた。

「勝利」

ドロボー 死亡

死因：デスファイナーヘルファイアースラッシュ

能力：星のカービィ2より、特定の能力を得たり、動物と合体できるようになる。

「アグモンっ！？……アグモンッ！？……嘘だろ。アグモーンッ！
」

俺は平野で目をさますと近くにアグモンはいなかった。そういう事なのだろう。

つまり俺はもう二度とアグモンに出会えないんだ。

（タイチ、おいらはずっとタイチの側にいるよ）

アグモンの声が聞こえた気がする。俺は男泣きしてみた。それ系で。

三文芝居はこれぐらいにしておこう。俺は本来、クールでドライな男なんだ。今までがどうかしてたんだ。

さてはて何度目かと数えるのもバカらしくなる、また平野何ですけども、逆走してみようかと思う。

逆走という言葉は少々おかしいけれども、たまには街の方ではなく、その反対の街ではない道に行こうと思う。その方向にも街があったらややこしいよね。

「↑街 街↓」こんな看板があったりして、どっちも街やないかい、とか。ぶふう。……ふう。

街ではない道は街への道と同じ様な景色であった。見渡すかぎりの平野は公園の芝生の様にクローバーとかハコベに類似している草だとかが生えており、晴れた日は寝っ転がるのもまた良いだろう。

スライムとか馬か家畜の糞がなければ。

その遠くには木々が見える。前も言ったかもしれないが、あれはおそらく林か森だろう。そのさらに奥には茶色い、いわゆ禿山が見える。あれを見ると自分の将来の頭皮の様で嫌んなっちゃうよ。

村についたから取り敢えず村にある小さな教会に行つてセーブして出発した。宿もないし、泊まる金もないし、泊めてくれる村人もいそうにないし、交渉もしなかった。不条理なイベント起きて、教会壊れたら嫌だもん。歩くのは嫌じゃないけれども、何度も何度も無意味に同じ所を歩くのは違うと思う。

それからまた似た景色の道を誰ともすれ違わずに歩いて三日三晩。俺は森か林に続いてる道の近くにいる。入ろうか入らないか考え中なのだよ。

暗いし、キーキーとか何か危ない先住の方が発する声が森の中から聞こえてくるし、じめじめしてそうだし、やばい、ヤバイよコレ。マジヤバイって。シャレになんねーぞコレ。

でも、戻るの面倒何だよな。入って死んで戻った方が早いだろうね。死ぬ事前提で考えているけど、もしかしたらべっぴんさんしかいない村が奥にあつて男つていうだけで歓迎されるんじゃないかと思うと、行くしかないんだよね。なら行こうって事だよな。

森に入つて一時間ぐらいはたつたであろうか。日もくれてきて、ただでさえ暗い森の中はさらに暗くなり、ぬかるんでいる道は既に道ではなく木々の間で、上は蔦や枝が下がつてきておりとても邪魔で、歩きにくいことこの上なものである。

ドロボー 生存

能力：？？？

さらに三日三晩。危なくなさそうな果実を食べたりして植をしのぎながら森を歩いていたら、いつの間にやら禿山の山中に俺はいた。そして大小様々な石のある斜面にあった大きな岩の一つの陰でうようよいるスライムから身を小さくして見つからない様に俺は今、隠れている。スライム天国である。赤青黄色のスライムたちがズーリズリとはっているんだぜ。

空を見れば半裸の鳥人間女性がグールグル。鳥人間女性の方は交渉すれば無事に下山できるかもしれないけど、スライムさんは問答無用で溶かしてきそうで無理ぽ。

ああー、しかし、いい景色だぜ。たゆんたゆん、プルンプルン。あつちはフリユフリユだ。フリユフリユとは貧乳さんのがこまかに揺れる様を俺なりに音で表したんだ。ショートカットに貧乳好きが増える。ただそれだけで世界は平和になる。争いはよくない。だが改造乳テメーはダメだ。

「主からはイチゴーさまと同じ匂いがするが何者だ」

話しかけられて振り返ると、ぬおっ、いつの間にかおっぱいさんが俺の後ろにッ！？

パッキンストリートロングで色白の肌に、白人っぽい鼻立ちで、純白の羽を持った半裸の鳥人間女性がいた。白人って言っても何処の地域の白人かは知らんけどね。

「は、初めまして」

「初めまして、私は暗黒ハーピー族の長をやらして貰っているルーだ。よろしく」

「あ、これはどうもご丁寧にありがとうございます。自分は勇者を
させていただいている男です^{ドロボー}」

「ぬ……ドロボーとな……勇者……ドロボー……」

ぶつくさ言ってるルーさんだけでも、俺は安堵した。話は通じた。通じたのだよ。となれば、話しだいではスライムデンジャラス地帯を一気に抜けて、平野まで連れて行ってくれるかもしれないんだぜ。こんなに嬉しい事はない。

「主は大魔王に負けた勇者でドロボーか」

「大魔王？……バッファローガールですか。そうでしたら、多分、俺かと思えますけど」

ルーさんの穏やかそうだった目つきが一気に鋭くなって俺を見るんだけれども、よくよく考えてみればそうだよー。いかにも魔物、魔王陣営って感じの人たちなんですから、彼女たちからしたら俺みたいなのは永遠に敵何ですよー。殺し合う意味は本能ってヤツでわかりあえないだろうねー。

おや、ルーさんがなんか深く考えているのか眉間にシワが寄っているけれども、どうしたのだろうか。

あたりを飛んでいる暗黒ハーピーの皆さんも気になったのか一人？一羽？どう数えていいものかはしらんけれどもとりあえず片手だったりる数が寄ってきたんだよ。つまり、俺はおっぱいにかこまれているというのだ。

ドロボー 生存
能力：？？？

「ねえーねえールーさまぁー、早く食べようよー」

「皆、人間楽しみにしてるんですよー」

物騒な事を本人を前にして言わないでください。おっぱい鑑賞した事や勝手にランク付けていたの謝りますから、食べないでください。何だかんだ言っても死にたくはないのが本音なんですよ、俺は。

「ん……それは暫く待て。そうだな、うん」

暫く待てですか。何か自己完結気味に納得しないで、助けてくださいよ。さっきまでは話出来てたじゃないですか。自己紹介しあつてさ。

「ドロボー、お前には我が主人と会ってもらおう」

そう言つと、ルーさんは飛び上がり、二本の足で俺の肩をがっしりと掴む。そしてさらにルーさんは上に飛ぶ。俺を掴んだままだ。すると当然俺も空中にいる事になる。

「離してほしいなー、なんて」

「離しても構わんが、離すと落ちるだろう。するとお前はスライムに見つかり、ENDとなるが、それでも構わないか」

下をみるとスライムが俺のいた岩の周りにあつまっているとか、そりゃあそうだよな。エサが突然出てきたみたいなものだから、そ

りやあ集まってくるよね。

「襲わないでって言うてくれませんか」

「掴むな、襲うなと言うが、それをするメリットが我々にない。そもそも奴らとは話を通じんのだよ」

なるほどー。魔物と一括りにしても、世の中には様々な魔物がいるからコミュニケーションはとっても難しいだね。勉強になったー。

不安定な掴みと、山風や飛行時に生じる風で不安定な滑空の旅を小一時間。結構な長さ揺らされて、正直いつ落とされるか不安だった。速度はあまり速くはなかった。20km/hを下回ってるぐらいかな。

でも下がさ、岩肌で、結構尖った岩とかが突き出されたりしてんのよ。落下即死亡だね。百舌のなんだかってやつになるね。

しばらく下がって行くと、斜面のなだらかな緑の草地が木の柵で囲ってあるのだろう。ここからでは終わりが見えないのだから結構な広さの牧草地があり、その中ではちらほら肉牛だろう茶色の牛やホルスタイン種の乳牛がのどかに草をムサムサと食べている光景が目にはいった。平和だと僕は思います。

その木の柵の外側すぐ側にぽっかりとあいた全長3Mぐらいの高さの洞穴があり、ルーさんは俺を掴んだままその中へと入っていた。

暗いのかと思ったが、意外にも明るい。これは洞窟に電球のような数メートルおきに配置されてるからだ。電球とかどっから調達したのかはあまり気にならない。詳しい人でもいるんだろう。あの細かい針金みたいな、竹で代用がきくというか、最初は竹で作られていたんだっけか。

長い洞窟をルーさんに運んでもらって、ついに最奥の部屋だろう
何様式かは知らんが彫刻が施された両開きの扉の前に俺はついた。
なんで俺はここにいるのだろうか。

男 生存

能力：????

俺はなんでこんな所にいるのだろうか。

哲学でも厨二的思考の様に、自己の存在意義についてあーだこーだ小難しく思考するのではなく、シンプルに、何の用事もなかった、ただ街道のいつもの進行方向ではないほうに行って、そっち方面の街に行きたかった。それだけなんだ。

それがわけにわからんイベントが進行しているではないか。

ルーさんがいつの間にか扉を開いていて、俺を掴んだまま入室していった。そういえば猫って獲った獲物を飼い主の枕元に献上するとかって言うよな。なんか似た光景なんじゃね、これ。ルーさん（猫）が俺（獲物）を飼い主（主人）で。

部屋は結構広くて、平均的な教室二面分ぐらいかな。

寝具がキングサイズのベットに、白く丸いガラスのテーブルやソファに白いタンスなどの調度品。どれもこれも無駄に高そうです。水差しも花瓶もカップも全て、高いと思われる。趣味じゃないからわかんないけど。

その高そうなソファに一人の少女が座っている。かの悪王バツファローガールの様でいて違う。そう。それはまるで隣国のパチモンキャラの様に、だ。

椅子に座って足をブラブラさせていた彼女は幻想的でも何でもない。ただ椅子に座っている。誰も絵画にしようとも思わないだろう。よくよく観察してみるとこのバツファロー少女の角はジオング式だ。頭の両サイドに逆丁字状に一对。大魔王が一对の両サイドで、ヨンゴとやらがガンダム式だった。角にも流行り廃りがあるのかしらん。俺はガンダムではゲルググが好きです。

そのイチゴーは俺に気がつく、立ち上がり、走ってこちらにやって、俺の腹にタックルをかましてきた。

「お父さまーだー」

と、わけのわからない言葉を発しながら、頭をグリグリとするのだが、彼女の頭は小さいし、頭の角が俺の両脇腹をえぐる形になるのです。暖簾に腕押しとはならないのがある程度の質量を持ったものの宿命でしょうか。

そうなるとうなるか。腹の傷がどんどん拡張されていき、多分、死ぬんだろうな、と、俺はそう思います。

ドロボー 死亡

死因：出血多量

能力：ドンキーコングDXより、アクロバットな行動が出来たり、ハンマーを持つと狂った様になる。

目を覚ますと平野でも教会でもなく、俺がさつき死んだ場所だった。つまり、ここはセーブポイントなのだろう。

さて、俺は今横たわっている状態なのだが、頭の下にはモツサモサした生暖かい感触で、目の前にはむき出しのお胸先生がある。ここはヘブンでしょうか。俺は紳士でも獣でもない。男だ。ならばやる事は一つだろう。俺は素早く頭を動かし、「ボスが来た」。

俺はなぜか激怒した、確かイチゴーさんに殺されたんだ。

ドロボー 死亡

死因：焼死

能力：カービィのピンボールより、球の扱いがお上手になれる。

蘇生したけれども、今度は床のカーペットの地面越しの固い感触しかなかったので残念だと思います。イチゴさんはプリプリお怒りですし、ルーさんの顔は真っ赤つかです。ごちそうさまでした。

カーペットが焦げたり、血がついたりしていて、

「さつさと謝罪と賠償する」

とか言われたらマイツングだよな、と思っただけでも、多分弁償しなくてはならないのかなって思う。四角い仁鶴師匠が丸くおさめてくれないかしらん。

そこんとこどうなのと聞いてみたら、このカーペットは暗黒カーペットで生物でもあるらしい。餌は空気の中のエタール粒子なるとんでも粒子で、人や生物の捕食の心配はないらしい。ちなみにエタール粒子が集まって、すんげー事が出来ると、かの大技エタールブリザードフォースがはなてるかもね、らしい。

そんなことはどうでもいいんだ。それよりも俺は彼女が自分を父と呼んだ事が気になるなあ。よし、聞いてみよう。

q・俺は貴方の父ですか？

A・YES

Q・なぜですか？

A・父様だからです。

Q・それは違うと思いますけれども、貴方はそれについてどう思い

ますか？

A・正しいと信じております。

Q・なぜそう思うのですか？

A・貴方が父様だからです。

Q・俺は独身で、言うにもあまり大きな口で言えない、そういう男だとしてもですか？

A・YES・それが何なのかはあまりわかりませんが、母様が貴方が父様だと言っているので、貴方が父様です。

Q・本日はありがとうございました。

A・いえいえ。

つまりは彼女の母が俺をお父さんと言ったから俺が父さんらしいのだけれども、話にならない。

誰か、詳しい人はいないのだろうか。俺はルーさんにヘルプアイをしたがルーさんは静かに首をふった。この部屋には俺とルーさんと彼女だけ。

三人しかいないのに話のわからない奴らばかり雁首揃えて、どうしようもない奴らだと俺は思ったものだ。

「タダイマンゴー、今帰りましたヨン様。イチゴーさまー」

そういつて部屋に入ってきた幼女。あの幼女である。俺を殺した幼女だ。憎き幼女め。

幼女はすぐ俺に気がついたのか、侵入者だろうと思ったのか、俺は幼女に殺された。

ドロボー 死亡

死因：クリティカル

能力：ウィザードリー・外伝？より、ダンジョンがオートマツピン
グされる。

俺は蘇生した。部屋の中には俺と、首が分離した俺と、こんがり
焼けた俺と、腹に穴のあいた俺がいる。これはまるで俺の宝石箱や。
フーフー興奮状態にある幼女に、何故かこちらも興奮状態のイチ
ゴーさん。それとおろおろしているルーさん。なんということでは
よう。

ドロボー 生存

能力：？？？

フーフー鼻息うるさい彼女らも受付嬢のバツサムさんも何故か帰ってきたとかで落ちついた。

で、バツサムさんが色々教えてくれたんだぜ。

まず、俺を殺した大魔王は天命を全うした事。

勇者を倒した大魔王は近隣の魔王勢や人間どもを傘下におさめ、大陸平定。で、その大魔王が初代王となり、後継者をさつさと見つけて隠居した事。

その大魔王が生前に子供欲しいけど男いねーしなー、と思っていたら、エターナル粒子と大魔王の子供欲しい願望と趣味で繁殖させていた暗黒オオクワガタがあわさり、イチゴーが出来た事。

イチゴーの娘がニゴーで嫁に行つて、ニゴーの娘はサンゴーで、サンゴーも嫁に行つて、エターナル粒子の力が弱かった二人は故人となり、先祖帰りのしたのか何故かサンゴーの娘のヨンゴーはエターナル粒子がよく蓄えられるので、平均的な魔王ぐらいは生きられるだろうつてこつた。

そんな事を一気に語られても俺としてはどうしようもない。良かった事はこのイチゴーさんとは血縁も遺伝的にも全く繋がりが無いって事実だ。というか片親はクワガタなんですな。

そんな事を俺に語つた意味は特にはないらしい。まあ、関係者とも言えなくもないから、言ってみたただとさ。ええ、俺は貴方たちは何度も殺されましたさ。

そんな結構長々とピーチクパーチク聞かされるというイベントだったんだ。そして俺はルーさんの幼ハーピーを仲間にした。というか押し付けられた。

「この子をお連れください。きっと貴方のお役にたつと思います」

「具体的には」

「私どもから攻撃されないでしょう。それと、生活費としてこちらをどうぞ」

そう言つて、金貨のたんまり入った皮袋を渡されたなら、仲間にするしかないじゃあないか。

ハーピーの　ハーさんが　なかまになった。

大魔王の拠点の売店でハーさん用に厚手のシャツ数枚とマントにナイフを買い、俺たちは山を下った。もちろん、俺は俺の分は購入していない。その金はハーさん用につて渡された金だ。俺に使つていい金じゃない。と、真面目ぶつてみたが、ただ単にあとでなんか正直者イベントでも起きて特典つくかなーなんて、そんな軽い気持ちなんだ。

「ハーさん！　ハーさん！」

「ん、なんだい」

「ハーさんは魔法使つたりするの」

「使えるかもしれないし、使えないかもしれないな」

「えー」

「そんなに使つて欲しいのかい」

「……うん」

「なら頑張ってみようかな」

「やったあ」

ドロボー 生存
能力：？？？

そういえば、俺だけ死んだらハーさんはどうなるのだろうか。そう考えると気になっておちおち夜も眠れないではないか。これはまいったぞ。

「ハーさんは俺のことどこまでわかってる」

「んーと、毒男だって評判ですけど、あたし、こどもだからわからないや」

毒男とか……まあ……あながち間違いじゃないんだけどさ。

「実はね、おじさん殺しても死なないんだよ」

「ほんとー、じゃあ殺してみるねー」

ハーさんの脚の鉤爪が深く、俺の眼から脳内をぐちゃぐちゃにしていく。激痛の中で俺は、ザオリク、ザオリクと無邪気に喋るハーさんの声が聞こえ、だんだんとそれは小さくなり、俺は死んだ。

ドロボー 死亡

能力：ナノノートより、手帳代わりになるけど大して意味はない。

俺は案の定、大魔王の穴蔵に戻ってきたが、ちょうどお着替え中で赤松漫画のように俺はバッサムさんに吹き飛ばされた。けれどギ

ヤグの様にはならず俺は死んだ。

ドロボー 死亡

能力：ラブひなパーティーより、ラブコメ補正が加わる。

今度はしつかりとお着替えも終わられたようで、わが身の安全という事で安心してゐる次第ではありますが、ちよつとそこで安堵してもよろしいのかしらん、とも思ふわけです。いや、ちよつと待て、まだ安心してゐる場合じゃあないぞ、と。

女性というのは、あくまで誤解なきように言わさせていただきますが、あくまで理不尽な面が多々あるのですけれども、これは女性だけではないのですが、やはり、女性に幻想を抱いてゐる小生といましては女性も理不尽でもあると言わざるを得ません。

確かに小生は女性の着替えを望まなくとも覗いてしまつた身ではあります、貴女の着替えなんて誰が覗きたくなるの、もつと魅力ある着替えなさいよ、とも思ふわけです。色気がまだ足りないな、と。

例えば、胸のラインがもつと揉みなくなるような、そんな色気があつて欲しいのですが、残念な事に、残念な事にですが、

色気がない女性というのも存在してしまふんですね。生活感とか、化粧っ気ないとか。もつと性にオープンにならないと行きおくれるぞ、と余計なお世話ですが、そうだと思います。

そういう理由で、やむを得ず私は彼女の着替え中に蘇生した結果、覗いた形になつてしまつたが、私は反省もしないし、謝罪を検討する必要もないと、もし、それでお怒りになられるのなら残念ながら小生はこう言わざるをえません。

もうすこし成長してからおいでなさい、と。

ドロボー 生存

能力：????

大魔王というキャラは、悪としての存在なんです。なんだか悪い奴、酷い奴として描かれる。で討伐して英雄、勇者になるのですが、そういう安易なのはリアルじゃない、と。

ですから後の英雄になりえた存在も、そのアレが無ければそうならないわけですし、物語の目標なわけです。昨今のアレからみますと、小生のその目標は天寿を全うしているとかで、それってどうなのと思います。目標がないじゃない、と。

ならその後の英雄はどうなるのかという危機に今、小生は直面しているわけですし存在意義の危機に立っているのです。

ハーさんがどうのこうの言っている場合じゃないと。なぜ小生は今になるまでその事に気がつかなかったのかと反省しなくてはなりません。

このまま永遠の生を過ごすのも拷問に近い。死んでも何度も否応なく蘇生させられるというのは命に対する冒瀆であり、生物として歪んでいる存在であるから、それは生物ではない。気持ち悪い存在です。ならば倒す存在というのは他にあるのではないかと気がつくんです。

それが何なのかと言うと、金髪糞豚野郎です。彼がどのような存在で、どのような過程をえて、あんなったのかはわかりませんけれども、存在失った英雄が英雄になるのは新たな目標を設定し、それを倒す事で自分の、俺が俺の英雄になれるんじゃないかと思うのだけれども、その手段がないんです。

俺が金髪糞豚野郎に会えたのは二回だけで、その二回も最初と一度目の最後だけなんですよ。その何度も何度も殺されてきた俺が、歪めた金髪糞豚野郎に復讐するというありふれたストーリーもいいんじゃないかと思います。

それがなぜ良いかと思うかといいますと、良いからです。ありふれたとよくある定番というのは、ある意味においてイコールで結ばれているものなんです。定番だから今まで存在出来た、ありふれているから使いのと同じなんですけども、それは停滞と同じなんです。老人ではなく、もっと若い人達に唸らせる様なオリジナルティを、クオリティを高く、と期待しているんですけど、これがどうも満足できない。なんでそうなるのって。なら、自分がやっちゃうよ、何やってんのってなっちゃうんです。

いけません。これはいけません。そう思っではいるんですけども我慢できない僕。情けなく思いますよ本当。

「さっきからブツブツ、うつせーハゲ」

俺はバツサムさんにしこたま殴られて死んでしまったのですが、人間っていうのはある意味脆くて、そして強い生き物なんです。結構。

それでもあつさりと死ぬ時は死んでしまふ。そういうものであると思います。

ドロボー 死亡

死因：

能力：SDガンダム外伝ラクロアンヒーローズより、何故かこうなってしまう。

大魔王アジトの一室で蘇生すると、部屋の中にはエスパー少女、エスパー少女と先生がいた。

「先生……俺、もう二度と死にたくないです」

「諦めたら、そこでゲームオーバーだよ」

せつ、先生……ッ！！

「そうよ、私たちがいるわよ」

「そうよそうよ」

マミッ！ーそれにナツメも……くうッ！ーあつたけえ……あつたけえよ、お前ら

「さあ、これが貴方の武器よ。お持ちなさい」

「そうよそうよ」

これは……チェンソーだ。殺るです。やってみせる。必ず、な。

「そのチェンソーはね、昔、教会の地下に保管されていてね、伝説の変態が命がけで守ったという聖なるチェンソーなんだけど、似合わないわね。チェンソーの格に余裕で負けてるじゃないの」

ちよつとボロクソに言われたけどもチェンソー自体は実に馴染む。

装備して実感したぜ。アジトの玄関で俺たちは先生と別れ、平野を超え、街を超え、道中襲いかかる害獣をグッチョグチヨにしながら一路、俺たちは今代の大魔王の住んでいそうな所へと向かい、着いた。

「さあ、皆。最終決戦だ」

「ふ、ふん。最終決戦じゃないんだから」

「そうよそうよ」

俺たちの冒険はまだまだ続く。

ドロボー 完結

能力：？？？

あーだこーだあって、新世代の大魔王を倒したドロボーたちは色々あって金髪糞豚野郎と対面していた。

きんぱつ「やっときましたね。おめでとう。このゲームを勝ち抜いたのは君たちが初めてです。」

ドロボー「ゲーム？」

きんぱつ「私が創った壮大なストーリーのゲームです」

マミ「どういう事」

きんぱつ「私たちは平和な世界に飽き飽きしていたんです。そこで大魔王を呼び出したんです」

ナツメ「そうよそうよ」

キンパツ「大魔王は世界を乱し、面白くしてくれました。だが、それもつかの間の事。彼らにも退屈してきました」

ドロボー「そこでゲームか」

キンパツ「そう！その通り！私は悪魔をうち倒すヒーローが欲しかったのです」

ドロボー「何もかもあんたの書いた筋書きだったわけだ」

キンパツ「そう！その通り！中々理解がはやい。多くのもの達がヒーローになれずに消えていきました。

死すべき運命を背負ったちっぽけな存在が必死に生き抜いて行く姿は、私さえも感動させるものがありました。

私は、この感動を与えてくれた君たちに、お礼がしたい！
どんな望みでもかなえてあげましょう」

マミ「あなたの為にここまで来たんじゃないからね！！　よくもあたし達を、皆を玩具にするなんて」

キンパツ「それがどうかしましたか？　全ては私が創ったモノなのです」

ドロボー「俺たちはモノじゃない」

キンパツ「神に喧嘩うるとは……どこまでも楽しい人たちだ！
どうしてもやるつもりですね。これも生き物の性か…… よろしい。
死ぬ前に神の力、とくと目に焼き付けておけ！」

キンパツ「げえ……チェンソーだあ」

ドロボー 生存

能力：魔界塔士S a？G aより、神をチェンソーで倒せるようになる。

なんで大魔王を倒す筈が、金髪糞豚野郎も倒しちゃってるんだろ
うか。勢いって恐いですね。でも、まあ、これでクリアなんですか
ね。ゲームつてぶっちゃけられちゃったし。今日を持って、勇者は
卒業して、あたし達は普通の人に戻ります。ってか。

「ね、ねえ。これからどうする予定なの。あんたさえ良ければつい
て行ってあげてもいいんだからね。なんか頼りないからしょうがな
くよ、しょうがなく」

「そうよそうよ」

「ははっ、ありがとうお前らセンキューな」

「勘違いしないでよね」

「そうよそうよ」

先生っ！！ 春を通り越して、一足先にハーレムがきそうです。
まだ二人だけだけどそんな気がします。センキューな先生。

「それはマイツチングだからダメだよ」

突然後ろから聞こえてきた声。驚き、後ろを振り返るとそこには
ハーさんがなぜかいた。

なんでこんな所にいるのだろうか。俺にはわからない。なら聞い
てみようと思う。

「ハーさん久しぶりだね。なんでこんなところに」

「何でって、何で？ あたしはね、ルーさまに言われた通りにちゃんとおじさんの後ろについて行ってたのに、気がつかないなんて酷いなー」

「……なんだ。彼女ちゃん、もうちゃんというじゃないの。やだ……勘違いしちゃったじゃない。お幸せにね」

「そうよそうよ」

そういつてエスパ―少女二人はテレポートしてしまった。走ってどっかいくのなら追いつけたかもしれないのに。ぼくのハーレムの人、いつちゃった。

「行っちゃったね。クスクス、ドンマイだね。ところで、さ。おじさんはもう殺されても生き返らないんだよね。じゃあ、殺すね」

何をもうされているのでしょうか、この幼女は。今の俺と前の俺を一緒にしないでほしい。いまはこの相棒がいるんだからな。

「何でって顔してるのやーよ。笑って笑って、はいピースだよ。あたしね、人間が死ぬのにすごい興味あるの。だってだって、あたし達って、モンスターで、魔物で、害獣なんだよ。なのにイチゴーさまもルーさまも人を殺しちゃダメって。それって何か変だよ。おかしいよねー。あたし達魔物なのにな。あたしは間違いない魔物なのさ。だから本能がね、疼くの。早く勇者を抹消せよ、と。だからおじさん死んでくださいな」

そういつて彼女はまた俺の眼球を脚の鋭い爪の先でホジホジして

俺の頭から南無南無プラザ。ハーさん、頼むからほじるのは恋人の
耳の中か、恋人にほじられてくれ。

男 死亡

死因：脳みそホジホジ

能力：前回と同じ

46（後書き）

ここまで。

また来ることが出来ましたら04/15に再開する予定です。

ドロボー簡易死亡記録集

話：回数 能力元

2 1 : 4 4	テトリス
2 2 : 4 5	ときめきメモリアルポケット カルチャー
2 4 : 4 6	スーパーマリオランド
2 4 : 4 7	ネメシス
2 5 : 4 8	クイズアメリカ横断
2 6 : 4 9	インベーダー
2 7 : 5 0	ストリートファイター2
2 8 : 5 1	女神転生外伝 ラストバイブル
2 9 : 5 2	男塾 冥風島決戦
3 1 : 5 3	ゼルダの伝説 夢みる島
3 4 : 5 4	ダウンタウン熱血新記録 どこでも大運動会
3 6 : 5 5	星のカービィ2
4 0 : 5 6	ドンキーコングDX
4 0 : 5 7	カービィのピンボール
4 1 : 5 8	ウィザードリー外伝?
4 3 : 5 9	ナノノート
4 3 : 6 0	ラブひなパーティー
4 4 : 6 1	SDガンダム外伝ラクロアンヒーローズ
4 6 : 6 2	魔界塔士Sa?Ga

大魔王没後の面々名簿

仲魔番号：初登場 名前 職 or 種族

0 0 2 : 3 0	バツサム	暗黒秘書 兼	暗黒フロアスタッフ
0 0 6 : 3 8	ルーさん	暗黒ハーピー	
0 3 9 : 2 7	シス	暗黒幼女	
0 4 0 : 2 8	ポチー	又暗黒怒りの獣神	ライオン人
0 4 1 : 3 1	顔なじみ	暗黒モブ	
0 4 2 : 3 2	不思議スポット	暗黒フィールド	
0 4 3 : 3 3	クック	暗黒料理長	
0 4 4 (0 5 1 : 3 6	暗黒乙女騎士	暗黒乙女騎士	
0 5 2 : 3 6	ヨンゴ	暗黒聖騎士 兼	乙女騎士団団長
0 5 3 : 3 7	先住の方	暗黒蝙蝠	
0 5 4 : 4 0	イチゴ	暗黒大魔王の娘	
0 5 5 : 4 2	暗黒オオクワガタ	暗黒オオクワガタ	
0 5 6 : X X	暗黒ヘラクレス	暗黒ヘラクレス	
0 5 7 : 4 2	ニゴ	暗黒大魔王の孫	
0 5 8 : X X	ニゴ	の旦那	暗黒大魔王の孫の旦那
0 5 9 : 4 2	サンゴ	暗黒大魔王のひ孫	
0 6 0 : X X	サンゴ	の旦那	暗黒大魔王のひ孫の旦那
0 6 1 : 4 2	ハー	暗黒幼ハーピー	
0 6 2 : 4 5	先生	暗黒NPC	
0 6 3 : 4 5	マミ	暗黒エスパ	
0 6 4 : 4 5	ナツメ	暗黒ヤマブキジムリーダー	

打ち切り

俺は何でか真っ黒い所にいた。浮遊感とかはないし、足場もどうなっているのか見えないけれども、地に足はついてそう。

はて、なんでこんな所にいるのかは理解出来ないけれども、今度も恐らく金髪糞豚野郎関連かと思ったが、ついさっきバラバラにしたばかりだったのを思い出した。

ははん、これは真のラスボスフラグですね。敵を倒したと思ったら黒幕がいて、実はそいつは三下だったというお約束のアレ。金髪糞豚野郎を倒したことによりバランスが崩れて悪の一味オール総進撃みたいなのもありかな。

ジャージャーンジャジャジャーン

パチモンクエスト

スタッフ

プロデューサー PC・3do・サターンドライブギアマーク？・スワン@ピピン・ステーション

他全部 pc・3do・サターンドライブギアマーク？・スワン@ピピン・ステーション

スペシャルサンクス

現地民

悪魔

神

そして……

you

end

打ち切り（後書き）

見苦しい部分あったから後書き消しました。

上

俺は死んだのである。二文字で表すと、故人もしくは王大人死亡確認である。後者は二文字ではないな。

取り合えず、俺は死んだ。ならばこの様な事を言っている自分は何なのだと思う人もいるが、そりゃあ俺は哲学者でも医者でもないのだ。そういう論争は他でやりなさいよ、と。

なあに、猫も百万回ちかく死ぬのだ。人が一回二回死んだ所で、そんな細かいこたあ気にすんなよ。男は度胸、女はオツパオ。違うな。女性はタンクトップに半ズボンで麦わら帽子をかぶり、虫取り網を持つてでな、「お兄さん虫取りに行こうよ。はやくはやく」と早朝に誘いにくる田舎の実家の近所にすむロリでボーイッシュ。

裏山の川でスケスケイベントもあるよ。そんな感じが良いんじゃないか。

神様。お願いします。

来世は幼馴染のロリでボーイッシュな女の子と付き合えますよう取り計らって下さい。貴方の哀れな下僕よりお願い申し上げます。

「ダメです。あなたの来世は剣と魔物の世界で魔物と命のやり取りにあけくれるでしょう。なお私はお怒りなので能力、蘇生ともに無しよ。じゃあの」

なんてこったい。

俺は再々度あの世界に行く事になった。

俺は平野に降り立った。嘘です。そこは平野ではなくアスファル

トで舗装された道路であり、広くゆとりがある片側二車線の計四車線で両脇の間には街路樹が規則正しく植えられている。歩道もあるけれども一人も見当たりはしないのだが、えらく寂しい道路である。ここはあの世界なのかしらん。文明進んだってレベルではありませんよ。アメージング。

空を見ると、青空が広がっている。美しい。否。ベリービューティホー。

青い。とても青いのである。この青さを一言で表すと、青い。それだけである。

人はただ青い空の青さとお父さんが豚になった事を知るのだ。神隠しにはあってはいないのだが。いや、神隠しにあっていて。俺とテンプレの神隠し？

青い空の下で俺に後ろから襲いかかってくるスライム。予想通りである。タイミング、自分の経験、感、サイレントマジヨリティを考慮したら、そうだよな襲いかかってくるだろうね、ふービックリした。

スライムも三回見れば、ただの軟体生物である。もっと、こう女体化とかして楽しませてくれないと、先に繋がらない。

女体化スライムに乳首はあるのだろうか？そも必要ないし、そもそも女体化スライム自体ナンセンスであるのだ。

そう考えても、今スライムに襲撃されているという現実が変わらないし、対スライム勝率0%だという事も現実である。

必勝パターンがないどころか、相手に必勝パターンがあり、打開策はない。

だが勝つという事は必要なのだろうか？大切なのは負けないという事。全戦負け無しと全戦勝ち無し。どちらが強そうかと言うと、全戦負け無しではなかるうか。

つまりは逃げるが勝ち。俺は反転前進する。決めたらとことんや

る男になれと我が父に言われたかもしれない記憶があるかもしれないから、俺は反転した。

ジーザス。スライムが後方だった所にもおった。サイドアタックだ。

90°。ターンしても、そこから180°。ターンしても、45°。づつターンしてもスライムだらけである。赤青黄色のスライム達が周りを取り囲んでいる。まさに絶体絶命である。

おや、スライムたちの様子が

な、なんとスライム達は一つになってキングススライムになった。だが、俺はその間に逃げた。ゆっくりすぎです。変身がとてもゆっくりです。なら逃げても問題ないであろう。

オツムが違うのです。オツムが。私はキングススライムとは違って客観的に周囲をみれるのです。

人一人歩いていないアスファルトを走る。

振り返るとやつがいるというのは勘弁して欲しい。もう大丈夫かと、走るのを止めてクールビズに移行する。クールダウン？それ系で。

息上がる 体温アップで 年取ったと。俺 心の川柳。

で息も落ち着いたので立ち止り辺りを見回してみると、ここは何ともアメリカ映画の少年一夏の冒険物中盤のような景色でありそんな気がする。

誰も忘れた場所の木造車庫から戦車のような物を見つけてなんか起こる。そんな映画の様な状況。

線路の方がそれっぽい気がする。

だがそんな事はどうでもいいのだ。

俺は疲れた。疲れたのだ。何処でもいい。何処か俺が休める所はないのか。俺はちょっと休憩したいだけなのだ。

あった。だけど、これは違う。俺はいかがわしくない建物が良いんだ。ガーンだな。

脚が棒になりそうな頃、俺は通りに一つの洞穴を見つけた。いや、トンネル？洞窟？それ系があったのだ。

そんな所に入っても、「何か得る物あった」と冷たく言われてしまいそうだが、もう時分は夕方も終わりである。

夜風が老いた自分には厳しいのである。

自分ではまだ青年のつもりではあるが、この間といっても時系では数十年前？百年近く前？もつとであろうか、ちびっこハーピーさんにぶつかられて「おじさんごめんなさい」と謝られたのだ。

おじさんである。おじさん。2X歳なのでまだまだ若い、生涯現役だもんで。そんなつもりではあるが、いくらあなたとは違う人であるとはいえ、年の衰えは隠せなかったし、どこかで自分自身を誤魔化していた。

最近腰の調子が悪かったのもそういう事なのであろう。

ならば自分自身で自分の身体を労らねばならない。ポンコツではないのだ俺は。まだ動くのだぞ、俺は、と。

夜風雨露をしのぐ。徹底的にな。

洞穴にinしたよ。

暗いよこわいよ。でも泣かないよ。大人だもんね、俺は。

それに入り口をちょっと入ったぐらいで先には進まないよ。なに

「うわあっ!？」

腰をしたたかに打ちました。落とし穴です。落とし穴。ええ、落とし穴なんです。

この洞穴は老朽化が激しいですね。匠でもよんで劇的にリフォームしてもらいなさいよ。

痛む臀部を摩りながら立ち上がると、不思議な事に薄暗いです。おかしいですね。

ここは下の方であり、太陽光が入る所もない。見上げると土の天井であり、穴もなにもないから自然に光が入る事はない。

ヒカリゴケ？そういうものないし、RPGの様に親切に松明が灯りをともしているのでもない。

つまりは人工物なのであろうか？コンクリに光ファイバーのアレをアレして光を通過させるとかなんとかを昔テレビでやっていた様な記憶がある。そういう物なのであろうか？

取り敢えずも俺はここを脱出しなければならない。身体を労わるとか夜風がどうのこうのと言ってるところではない。

返事も出来ないただの屍になってしまうではないか。絶対に認められない。それだけは認められないんだよね。

尻の痛みも落ち着いたし、足もくじいたりしていないから歩行は困難ではない。乳酸がたまってしまうのは気になるが、屍よりかはマシである。

俺は先に進むんだ。立ち止まるな俺。歩き続けるんだ。

洞穴スライムから逃げたり、洞穴蝙蝠から逃げたりしながら俺は進んだ。途中、転んだり、挫けそうになった事もある。

それでもくさらず、諦めませんでした。そして俺はついに洞穴の最深部であろう洞穴の湧き水の泉に着いたんだぜ。

逆じゃあないか。そうだよ。おかしいなと思ったもん。なんか下って行っているなと途中で感じていたもん。俺の感覚は間違いない。

泉である。

俺はそこいらに落ちていた小石を中にinしてみた。
溶けない。

ならば金属はどうであろうかと探してみたけれども、俺は全裸である。ない物は無い。洞穴に、これまた都合よく金属片が落ちている事もないだろう。

そも石で水がアルカリだとか酸性だとか判別できるのかは知らん。知らん事は知らん。

ならば水を、この水を飲んでもいいじゃないか。もうゴールしてもいいじゃないか。

俺は水を手ですくう。冷たい。熱くないということは強烈にpH値が偏ってはいないと思う。皮膚が溶けないし。

口に運んでみる。うん、うまい。そうそう、これだよ。これ。こ
ういうので良いんだ。まさに水って味の水だよな。

俺何度も何度も水を口に運んだ。途中、面倒になった。誰も見てはいないのだ。犬飲みと言われ顰蹙をかおうと構わない。俺は泉に顔を入れ、ガブガブと飲む。息苦しくなったら顔をあげ、また再開する。

満足した。そうすると今度は身体が砂埃で汚れているのも気になるな。

行水しますか。そうしましょう。腐女子の皆さん。ハイパーサービスタイムですよ。

俺はセクシーっぽい感じで泉に足をいれ、着水。

そして沈没。予想外に深いです。あばば。俺は、泳げ、ないの、です。

「あなたが落としたのはこの、目からビームを出せるあなたですか。それとも左手が電気ドリルになっているあなたですか……いい……いい……だ！？」

シムラー、下、下ーッ!?

「こんなもんいらなかったやー」

ええっ!?!何事ですか!?!……むう?

ブホッ、ブブブッホッ!!

水中で排出された俺の生活排気ガスは上へと登り、俺はその推進力で水面を飛び出したのだ。

シンクロの様に、漫画の様に、俺は飛び出し、着地をしたのだ。現実が作り物を凌駕した瞬間である。ちなみにお小水は生理的生活排水である。放水開始と言いながら排水すると少し楽しいんだぜ。

「あつ、オリジナルが帰ってきたによ。冴えない男によ」

キューーン

着地した俺に近寄ってくる両腕ドリル俺と猫耳俺。

ドリルもドリルで気に食わない所があるが、猫耳はまずない。モイキーもんでしょコレ。

まず俺に猫耳を着けたのがダメ。センスの欠片も感じれない。俺に(猫耳とかドリルを)着けて、(オリジナルに)勝ったってしたいだろうし。ていうかアイツ(猫耳)放送禁止でしょ。

「あなたが落としたのは」

もついいよ

「もついいです」

キュイーン

寂しくドリルの回転する音が洞穴地下泉に響いた。

俺らはそれからドリル俺という犠牲を出しながら洞穴を脱出した。
ハイライトでどうぞ

「もういいとか……ひどいッ！！　へそ曲げちゃうぞぶんぶん」

「猫耳ツ目からビームだ」

「目からビームッ」

「ぬわああああ……ぐふっ」

キュイーン

「ドリルッ！！　君はッ！！　穴を掘るッ！！　徹底的になッ！！」

キュイーン

「によによ女神しゃまが灰になったによ。当然によ」

「偉いぞ猫耳」

ギューーン

「によによドリルしゃんが、ヤバげな音を発してるによ。猫耳しつ
てるによ。あれはオーバーヒートによ」

「な……なんだと……」

ギューーン

「頑張れッ頑張るんだドリル」

「頑張るによ」

ギユ、ギユ、ギョーン

「あれは光によ。地上が見えてきたによ」

「やった。もう少し頑張ってくれドリル。もう少しだ」

ギョ……ギョ……プシュー……ボッーン！！

「ドツリイール!？」

「ドリルちゃんが、爆発して木っ端微塵によ……ドリルちゃん」

男 生存

中

ドリル……ヤムチャしゃがって。

ドリル決死の行動により助かった俺らは俺のコピーなのに地理に詳しい猫耳のおかげで迷わず最寄りの街へとたどり着くことが出来た。

道中魔物やアーツらくれに襲われたりもしたが猫耳が目からビームで何とかなったんだぜ。

で俺らは今、その街の入り口にいるんだぜ。

「着いたによ。ここがオオサカシティによ。オオサカシティはこわいによ、ひどいによ。」

ちょうはんざいとし オオサカシティ

ここには へいわも ちつじょもないによ

あるのは ぼうりよくと 死 だけによ

によつによつによつオリジナルしゃんは生き残れるかによ」

ドリルの犠牲を嘆いている場合ではないッ！！

俺はまだまだ旅の途中だからなっ！！猫耳の脅かしに負けてる場合じゃないぜ！！

「いくぞ猫耳ッ！！」

「はいによ」

明日ヘッ！！ 向かってッ！！

完ッ！！

オオサカシティ圏内に無事にinした俺たちは今、電車でがたと揺られております。キセルではありません。超犯罪都市の流儀で乗車いたしました。

恐いです。世紀末ヒッターな人たちがヒッターしております。ゴリマッチョな上半身裸に近いナイスミドルがヒッターを掴んではグルグル回りながら脳天釘打ちして、汚い花火がそこいらで上がっております。

ぼくはそれを視界に入れない様に窓からの景色を眺めているんだ。地下鉄なんだけど。

でも外は外で地獄絵図に近い。高速と言えば言い過ぎだけでも、電車ってあの重量でおそろしい速度出せるよね。重量+速度＝パワー？そんな感じ。で、そのパワーでどんな人を、ね。

やっぱしさ、電車って、先頭がいいじゃん。で、運転席はどうなっているのかな、とワクワクして見ていたら、やばかったのよ。後ろから、前から電車来ているってのに普通に地下鉄の線路を歩いているの。おかしいよね。

おかしいついでに車掌さんも車掌さんでNOブレーキとか。おかしいですよ車掌さん。

前門の虎、後門の狼。

見たくなくなって下を向いていたらゴリマッチョ入場ですよ。バトルおっぱじめて、さ。

やめてー、私の前で争わないでーッ！！

なんとか耐えた。耐えに耐えた俺たちはオオサカシティの繁華街に近い駅に到達してオオサカシティ流に改札を抜けたら、白い学ランを着た熱血硬派の人が「なめんなよなめんなよ」と言いなが

ら通行人をジャンプキックしながら薙ぎ払っていった。それをみて
ぼくはオオサカシティがとてもこわいところだともいいました。

死にたい人にオススメのオオサカシティ

・ホテルのラウンジなら大丈夫だと思ったら、学生に「ええこと
しよか」と喧嘩うられた。

・オオサカシティでボコボコにされる確率は150%。ボコボコ
にされる確率が100%で、駆けつけた警察官にボコボコにされる確
率50%

・虎キチ幻想があるためキョジンファンほど危ない。

・おとなもこどもおねえさんも虎キチ。

そんな死にたい人にオススメの街、オオサカシティ

俺たちはそんなオオサカシティ内にある観光施設オオサカシティ
道の駅ワニナの無料休憩所を拠点に生活をしているのだが。

「生活費がありません」

「それは大変によ」

「ですので、ハローワークギルドへ行って来ました。簡単なお仕事
はないかと血眼になって探しました。ようやくと見つけました。俺
が発見したのです」

クエストランク：G

内容：簡単なお仕事です。生活保護を申請するお仕事で細かい所
は当社スタッフが親切丁寧に行います。

報酬：成功時は支給される生活保護費の10分の9を各種手数料
として除いた額をお支払いいたします。

失敗時は誠意を見せてもらいます。

クエストランク：G

内容：貴方も地球市民になりませんか？グローバルでボーダーラインのない平和で幸福の新時代を目指す最先端なお仕事です。

火炎瓶、マスクの作り方やデモの仕方などが学べます。

報酬：すずめの涙

「この二つならどっちが良いかい？」

「どっちもダメダメによ」

「そうかい」

ですよねー。となると、最後はこれかな。

クエストランク：クエストランクは本当はSSSだけど面倒だからB

内容：アイツをぶん殴ってやりたい

報酬：名誉

「行ってくるぜ」

「によ！？間違はなくブラックによ！！ゲロ以下の臭いでプンプンによ。待つによ！？」

俺は風になった。自由な風に。

宿泊施設を飛び出し、ハローワークに行った。

だけれども、君はもういない。

ロンリーウィンド

さびしい気持ちは誰にでも

オンリーロンリー

職がただ欲しいだけなのさ

さびしい気持ちがポポポー

オンリーロンリーウィンドウーッ

お聴きいただきました。俺の脱ニートウィンドです。

この曲はですね、目を付けていた案件がタッチの差で済みスタン
プが押されていた時の気持ちを表した曲でしてね、実にね、「ふ、
ふん。所詮はブラック企業だったんでしょ。わかるんだからね。く
やしくないんだからね、これっぽちも」というね負け惜しみがとて
も上手に表現されていて、それでいてとても古臭く、ダサい歌詞で
とってもウンコです。ありがとうございました。

ええ。ハローワークに行ったら、もう採用されたとかでなくなっ
ていました。しょうがないのでそこいらにあった求人を探み受付け
て手続きしました。

これが、その後あんな事になるとは誰も知らなかったんです。

ハローワークギルドから支給されたギルドPodタッチを操作し
て俺のステータスを確認してみる。

名前：俺

ランク：金魚の糞

実行中クエスト：1 / 1

完結クエスト：0 / 0

スキル：幸運 食あたり回避 予告ホームラン

詳細はパネルにタッチすると見れるとか言っていたので、俺はせっかくだからこの金魚の糞をチョイスするんだぜ。

金魚の糞：ただただぶら下がっているだけの糞のやくにもたたない存在である事。

次ランク「野糞」まで200ポイント必要です。

……せっかくだからハローワークギルドについて説明すんぜ。

あれだ。お願いしたい、こういう人材が欲しい。そういうのをまとめて取り扱うのがハローワークギルドの仕事なんだぜ。

でポイントっていうのは実績だ。ギルドの人が依頼内容を見て独断で決めるんだぜ。

花屋の店番とか飲食店接客従業員とかの長期の場合は少ないポイントが定期的に振り込まれるんだぜ。だけれども勤務態度が悪い、内部規則に違反したとかで解雇されたとか減給されたとかで、苦情か報告がハローワークギルドにきた場合はがつり引かれるシステムらしい。両者に聞き取り調査を行ってから減ポイントを決めるから、これこれこれならポイント・はこれね、とかそういうのは無いから、決定には時間掛かるお役所仕事なんだぜ。

逆に不当な扱いを受けた場合はどうなのかと聞かれたら、やっぱり調査して、場合によってはハローワーク経由で誠意が届けられるらしいのだが、誠意ってなんだろうね。

まあポイントがたまれば実入りの良い仕事を斡旋してくれたり優遇してくれるらしいし、場合によっては尊敬されるらしいぜ。

長々と説明したけれども、簡単に言うって派遣業。派遣先によっては正社員雇用も考えるよ、という話だ。

で俺も派遣デビューというわけだ。地面はコンクリアスファルトで、建物は鉄筋のくせに、こういう所はファンタジー風なのはいいかなものかと思えます。

ギルドPodタッチがあればバスは無料というので、さっそく乗ってみました。

中は中々広い。座席は結構空いているので座ってみる。腰が沈んだ。高いソファーというレベルではない。

これはまるで一流ホテルのラウンジのソファーの様な快適と高級感が同居しているまさに座る高級癒し空間と言っても過言ではない。大企業の重役たちが味わう感触もこのようなものだったのかもしれない。

まあ、公共交通機関の一バスなんすけどね。所詮は。所詮はいつても、おめーのところはどうなの？と聞かれたら、そりゃかないませんよ、となるよね。とうちゃん悔しくて涙でてくらあ

バスで移動することおよそ三十分。ギルポで降りる位置を確認して降車。バスストップは魔王組前停留所でございます。

長い塀におよそ25mほどの距離で設置されている監視カメラの様なもの。

これは間違いなく富豪の予感。高待遇が期待出来そうでございます。

そんな風に思っていた時期がつい先程までありました。

カタギの方たちではありませんでした。

黒に縦シマグレーのシャツ。金のネックレスとグラサン。僅かに見える胸元は筋肉でコーティングされたたくましい肉体。

前自体的なのか指の本数が左右違います。ケジメなのでしょう。最近加入したと言われるスケルトンのケンさん。ケンさんの小指

の骨がありません。

「これですかい？　たいした理由ないんですけどね」

そういつて彼は自分の右の手の小指のあった所を撫で語り出した。

……

……

…

「とうさーん、お肉切ってちょうだい」

「あいよー……か、かてえ……んっ……ぬわぁー」

「と、とうさん！？何が、……とうさんの指が……凄く分離しているッー！……だと？」

…

……

……

良かった。指をつめた人はいなかったんだね。

組長とか若頭とか親父とか、そういう方々と会う事もなく、豪勢な食事とねえちゃんて歓待を受けるといふ事もなしで、玄関で雰囲気のあるお兄さんに依頼内容の細かな説明を受け、ここでの用事は終了。そりゃあただの使いぱしりですもんね。

ならケンさんで事足りるではないかと思う俺の感覚は間違っっていない。

依頼通りにアイツをぶん殴ってやるために、俺は指示された地下組織と接触する為にバスを乗り継ぎ西へ。

そこには懐かしい顔がいた。

魔王博物館という古臭く薄汚れた建物に彼女はいた。

そう受付嬢さんである。あいも変わらず顔色が悪い。もう少し健康そうだったら嫁の貰い手も引く手数多だと思う。まあ、既婚かどうかは知らないけれどもね。

「お久しぶりです」

「入場券はお餅ですか」

「わからないです」

「お餅じゃないんですか」

「餅なんですか？」

「でしたら、入場券はお餅ですか」

「わからないです」

「お餅じゃないんですか」

「わからないです」

「でしたら、入場券はお餅ですか」

なにそれ。こわい。

薄暗い照明の中でただ一人埃のつもった受付カウンターに座り、壊れたレコードの様に同じ事を口に繰り返す彼女がとてもこわい。よく見ると、部屋の隅にも埃が溜まっているし、天井の隅には蜘蛛の巣がある。

俺はアイツをぶん殴って、そつと帰ろうとした。

「正気に戻りました」

殴る前に正気に戻りました発言とかないわあ。でもお仕事はお仕事ですので、殴るんだよね。

ていうか、もうね、済ましたんだよね。なう。それ系で。

うん。激怒するよね。だけれども、いちいち激怒してたら、ね。

それは先につながらないし、どうなのって思う。

俺はそうされたら怒るけどね。

「どうして殴られたのか詳細に説明を求めたいという気持ちはありますし、殴り返したい、むしろそれ以上にどうにかして殺りたい。けれども、まあ、それは正気に戻してくれたプラスマイナス0にしても構わないですけども、む？ むむう！？ あなたは」

「ども。お久しぶりです。んじゃあ、ちょっと忙しいのでさよなら」

俺は仕事も済ませたし、後は報告して、給金貰って、猫耳と外食でもしたい所だ。虚偽の報告をしても監視つけているから無駄だと言ってたし、全力でぶん殴ったのでたぶん条件通り満額支給されると思う。

俺、給金入ったら缶ビールと熱々の焼き鳥で豪遊するんだ。

……が、ダメッ！！……ダメだ……ッ！！

この受付嬢が後ろから強く掴んでいる俺の肩から手を離す確率は……ほぼゼロ……ッ!!

この時、気がつく。この仕事は楽な筈ではなかったのかと。予想外に高難易度だという事を。

少し考えれば解る事だ。

EでもFでもなくBクラスの案件。それも実入りが良くて、シンブルな求人内容。

それが今まで残っていた意味を、少しでも考えれば解った筈だった。

しかし、俺は怠った。表の報酬に目を眩ませ、裏の意味を知ろうとしていなかった。

これは初心者キラの依頼。無防備な初心者を一方的に葬るための篩だ。

まだ大丈夫。俺は気がついた。まだリカバリーは……可能だ。まだ致命的でもない。

慌てなくても良いわけではないが、這い上げれる。

いや、俺は這い上がる。

俺は肩に手を伸ばし、受付嬢が掴んでいる手にそつと上から手を重ねた。脇とかそこいらの筋肉が痛い但我慢出来る。

「すまなかった。逃げないからその手を外しておくれ」

「本当か」

「ああ」

彼女がゆっくりと手を離してくれたので俺も約束を守ろう。

俺は振り返り、今度は両手で彼女の手を包み、情熱的に彼女を口

説いて見た。

「好きだ。だからやらないか」

下

大人はいちいち何があったかなんて語らないのさ。

コーヒーの良き香りで目覚めた俺に気がついた彼女ははにかんだ笑顔でおはようと挨拶をしてきた。

俺もおはようと返し、起き上がると卓袱台の上に二人分のモーニングが用意されている。

炊きたてのご飯に味噌汁、ブレッドにコーヒー。和洋どちらにも対応出来る、まさに大人の気遣い朝食だ。

いただいてもいいかなと彼女に聞くと彼女は小さくうなづく。

俺は立ち上がり卓袱台へと向かおうとした所で気がついた。大人がこんなにちわどころではなくて、フルオープンだ。

俺はやれやれと思い、煙草に手を延ばし一服した。

さて、いまさらながら俺は全裸である。全裸でなかった時間の方が少ないという事実はあるが、そも大人である自分は全裸というスタイルになんらこだわりはない。良い大人は何を着ても似合ってくれるものさ。

たとえ、それが、女物であろうと、な。

俺は卓袱台の彼女の向かいに座り、彼女がつくってくれた朝食をいただいた。バタートーストを頬張り、味噌汁をいただく。

味噌汁が美味い。それにしても俺は根っからの日本人なんだよなあ。味噌汁に舌鼓をうち、満足ある朝食だった。

俺は立ち上がり、彼女に別れを告げる。

「もう……行くの」

「ああ」

「さつさどこにでも行っちゃいなさいよ」

「世話になった」

「バカア」

彼女の眼から流れる、悲しき汗を見えてない振りをしながら俺は彼女の家から出た。

公共交通機関を乗継ぎ俺は依頼主の下へ戻り報酬を受け取って猫耳の待つ無料休憩所へと向かった。

だが猫耳は冷たくなっていた。線路に横たわる猫耳。

誰が猫耳をこんな目に……ッ！！

「にゃ……によ」

空耳だろうか。既に冷たくなっている猫耳が俺に話しかけた気がする。

しかし猫耳は既に生き絶えていた。きっと最後の奇跡なんだろう。ありがとう猫耳。ありがとうドリル。君たちの事は忘れない。

俺は俺の好きだった煙草に火をつけると、それを猫耳の脇にそつと置いて、線路から離れた。

俺はその晩、ホテルの高級BARで俺の好きだったホッケの煮付けで一人追悼していた。

俺が好きだから、あいつらも好きだろう。多分。

あいつら良いやつだったよな。俺だからな。

「隣空いてます？」

「すまな……」

う、美しい!!

俺はその晩、追悼の意を込めて、一つウエノ男になった。

翌朝。それはバツサム嬢の毘だと知った。

だが大人はそんな事では動揺しない。本当の大人ってのは心にもゆとりがあるのが大人ってやつだぜ。

ゆとりを見せぬ様に話を聞いていたら、なるほど。そんな事が起きていたのかと色々知る事が出来た。

曰く、

・俺が亡くなってからハーさんがクーデター通称ヤンデターを起こし、魔王軍と激突。魔王軍は敵の卑怯な攻撃に惜しくも敗れた。

・敗れた魔王軍は解散し、それぞれの生活へ。

・バツサムさんは幹部だった為に執拗に狙われるが、協力団体の所で保護された。

・後にハーさんら建国。大ヤンデル帝国となる。ちなみにオオサカシティも大ヤンデル帝国内。

・ヤンデル領土拡大の為に人間らへと宣戦布告。勝利。

・それから800年ぐらい立ったのが現在。

・あの当時の仲間は全員殺られた。

・悔しいからお前ちよつと殺ってきて。

「……そうか」

良い大人は良い女の頼みを断らない。
それが男つてもんだろ。

「うぉー」

「ぬわぁー」

そして俺は内閣府のある建物に襲撃をかけ、襲いかかってくる警備員、代議士、代議士秘書をちぎってはなげ、ちぎってはなげ、ついに憎きハー帝王を追い詰めた。

「お、お兄ちゃん……なんでこんな事をするの」

「それは俺が良い男で、勇者だからだぁぁぁーッ!」

皆、俺に力をッ!!

（いやぁぁぁー）

ウザシスター!!

（アフリーではヨクある事）

親切な人!!

「みなぎってきているッ!」

ああ、皆の無念が……。

服をくれた親切な人、公園の先輩、バッファローガールにヨンゴ
ー、四天王の皆ッ!!

（ギュイーン）

（によによ。オリジナルしゃんの不快指数がうなぎ登りによ）
ドリルに猫耳もツ！！

皆の思いが重なったッ！！

だがいらねえな。

大人ってのは自分の力で道を切り開いて行くのが、本当の大人なんだぜ。

俺はアイツをぶん殴ってやった。

働きたくはないという気持ちに嘘偽りはない。

稼げる人が稼げばいいのだ。男が稼いでこい、女が社会進出だとかそういうのはどうでもいい。稼ぎが悪ければ共に働けばいい。そういう事だろう。

俺はあれから指名手配されました。

けれども嫁脅威の魔術力で捕まる心配はありません。

流石嫁です。

俺は今も昔も無職であった。無職というと語弊がある。

ヒモもしくは主夫です。それでも俺は幸せです。

図鑑

001：俺

俺は俺であり貴方ではないと思われる。

002：アスファルトスライム

アスファルトは溶かさない様に品種改良されたスライム。

003：父

俺の父。時の流れが違うので現在も元気に会社勤め中。息子を喪った悲しみも癒えてきている。

004：キングアスファルトスライム

アスファルトスライムのキングサイズのアスファルトスライム。質量保存の法則とか何それ？

005：洞穴

本当は洞窟だけど主観では洞穴だから、洞穴。

006：名もなき洞穴スライム

洞穴にすむから洞穴スライム。

007：名もなき洞穴蝙蝠

洞穴にいたから洞穴蝙蝠。洞穴スライム、洞穴蝙蝠ともに出番はあれだけである。

008：洞穴地下泉の女神

物を投げ入れると出て来て人を試す何だか嫌な水の精霊。精霊なのに人からは何故か泉の女神と呼ばれるが、本精霊は満更でもない。

009：ドリル俺

両腕ドリルの俺。洞穴地下泉の女神脅威の科学力で作られたワンオフ俺。ドリル俺の最後は全青森県民が泣いた。

010：猫耳俺

どこかで見たキャラのコスプレをした俺によ。ベルマーレ征服するによ。湘南ベルマーレ？ベルマーレはベルマーレ平塚でしょ。ヴェルディは川崎。

011：オオサカシティ

モデルは初代熱血硬派とファイナルファイトであり、実在や同名の地域、都市とは関係ない。

012：ゴリマッチョ

市長

013：白い学ランを着た熱血硬派

ドッチボール部所属

014：道の駅ワニナ

オオサカシティ内の名産品を取り扱っている商業観光施設。ワニナの駐車場には多数の車中泊者や施設内の休憩スペースを寝床にする人が後をたたず、社会問題になりそうだ。

015：ハローワークギルド

ニートには縁のない場所である。

016：脱ニートウインド

作詞 俺

017：ギルドPodタッチ

小型情報端末の名称。主にGPodと略される。なお余談ではあるが「マンピーのGSpod」という歌は当時の人気アイドル、コールマン・ミツコ・ゲールのゴテゴテとしたGPodをネタに、彼女と仲の良いバンド聖ゲールオールスターが歌った曲である。ガールズPodとかゲールズPodとかの略だと勘違いしている人もいるが、それははっきりと否定されている。

018：スキル

能力。

019：魔王組

建築関連を手掛ける中小企業。

020：ケンさん

妻子持ちのチキンスケルトン。コロモが美味しかったです。

021：受付嬢

正体は暗黒吸血鬼で暗黒秘書のバツサムさん

022：高級ホテルのBAR

内閣総理大臣が行ってはいけない場所。

023：バツサムさんの罨

本当に良い男は引つかからない甘い罨

024：ヤンデター

ヤンデルが軍事クーデターを起こしたのをサイの国生まれという噂の外国人コメンテーターが放ったとほほなシャレが広まっただけ。

025：大ヤンデル帝国

帝国なのに民主主義。

026：代議士

ペテン師

027：ハー帝王

ハーピーのハーさんが出世した姿。大ヤンデル帝王の象徴。

028：その後の俺

主夫。子持ち。

その他02

そう言えば、俺の名前はなんだっだろうか？

長いことこちらにいて、自分の名前など意識していなかったから少々あやふやである。

生きる事に一生懸命だったからな。少し落ち着いたし、懐古趣味は無いが、ふりかえって見ても良いだろうさ。

小さい頃、俺は誰かに、た！た！かあいの時だッ！お前はあ、虎になれ！！とか言われた様な記憶が片隅にある。だが俺は人間である。虎になどなれよう筈がない。だから俺は虎ではなかった。

もう一つ。たしか負け犬？負け犬と呼ばれていた記憶もある。負け虎？そんなもんは無いかと思われるがチビッコの発想力は大人よりは断然上である。何かの拍子に俺は負け虎という不名誉な渾名をつけらてもおかしくはないだろう。だが、しつくりきてはいない。

負け犬？虎？負け犬？虎？

どちらかにしよう。俺は神様の言うとおりにした。負け犬だった。

負け犬である。うむ。今日から俺は負け犬である。

名前があるというのは素晴らしい。雑草、雑種、どこの馬の骨かわからんやつ？それらより俺という個はたったいま上になったのである。

気分がとてもよかった。俺こと負け犬は非常に気分がよろしかった。けれども奴がいた。天敵であり好敵手スライムである。

それも大量に。バックアタック、サイドアタック、挟み撃ちだ。

逃げたい。俺は逃げたいのだ。死にたくはない。俺と

いう個はとても気分が良かった。その良さを短時間で不快にされるというのは許さないし、

許されてはいけないものだと思う。水を差さないでくれまたえ君たち。

だから俺は脳内コマンドを呼び出してみた。もしかしたらコマンド

入力式のゲームで、その中に逃げるがあるかもしれないかと思っただけ、なかった。

無いけどもコマンドはあった。ならFF方式かと脳内コントローラをLR同時押してみた。

その瞬間、俺は風になった。

高速移動である。具体的いうと時速520km程。

耐えられるかって？無理に決まっているでしょう。

まけいぬドロボー 死亡

死因：ジェットエンジンから発生したGにより

能力：ゼロヨンチャンプRR-Zシリーズより

お腹が減ったのでキノコを食べた。大きくなった。

大きくなったからか、腹にまだ足りぬと野草も食べたら、手からファイヤーボールが出てきたので、これは都合が良いと思い野鳥を捕獲して、羽を筆したら、

背中にマントがいきなりあらわれたのでビックリした。そして手からファイヤーボールが出なくなったので、これでは鳥を焼けぬではないかとガッカリしたのが、前日。

今日の俺は一味違う。ははん。これはスーマリの能力で、野草にフラワーでも混じっていたんだね。

で、それを食べたからファイヤー俺になったのだと余裕で推理した俺。

昨日、野草を採っていた所で再度採取Andイトイン。

俺は毒草にでもあたったのか、死んだ。でっていう。

ドロボー 死亡

死因：毒草にあたった。
能力：スーパーマリオワールドより。

街に着いたらなんか列があったので並んでみた。

列が進んで、その先には受付があったので俺の唯一知っている単語ドロボーと書いて、案内されるままになんかの集会場らしき部屋に入った。

で、なんか説明が始まったので聞いた。

娘が結婚適齢期だから婿を募集するお。

でもこの馬の骨かわからんやつに娘はやりたくないお。

だからお前ら南の火山と北の洞窟に宝物置いて来たから取りに行つてこいお。

両方持つてこれた益荒男に娘をやるお。死んでも責任とらんお。うしし、これで全員全滅だお。

という事らしい。日本語で実にOKである。

というわけで俺は頑張った。金持ちだもんね、この娘さんらの家。なら頑張るよ。

洞窟の前で待ち伏せ、疲労困憊で帰って来た奴らを強襲し、身包み履いで、北の洞窟でも同じ事をした。

どれがその置いて来たのかは知らんから全部履いで持っていた。その中に無事あったらしい。

赤の宝石の着いたリングと青の宝石の着いたリングがそれらしい。

娘が姉妹でどっちかを嫁にやるとかいう話に進んで、嫁にしたい奴を選べとか言われた。

金目当てだからどっちでも良かった。悩んだ。

姉はともツンツンであるし、金遣いが荒そうだし、妹はあれだ。ナチュラルに酷い腹黒系のかほりがする。

うーん、どちらもなあって気分だよな。

悩んだ俺はオッパイのおおきい方をチョイスしようと思う。

うーむ。俺の紳士アイが作動。

なんとお父さんがオッパオ大きいです。肥えてる的な意味で。

それは冗談として、オッパオ大きい姉と婚姻する事にした。それから話はとんとん拍子に進んだ。

披露宴に初夜。色々あって、俺は実はとある国の王家の一人だったとかということがわかったりして、俺が王になった。それと嫁が妊娠したこともわかった。

で、戴冠式と嫁出産パーティーの後、嫁がさらわれたとかで救出に行ったら夫婦共に石にされた。

石像になった俺らは泥棒に持っていかれ、オークションにかけられ、夫婦バラバラに落札。

好色爺に買われた嫁と幸せそうな裕福青年に買われた俺。

よーし、パパ魔除けにこの石像落札しちゃうぞ、とか張り切ってるの。

もうね、見てらんない。お前はアホかと、バカかと。

ただの石像に何期待してんの？気休めですから。残念。

それから月日はたち、俺は石像のままだ。四季を何度繰り返しただろうか。そのうち俺は考えるのを止めた。

ドロボー BAD END

能力：DSドラゴンクエスト？

俺は魔王を倒した。

魔王は起き上がり 仲間になりたそうな目でこちらを見ている。

仲間になりますか
はい

魔王は馬車にかけこんだ。

.....

俺は金髪糞豚野郎を倒した。

「私を48ターンで倒すとは。まだまだだな」

俺たちは魔王の本拠地前に穴があった。ならinするんじゃないじゃないか。

魔王と魔王子孫にバツサムさんとスライムさんで突入した。ハーレムです。ヨンゴーさんとスライムさんにバツサムさん以外は既婚者だけだな。ヨンゴーさんも婚約者いるって言っし。
全員NTRましようルートですね。わかります。

で奥深くに金髪糞豚野郎がいた。

なんでだろうと思っただけでも、いるのだからしょうがない。

スルーしたかった。けれども俺は馬車の中。大魔王、バツサムさん、ヨンゴーの三人パーティーが馬車の外で敵と戦ったり、進行しているから馬車内の人には選択肢はまず与えられない。

つまり彼女らが金髪糞豚野郎を起こしてしまったのだ。面識ないってこわいね。

ドラムを何度もボカボカ叩く音で長引いているね、と窓から覗いて

見たら金髪糞豚野郎となんでかバトルしているの。

ええっ、とマスオさんばりに驚いた。マス驚きを勢いよくやり過ぎて尻餅ついた。その尻餅ついた先にスライムさんがいて、驚いたスライムさんが溶解液だして俺と馬車がジュツと溶けちゃったんです。

魔王らがそれに気がついたのは金髪糞豚野郎を倒した後だった。

ドロボー 死亡

死因：スライムの溶解液で。

能力：ドラゴンクエスト？より、魔物を仲間に出来る。

俺は新しい遊びを思いついた。

脳内コントローラーがあるんだから、脳内電源ボタンもあるんじゃない。色々やってみたら、案の定あった。

物はためしである。こんなクソみたいな世界だ。

仮に存在が消える事になっても、むしろ万々歳だぜ。俺はポチッと脳内リセットボタンを押すと俺は金髪糞豚野郎とテンプレ問答をしたあの空間にいて、同じ事を聞かされ懐かしい平野にもどって来たのだ。

俺はそれからリセットを繰り返し、高能力を維持しつつリセットを駆使しながら何度もトライした。

そして魔王のアジト付近最後の村でしっかりとセーブをして、魔王アジトに突入したがハーピーのスライム投下作戦で俺はあえなく撃沈するッ！！という所で脳内コントローラーでポーズをかけ、打開策を考える。

がない。

そこで、しょうがないリセットをおそうとした瞬間、世界は止まった。

男 フリーズ
原因：ネコアタック

尾張

その他02（後書き）

名古屋姫路城

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2710q/>

異世界例闘路芸夢遊戯

2011年6月13日07時21分発行